令和４年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業

（普通科改革支援事業）

研究実施報告書

第１年次

岩手県立大槌高等学校

巻　頭　言

岩手県立大槌高等学校　校長　継枝斉

大槌町と連携・協働した高校魅力化事業をはじめて４年、この文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」をはじめてあっという間に１年が経とうとしています。この間、多くの方々のご支援・ご協力をいただき、様々な取組を進めることができましたことに心から感謝申し上げます。

この事業を始める以前、平成 30 年の冬に大槌町において大槌高校魅力化構想会議が発足し、その時点から町と高校が協働して大槌高校魅力化が進み始めました。同時に平成 31 年度（令和元年度）から昨年度までの３年間、文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に取り組みました。東日本大震災津波に起因する急激な人口流出と少子化、それに伴う生徒数減少と高校統廃合問題、それらの解決策として始まった高校魅力化でした。町の復興の過程の中で、互いに助け合い、生徒も大人に混ざって地域づくりに参加し、生徒たちは学校の中の学習だけでは得ることができない力を育みました。地域や探究活動には計り知れない学びの機会があります。教員は、地域での学びや探究活動によって生徒がどんどん成長していくことを目の当たりにし、生徒も自身の成長をはっきりと認識し自分の発案が地域の何かを変えられることにも気づきました。生徒の資質・能力を育てるために普通科の枠を超えてこの地域協働や探究活動と言った学びの形を更に発展させることはごく自然な流れだと感じます。

こうした背景に接続して始まった本事業は、今年度３つのワーキンググループ（ＷＧ）に分かれてぞれぞれ活動しております。カリキュラムＷＧ、周知・広報ＷＧ、そしてＤＸＷＧです。詳しくは報告書の中で述べられますが、カリキュラムＷＧでは生徒の話し合いを数回行い、その後アンケート調査を実施いたしました。意外にも生徒たちからは学び直しをしたいという希望が多く出ました。また、周知・広報ＷＧは各学年の生徒たちの取り組み成果を町内の商業施設や文化交流施設に展示し、本校の取り組みの状況を地域の方々に見ていただく活動を行っております。この活動は来年度以降の学科再編に向けた布石となります。ＤＸＷＧでは、個別最適な学びに向けてＩＣＴを活用した授業実践を行っております。いずれは、大学のオンライン講義の受講の単位化等につながっていくものです。また、新学科を考えれば考えるほど、既存の普通科をどうするかという課題が避けては通れないものとなりました。新学科の科目選択の自由度が増せば増すほど、既存の普通科の不自由さが対照的にはっきりとしてくるのです。本校では、新学科の中で既存の普通科的な選択ができるように組み立て、新学科１つにまとめる方向に舵を切りました。

今年度のこの事業の活動がここまで形あるものにできたのは、忙しい中においても生徒と親身に向き合いながら、この事業を自分事として捉え進めてきた本校教職員と大槌町の役場の皆さん、大槌町議会の皆さんのおかげです。このチームだからこそやってこられたと強く感じております。

末筆になりましたが、地域協働や探究活動に不慣れな我々教職員の行き先を明るく照らし導いてくれた、３名のコーディネーターの菅野祐太さん、三浦奈々美さん、小野寺綾さん、そして高校側の無理なお願いも聞き、東西に奔走してくださった黒澤直美さんはじめ大槌町教委の皆さんに感謝を申し上げ、巻頭の言といたします。

目　次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅰ　研究開発実施報告（概要）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　令和５年度成果概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　事業完了報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅱ　研究開発の内容（詳細）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２５
１　会議関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２６
（１） 魅力化構想会議・コンソーシアム会議　・・・・・・・・・・・・・・・ ２６
（２） 運営指導委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２９
（３） 普通科改革研究協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３２

２　ワーキンググループにおける検討について・・・・・・・・・・・・・・・ ３６
（１）カリキュラムＷＧにおける検討について・・・・・・・・・・・・・・・ ３６
（２）ＤＸ等教育方法検討ＷＧにおける検討について・・・・・・・・・・・・・ ４３
（３）周知・広報ＷＧにおける検討について・・・・・・・・・・・・・・・・ ４６

３　学校設定教科「地域みらい学」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４９
（１） 三陸みらい探究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４９
　ア＊１年生の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５０
　イ　２年生の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６５
　ウ　３年生の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７８
（２） ひょっこり表現島（国語）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８６
（３） まちづくり探究（地歴公民）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８７
（４） くらしｍａｔｈ（数学）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８８
（５） おおつちラボ（理科）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８９
（６） Ｅパスポート（英語）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９０
　＊「総合的な探究の時間」で実施

４　目標の進捗状況、成果、評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９１
（１） 資質・能力調査について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９１
（２） ルーブリックを活用した評価について　・・・・・・・・・・・・・・・ ９４

Ⅲ　参考資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９７
　◇目標設定シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９８
　◇学科検討の報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １００
　◇学校評価システムによる評価結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０１

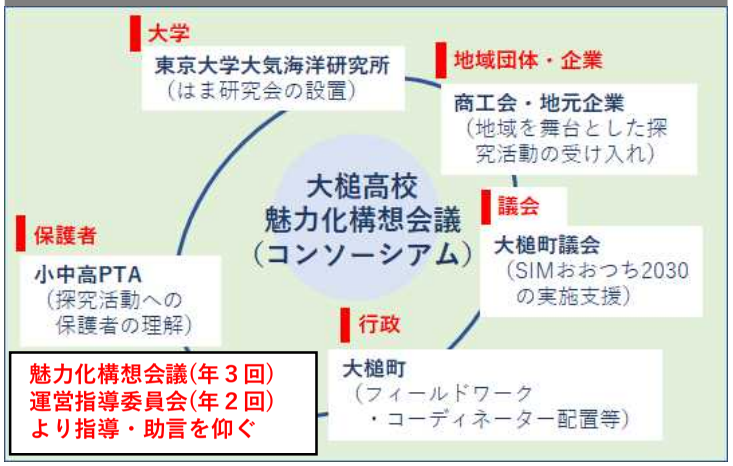
Ⅰ　研究開発実施報告（概要）

別紙様式５　管理機関名：岩手県教育委員会　　令和４年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

【岩手県立大槌高等学校】地域社会学科（設置 令和６年度予定）

事業構想	「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」を実現し、「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う魅力的な学びの環境を地域と共に創る
事業目的	・多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現 ・復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現
特色・魅力ある教育の概要	①生徒自らが選択・調整できる学び ②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる ③放課後等の学校外に広がる探究的な学び ④個別最適なリメディアル教育の実践

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和４年度の目標

①新学科開設に向けて校内体制の整備

ア）学び続けることの意義を実感できるカリキュラム開発

イ）ICTを活用した教育方法の検討

ウ）地域に向けた高等学校の取組についての周知

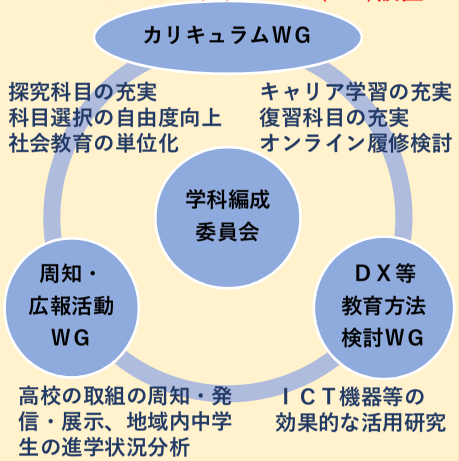
②地域を題材とした探究の実践と充実

③先進校事例の収集と情報交換の実施

④コーディネーターの有機的活用

取組状況

①全教員からなる３つのワーキンググループ(WG)設置



②地域を題材とした探究の実践と充実
・「三陸みらい探究」、学校設定教科の「地域みらい学」の深化を図った。

③先進校事例の収集と情報交換の実施
・全国の12校と交流を深めた。

④コーディネーターの有機的活用
・探究の企画、会議運営等あらゆる事業の推進役として、地域協働を推し進めた。

成果と課題

①全教員からなる３つのワーキンググループ(WG)設置
成果：全教員が事業に主体的に関わる体制作りの構築（全体）
生徒・保護者・地域の声を反映させたカリキュラムの検討（カリキュラム）
改革の方向性の明確化（カリキュラム）
ＩＣＴを活用した研究授業の実施、校務の効率化（ＤＸ）
探究発表会や取組展示等を通して、地域への活動周知（周知・広報）
課題：教員異動に伴う教員間の温度差を埋めるための円滑な取組の継承（全体）
カリキュラム完成に向けた関係機関との調整（カリキュラム）
実証振り返りと個別最適化を目指す授業の提案（ＤＸ）
中学生や保護者が新学科に関する理解を深め、魅力的なものと感じられるような周知方法の検討（周知・広報）

②地域を題材とした探究の実践と充実
成果：地域社会に暮らす人々と協働することで、自らの人生を切り拓こうとする生徒の増加
課題：地域課題がなぜ生じているかその背景について考える

③先進校事例の収集と情報交換の実施
成果：多くの学校と探究活動、教育課程、地域連携等について意見交換を行い、本校の教育活動にいかせた
課題：他校交流をさらに深め、先進校研究の進展

④コーディネーターの有機的活用
成果：探究カリキュラムの充実、地域と学校を繋ぐ役割を担った
課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネータースキルの教員への伝達

⑤高校魅力化評価システムの調査結果
成果：社会性に関わる項目が県平均を大きく上回り、魅力的な学びの環境を地域と共に創るという事業構想の具現化を確認
課題：詳細を検証し、今後にいかす

令和５年３月 31 日

事業完了（廃止）報告書

支出負担行為担当官
文部科学省初等中等教育局長　殿

（受託者）住　　所　岩手県盛岡市内丸 10 番１号
名称及び　岩手県知事
代表者名　達　増　　拓　也

令和４年７月８日付け、新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革事業）は、令和５年３月 31 日に完了したので委託契約書第 10 条の規定により、下記の書類を添えて報告いたします。

記

１　事業結果説明書（別紙イ）

２　事業収支決算書（別紙ロ）

（別紙イ）

事業結果説明書

第１　事業の実績

１　事業の実施日程（令和４年度）

（１）カリキュラム検討

事業項目			実施日程
第１回学科編成委員会（検討テーマとスケジュール確認）			８月 29 日（月）
第２回学科編成委員会（検討テーマ協議）			９月 26 日（月）
第３回学科編成委員会（協議及び報告）			12 月 22 日（木）
第４回学科編成委員会（報告と学科の方向性確認）			１月 26 日（木）
３つのＷＧ（ワーキンググループ）における検討			
会議	カリキュラムＷＧ	ＤＸ等教育方法検討ＷＧ	周知・広報ＷＧ
第１回	８月５日（金）	７月 28 日（木）	８月５日（金）
第２回	８月 18 日（木）	８月１日（月）	10 月５日（水）
第３回	９月５日（月）	８月 18 日（木）	10 月 13 日（木）
第４回	９月 20 日（火）	９月 21 日（水）	12 月 12 日（月）
第５回	11 月 17 日（木）	10 月 20 日（木）	12 月 19 日（月）
第６回	12 月 27 日（火）	１月 10 日（火）	12 月 26 日（月）
第７回	１月 24 日（火）	１月 24 日（火）	１月 25 日（水）
第８回	３月 15 日（水）	２月 17 日（金）	２月 14 日（火）
第９回	３月 17 日（金）	３月 17 日（金）	２月 20 日（月）

（２）管理機関による実施体制

事業項目	実施日程
第１回コンソーシアム会議（指導・助言・訪問指導） 令和３年度事業報告並びに令和４年度事業計画を協議、承認	８月２日(火)
第１回運営指導委員会（指導・助言・訪問指導）	11 月 30 日（水）
第２回コンソーシアム会議（指導・助言・承認・訪問指導）	12 月 23 日(金)
第２回運営指導委員会（指導・助言・承認・オンライン）	２月 27 日（月）
第３回コンソーシアム会議（指導・助言・承認・訪問指導） 令和４年度事業報告・総括及び令和５年度事業計画を協議	３月 20 日(月)

（３）高等学校における実施体制

事業項目	実施日程
三陸みらい探究「第２回オンライン探究連携授業」 連携校：山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校、 茨城県立小瀬高等学校、第一学院高等学校、島根県立吉賀高等学校、宮崎県立高千穂高等学校 参加生徒：256 名（本校と上記高校を合わせた８校の２年生） 講師：生徒の興味関心に合わせた社会人・大学生 13 名 内容：講師のマイプロジェクトを聞き、自分の活動に活かす	７月 15 日(金)
三陸みらい探究「マイプロジェクト・フィールドワーク」 発表生徒：58 名（２年生） 講師：町内の社会人 31 名 内容：プロジェクトテーマに関する体験活動、インタビュー	７月 20 日(水)
総合的な探究の時間「大槌発未来塾」 参加生徒：１年生 59 名　２年生 58 名 講師：三陸花ホテルはまぎく総支配人　立花　和夫氏 大槌町産業振興課　佐々木健介氏 塗師屋　谷藤　怜美氏 NPO 法人吉里吉里国事務局長　松永いづみ氏 大槌町スクールソーシャルワーカー　南　景元氏 一般社団法人 SUMICA 副代表理事　佐々木敦代氏 NPO 法人環境パートナーシップいわて　坂下　慶夏氏 株式会社ヘラルボニー　丹野晋太郎氏 宮城大学事業構想学群２年　君島　真叶氏 弘前大学人文社会学部２年　倉本　岳氏 内容：社会人や大学生による人生講話	10 月３日(月)
おおつちラボ「SDGs と岩手大槌サーモン」 参加生徒：30 名（３年生教養コース） 講師：大槌町産業振興課一次産業活性化班　黒澤勉氏	10 月 24 日(月)
三陸みらい探究「第３回オンライン探究連携授業」 連 携 校：山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校 参加生徒：119 名（本校と上記高校を合わせた４校の２年生） 実施内容：各校で実施している探究活動の中間報告	11 月２日(水)
総合的な探究の時間「SIM おおつち町内フィールドワーク」参加生徒：１年生（59 名） 役場協力：大槌町産業振興課、健康福祉課、生涯学習課、 企画財政課、協働地域づくり推進課 視察協力：大槌復光社共同組合、つつみこども園、 大槌町観光交流協会、(一社)大槌新聞社 大槌町郷土芸能保存団体連合会、(株)三陸鉄道 内　　容：大槌町の行政事業に関するヒアリング、地域課題 に関連する視察先での調査活動	11 月４日(金)
SIM おおつち「ラーニングジャーニー」参加生徒：１年生（59 名） 視察先：大船渡市、宮古市、花巻市、陸前高田市、気仙沼市、釜石市 内　容：自治体・民間団体の地域課題解決に向けた取組視察	12 月５日(月)

まちづくり探究「防潮堤建設是非の意思決定過程」 参加生徒： 25 名（３年生教養コース） 場所：安渡・赤浜の海岸、安渡公民館	12 月 13 日(火)
マイプロジェクトアワード岩手県 summit　参加者：１・２年生 18 名 場所：岩手県立大学	１月 22 日(日)
三陸みらい探究「“私が 18 年間で身につけた大槌と知見”発表会」 発表生徒：49 名（３年生） 内容：18 年間の学びを総括したプレゼンテーション	２月４日(土)
三陸みらい探究「第４回オンライン探究連携授業」 連 携 校：山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校 参加生徒：119 名（本校と上記高校を合わせた４校の２年生） 実施内容：各校で実施している探究活動のまとめ	２月 17 日(金)
探究発表会「私たちの“大槌”見てけでさフェスタ」 場　所：大槌町文化交流センターおしゃっち 参加者：学校関係者以外 230 名（町内 160 名、町外 70 名）、教職員 24 名、生徒 100 名 内　容：第１部「大槌町の課題解決アイデア発表会（１年生）」（生徒 54 名） 第２部「マイプロジェクト活動成果発表会（２年生）」（生徒 46 名） 第３部「研究協議会『小規模普通科高校の未来を語る』」 講　師：中川覚敬氏（文部科学省初等中等教育局教科書課課長補佐 ・前岩手県教育委員会学校教育室学校教育企画監） 酒井淳平氏（立命館宇治中学校・高等学校キャリア教育部長）	２月 23 日(木)

（４）運営指導委員会の体制

事業項目	実施日程
第１回運営指導委員会（大槌高校）	11 月 30 日（水）
第２回運営指導委員会（オンライン）	２月 27 日（月）

（５）コンソーシアム体制

事業項目	実施日程
第１回コンソーシアム会議（第 12 回大槌高校魅力化構想会議）（大槌高校）	８月２日(水)
第２回コンソーシアム会議（第 13 回大槌高校魅力化構想会議）（おしゃっち）	12 月 23 日(金)
第３回コンソーシアム会議（第 14 回大槌高校魅力化構想会議）（おしゃっち）	３月 20 日(月)

２　事業の実績の説明

（１）高等学校における事業の実施体制・管理方法

ア　事業の対象

学校名	岩手県立大槌高等学校	校長名	継枝　斉
学科の種類	地域社会学科	新学科の名称	地域社会学科（仮）
新学科の定員	80 名（40 名より変更申請）	設置年度	令和６年度（予定）

イ　事業の実施体制・管理方法

校長の下で、副校長とカリキュラム開発等専門家が事業の企画・運営の中心となり新学科設置に向けて準備を進めている。なお、校内には、全職員からなる３つのワーキンググループ（カリキュラム、ＤＸ等教育方法検討、周知・広報）（以下ＷＧ）を設置している。ＷＧで検討された内容は、校内の学科編成委員会で議論された後、職員会議で周知を図る。検討の進捗状況に関しては、岩手県教育委員会、運営指導委員会、コンソーシアム会議にそれぞれ報告し、指導・助言をいただいている。

ウ　各ＷＧの取組

令和4年度　ワーキンググループ(WG)所属一覧及び取組内容

◎WG長、○副WG長、□事務局

全体統括		校長　継枝　斉・副校長　竿代愛也		取組内容
1	カリキュラム WG	◎畠山　豪	○鈴木紗季	新学科のスクールポリシー策定 教科・探究学習のあり方検討 科目選択の拡充・弾力性向上の研究 進路保証できるカリキュラムのあり方検討 単位認定方法の研究 資質能力を基礎とした評価のあり方検討 評価ルーブリックの見直し
		□菅野祐太	赤﨑琢哉	
		野田啓志	田中貴広	
		遠藤宗啓	小田原理香	
2	DX等 教育方法検討 WG	◎近藤健一	○菊池竜太	自己調整学習領域 教科・探究学習のあり方検討 校務の円滑な運用（Teams等活用） ICTを活用した教員の授業力向上 （生徒とのコミュニケーション） リメディアルアプリの活用（ICT活用による学び直し） 特別な配慮を要する生徒の支援の研究
		□小野寺綾	阿部成浩	
		木村直温	相馬史弥	
		木村有里	吉岡信行	
3	周知・広報 WG	◎菊池直美	○伊勢美和	中学校への認知拡大 保護者・地域への広報・周知 学校説明会の企画の見直し 文化祭企画の見直し 探究発表会等の企画 地域協働についての研究協議会の企画
		□三浦奈々美	澤村勇一	
		村上百合子	菅原　準	
		菅野純大		

（ア）カリキュラムＷＧ

カリキュラム策定が役割である。７月より２月まで７回のＷＧ会合を実施した。７月から９月は他校の特色あるカリキュラムについて事例検討会を実施し、育てたい人物像を踏まえつつ新カリキュラム策定に向けての議論を進めた。10 月には、「大槌高校をさらに魅力的な学校にするためには」、「大槌高校のカリキュラムをさらに魅力的なものにする

ためには」をテーマに普通科改革に関する生徒ワークショップを２回実施。同時に生徒アンケート、ヒアリングを実施。１月にはデュアルシステム導入に向けて軽井沢高校、和気閑谷高校からヒアリングを行った。現在、これまでの研究を基に令和６年度開設新学科のカリキュラム完成に向けて準備を進めている。

（イ）ＤＸ等教育方法検討ＷＧ

指導場面や校内事務におけるＩＣＴ機器の効果的な活用研究が役割となる。８月から９月にかけてＩＣＴ活用案の検討を進めた。また、この間、デジタル教材の比較検討も行った。10 月からは、新時代に対応した生徒の学び方の検討及び教員の働き方の検討（校務の効率化）を進めた。１月から２月にかけては、５教科においてＩＣＴを活用した研究授業を実施した。今後は、実証振り返りと個別最適化を目指す授業を提案して行きたい。

（ウ）周知・広報ＷＧ

設置目的は、高校改革における情報を周知し、地域を協働するパートナーへと転化させることである。７月から９月にかけて地域内の中学生の進学状況分析を行い、今後の広報活動の周知対象の検討材料とした。また、コロナ禍によって、地域との協働機会や生徒の学びを保護者や地域住民に見せる機会が減少していることから、10 月の文化祭、２月の探究発表会における取組展示の実施を進めた。なお、この期間、町民施設おしゃっちやショッピングセンターでの取組展示を始めた。併せて町内施設を個別に回り、ポスター掲示の依頼を行った。今後は、町外にも掲示を拡大していく予定である。その他、高校の取組が広く見えるようにホームページやｎｏｔｅでの情報発信を積極的に行った。

令和５年度に向けては、中学生や保護者が新学科に関する理解を深め、魅力的なものと感じられるような周知の方法を検討していく。

（２）新学科設置に向けた検討内容

ア　新学科設置の検討理由

（ア）多様な能力・適性、興味関心を持って入学した生徒に応じた学びを実現するため。

（イ）Society5.0 における現代的な諸課題や DX、人生 100 年時代の到来など急速な変化に対応できる生徒を育てるために、教科横断的な学びや新たな学問領域に即した特色・魅力ある学びに重点的に取り組むため。

（ウ）地域社会に暮らす人々と協働し探究活動を進めることで、生徒が暮らす地域の魅力や課題を明確化し、今後の地域社会にとって何が必要かを考える学びの場とするため。

（エ）東日本大震災以降、人口減少の続く当該地域において、ソフト面の復興を果たすために、高等学校が地域を支える人材の育成と地域における社会教育の拠点施設としての役割を担う必要があるため。

イ　新学科設置に向けた検討内容

（ア）普通科２学級のすべてを地域社会学科（仮）とする。

（イ）地域を題材とした探究の実践と充実に向けて、総合的な探究の時間「三陸みらい探究」、５教科において探究的な学びを教科横断的に実践する学校設定科目「地域みらい学」を進学・就職希望にかかわらず学ぶことができる教育課程の開発を行っている。

（ウ）新教育課程編成にあたっては、探究科目の充実、科目選択の自由度向上、社会教育の単位化、キャリア学習の充実（デュアルシステム導入）、復習科目の充実（リメディアル）、授業のオンライン履修の一部認可を盛り込んだ形を検討している。

（エ）コンソーシアムと職員室に常駐する３名のコーディネーターの配置を構築しており、大槌町役場をはじめ地域の企業や東京大学大気海洋研究所等の研究機関、地域の小中学校や教育に関わるＮＰＯなどと連携や協働体制を強化している。

ウ　新学科設置による期待される効果

（ア）カリキュラムを見直すことで、多様な能力・適性、興味関心を持って入学した生徒が学習に対して意欲を持ち、生涯を通して学び続ける力の育成を図ることができる。

（イ）教科横断的な学びや新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組むことで、予測不能な社会においてもありたい未来を創造できる人材を育成することができる。

（ウ）地域社会に暮らす人々と協働し、地域社会の発展に関わることで、自らの人生を切り開く力を身につけることができる。

（エ）自立と社会参画に向けた生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な仕組みを整備することで、生徒が将来にわたって社会の持続的な発展に寄与できるようになるために必要な資質・能力の育成を図ることができる。

（オ）「学科」に位置付けることで地域を中心としたより深い探究的な学びの場であることを学校内外に周知するとともに、中学段階にある生徒の高校選択の材料とすることができる。

エ　学科編成に関する検討

検討場面・日程	検討内容
普通科改革に関する職員研修 （令和４年５月 16 日）	普通科改革支援事業採択（４月 15 日）、計画書提出（５月 13 日）を受けて、小学科普通科２学級のうち、１学級を地域社会学科（仮）、１学級を普通科とすることで検討を進める方向であることを確認・周知する。
７月定例職員会議 （令和４年７月 26 日）	全教員からなる３つの WG（カリキュラム、DX 等教育方法検討、周知・広報）を立ち上げ、検討に入ることを確認・周知する。
生徒全校ワークショップ（２回） ・ヒアリング・アンケート（１回） （令和４年 10 月）	生徒アンケートから、50%以上が「希望に合わせた科目選択制」を望み、特に文理コース（進学希望）所属生徒が探究的な科目を選択してより地域の学びを深めたいという希望が多いことを確認する。その後、教員・保護者の声を集めながらカリキュラム WG で今後の方向性についての検討を進める。
コンソーシアム会議 （令和４年 12 月 23 日）	委員から小学科普通科においても学校設定科目で実施しているより深い探究的な学びができるかの質問があり、対応できるような課程を検討中と回答。カリキュラム WG 中心に小学科を地域社会学科（仮）に一本化する検討を本格的に進める。
第４回学科編成委員会 （令和５年１月 26 日）	小学科普通科を設置した場合、科目選択の余地があまりないため、小学科普通科２学級をともに地域社会学科（仮）とし、進学・就職に関係なく科目選択の自由度を高める方向で進めることを確認する。教育課程編成については、カリキュラムＷＧを中心に進める。

オ　学科定員の変更

生徒ワークショップ、保護者、教員の科目選択を柔軟にしたカリキュラム編成を望む声に応え学科定員の変更を申請した。なお、申請時は、小学科地域社会学科（仮）１学級（40 名）、小学科普通科１学級（40 名）を設置予定であったが、小学科普通科を設置した場合、科目選択の余地があまりないため、２学級をともに小学科地域社会学科（仮）（80 名）とし、進路

（進学・就職）に関係なく科目選択の自由度を高める学科編成を目指すこととした。

カ　関係者への説明の実施

管理期間の岩手県教育委員会へは訪問指導の際、運営指導委員会及びコンソーシアム会議、学校評議員会へは、会議の際に進捗状況を報告している。なお、年度末の会議の際は、令和４年度の事業計画の報告を行った。

（３）カリキュラムの検討内容

ア　新学科開設に向けて特色・魅力ある先進的なカリキュラム開発

新カリキュラム開発はカリキュラムＷＧを中心に進めており、以下に検討内容を記載する。

（ア）探究的に学ぶ科目の充実…これまで本校で研究開発を進めてきた総合的な探究の時間「三陸みらい探究」、学校設定教科の「地域みらい学」の深化に加えて新規の探究科目の設定及び既存教科においても探究的な学びを深めていく。

（イ）科目選択の自由度向上…大槌高校として学んでほしい必履修科目を学んだ上で、進学・就職に関係なく生徒自ら学びに合わせて選択できる学校設定科目を準備する。

（ウ）社会教育の単位化…防災に関する学びや東京大学大気海洋研究所と連携した海に関する学び、地域でのボランティア活動等、社会での活動を単位化できないか検討していく。

（エ）キャリア学習の充実…従来のインターンシップの取組からデュアルシステムへの転換ができないか検討していく。

（オ）復習科目の充実（リメディアル）…生徒の基礎学力の定着への要望は強く、それぞれの理解に応じて個別最適化された学習の実現を目指していく。

（カ）授業のオンライン履修の一部認可…限定的にオンラインでの履修を認めることで、生徒の学び方に合うような履修方法を検討する。教室に入ることができない生徒の学びの保障や本校で開講できない科目について外部の授業をオンライン受講することが想定される。

イ　新カリキュラム開発の課題

（ア）科目選択の自由度が高まれば教員のコマ数が増加するため、小規模校の人員でどうカリキュラム編成するかが課題となり、加配が望まれる。

（イ）デュアルシステム導入にあたって、長期の就業体験受け入れ企業があるか確認が必要。

（ウ）オンライン履修を認めた際、授業に参加しない生徒増も考慮して慎重な検討が必要。

（エ）次年度に向けて関係機関と調整を行い、早期の教育課程完成を目指したい。

ウ　総合的な探究の時間及び学校設定科目について

（ア）地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

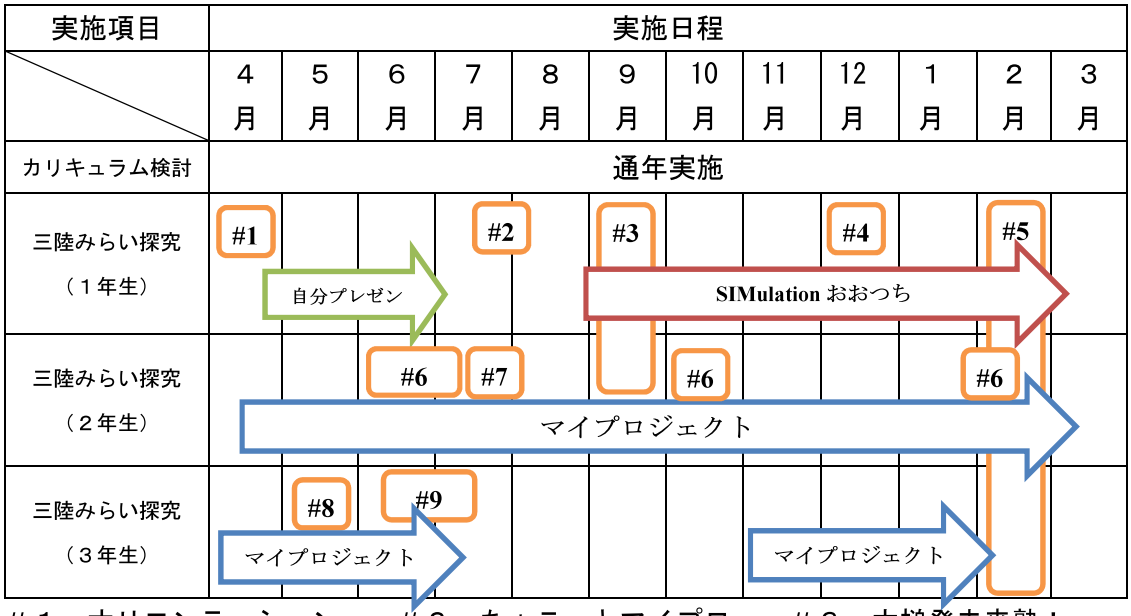
令和元年度より「総合的な探究の時間」の先取りで「三陸みらい探究（５単位）」という学校設定科目を策定した。なお、令和４年度入学生からは「総合的な探究の時間（５単位）」を設置している。また、令和３年度からは５教科においても探究的な学びを教科横断的に実践する学校設定科目「ひょっこり表現島」「まちづくり探究」「くらしｍａｔｈ」「おおつちラボ」「Ｅパスポート」を設置した。探究的な学びを実践する５つの学校設定科目では各科目の特性を活かしながら地域課題を考え、解決方法を模索・表現することを目的としている。なお、本校ではこれら５教科の学校設定科目を総称して学校設定教科「地域みらい学」と呼んでおり、新学科における学校設定科目の中心に置く予定である。

（イ）総合的な探究の時間、学校設定科目のカリキュラム開発体制について

地域連携は、地域協働学習実施支援員が中心となり週１回学年ごとに探究活動の進捗を確

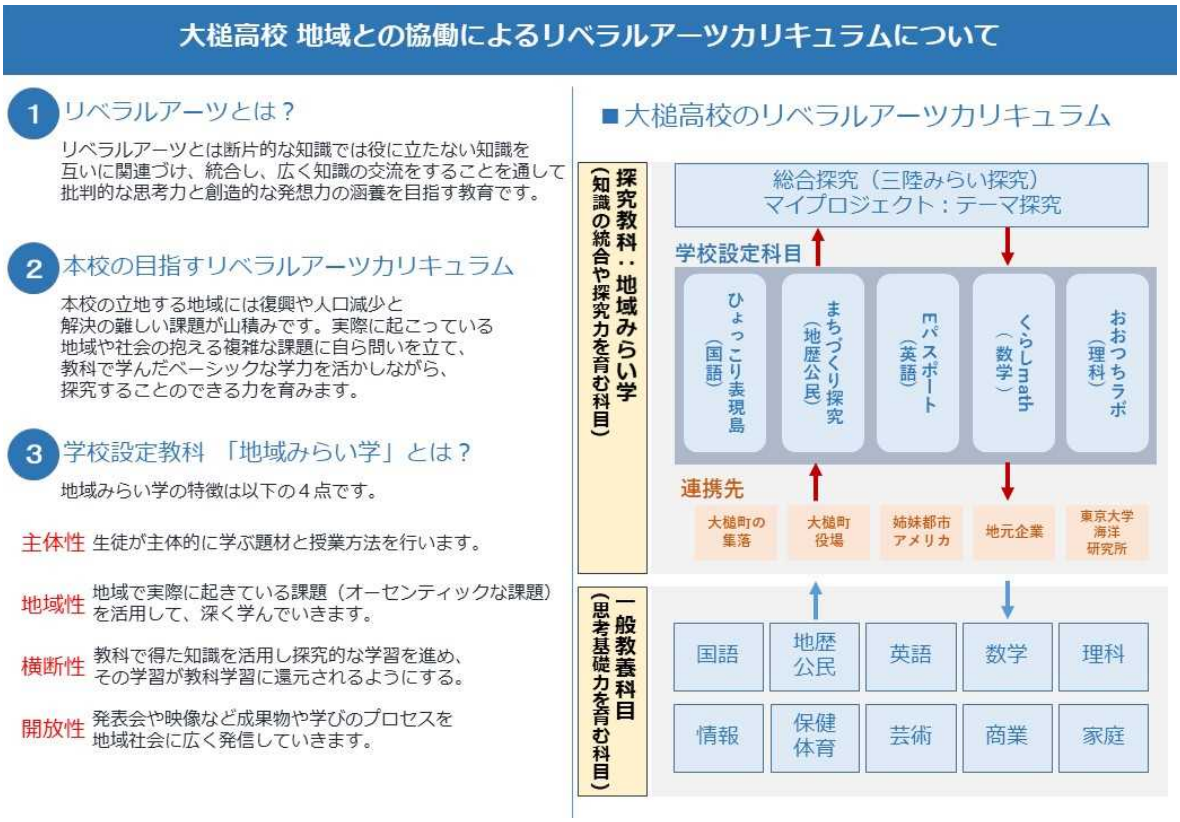
認・検討している。この検討には校内に配置されているコラボスクール（公営塾）のスタッフも参加している。５つの学校設定科目についても定期的に授業公開や教員研修会を開催し指導内容・方法を情報共有している。

（ウ）総合的な探究の時間、学校設定科目実施日程



＃１：オリエンテーション　＃２：ちょこっとマイプロ　＃３：大槌発未来塾！
＃４：ラーニングジャーニー　＃５：探究発表会　＃６：online 探究連携授業
＃７：マイプロフィールドワーク　＃８：職業インタビュー
＃９：アカデミックオンラインディスカッション

（エ）総合的な探究の時間、学校設定科目の内容について



①　総合的な探究の時間、学校設定科目「三陸みらい探究」による資質・能力の育成

［１年生の活動］　　総合的な探究の時間（２単位）で実施

時　期	内　容	各単元のねらい（連続性）
５月～７月	**自分紹介プレゼンテーション** 探究を進めていくために必要な課題設定力を育むために、自己発見・自己理解を通して自分なりの視点を獲得した。自分を紹介するプレゼンテーションを作成し、町内の中学生を校内に招いて発表した。	**［表現し内省する］** 相手に伝わるよう表現することを通して、自己を内省する。
８月	**１週間マイプロジェクト** 自分が普段気になっていることやチャレンジしてみたいことをテーマに、１週間で実施できるプロジェクトを企画し、アクションを通して解決できたことを振り返った。	**［課題解決の枠組みを知る］** 身近なテーマで小さなプロジェクトを実践し、課題解決の方法を知る。
９月	**大槌発未来塾！** 町内外で働く大人（大学生２名含む）10 名が取り組むマイプロジェクトを聞き、今後の進路や、地域社会との関わり方について考えた。	**［生き方を考える］** 他者の生き方に触れることを通して、自らの生き方について考える。
10 月～２月	**SIMulation おおつち** 理想とする町の姿を考え、町内にある地域課題の解決策を構想した。地域課題は、町の総合計画に掲げられた分野に沿って大槌町議会に設定していただいた。10・11 月には課題の理解を目的に、大槌町議会議員による講義や、町役場に対するヒアリング調査を実施した。12 月には解決策の先進事例を知ることを目的に、町外の自治体や民間団体を訪問し、フィールドワーク調査を実施した。２月に、議員や役場職員、地域住民に対して解決アイデアを発表した。	**［地域課題を知り、解決のための方策を考える］** 町内の地域課題を題材に、課題解決のための方策を考え、提案を行う。

［２年生の活動］　　学校設定科目「三陸みらい探究」（２単位）で実施

時　期	内　容	各単元のねらい（連続性）
５月～７月	**マイプロジェクト①テーマ設定** 短期間でのプロジェクト活動や大人への相談活動を通して、個々人の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定した。 **・ちょこっとマイプロジェクト** 個人で身近な題材から問いを設定し、１週間で調査を行い、得られた成果を報告した。 **・マイプロジェクト・フィールドワーク** 自分のテーマと似た活動に取り組む地域の方を訪ねて、体験活動やアドバイスをもらうフィールドワークを実施した。	**［マイプロジェクト探究に向けた課題を設定する］** 個人の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定する。
９月	**大槌発未来塾！** 町内外で働く大人（大学生２名含む）10 名が取り組むマイプロジェクトを聞き、今後のプロジェクトの発展や卒業後の進路選択に役立てる機会とした。	**［地域と探究を接続する］** 地域課題解決のモデルケースに触れ、マイプロジェクトに活かす。

９月～２月	**マイプロジェクト②課題解決アクション実践** 課題解決に向けたアクションを行いながら設定した問いを探究することで、課題解決を行う資質能力を総合的に育成した。定期的に成果報告の機会を設け、考えを相手に伝える力を高めた。 **・ゼミ活動（９月～１月）** 課題設定から解決策実施までの流れを繰り返した。テーマに応じてゼミに分かれ、教員が分担して生徒の活動を支援した。また 10 月には活動の途中経過を発表する中間発表会を校内で実施した。 **・オンライン探究連携授業（６月・７月・11 月・２月）** 山形県・栃木県・熊本県の小規模校とオンライン接続し、互いの活動について発表しフィードバックする交流活動を定期的に実施した。 **・最終発表会（２月）** １年間の活動の成果をプレゼンテーションにまとめ、町民の前で発表した。	**［アクションを通して課題解決を学ぶ］** 課題解決を行う資質能力を総合的に育成する。

［３年生の活動］　　学校設定科目「三陸みらい探究」（１単位）で実施

時　期	内　容	各単元のねらい（連続性）
４月～７月	**アカデミック・オンラインディスカッション（大学・短大進学、公務員希望生徒）** ２年生のマイプロジェクト探究で取り組んだテーマをさらに深めることを目的に、論文等を読みながら新たな問いを設定した。問いを深めるために議論したい専門家に依頼し、４～５人グループでオンラインディスカッションを実施した。 **職業インタビュー（専門学校進学、就職希望生徒）** 就きたい職業に必要な能力を理解することを目的に、生徒が関心ある職業人にインタビューを実施した。自分の現状と就きたい職業に必要な能力とのギャップや課題を把握し、今後身に付けたい力について構想した。	**［マイプロジェクトを進路に繋げる］** マイプロジェクトでの探究活動を軸に卒業後の進路を考え、必要な力を育成する。
11 月～２月	**18 年間で身につけた“大槌（ハンマー）”と知見** オープンダイアログや人生グラフの作成を通して、各生徒が 18 年間の人生で身につけた“大槌（ハンマー）”＝強み　を自分の言葉で表現した。また、身につけた“大槌”や知見をプレゼンテーションにまとめ、探究活動等で関わった地域の方をはじめ、これまでお世話になったになった方々に向けて発表した。	**［探究での学びを総括する］** これまでの探究活動や学びを整理し、自分なりの言葉で表現する力を身につける。

※課題や改善点について

ルーブリック評価については、生徒自身が目指したいと思う目標を項目として設定することが必要である。また、これまでルーブリックの項目数が多く、評価に多くの時間を要したが、ルーブリックを改善し、実用的なものとした。より目標に基づいた自己評価の機会を増やすなど、生徒自身が総合な探究の時間を通じて目指したい姿を考える等の工夫を行うなど改善を続けなければならない。

② 学校設定教科「地域みらい学」の実施

総合的な探究の時間の代替である三陸みらい探究を軸にして、５教科に探究的な学びを実践する科目を設定した。学校設定科目ではそれぞれの教科の特性を踏まえながら、必要に応じて科目を横断的に接続しながら地域課題探究に取り組む。

科目名 学年・単位数	今年度の取組	今後の取組
ひょっこり表現島 ２年生 ２単位	［他地域の生徒へのインタビュー調査］全国で使用される方言を調査し、学級内で共有をし合うことを通して自らの地域以外で使われている方言と比較しながら、自らが無意識に活用している方言について理解を深めた。また、調べた内容と実際の方言の運用のされ方の差異を調べるため、他地域の方言を調べ、日常的に使うか、どのようなニュアンスで使うか、などの問いをオンライン交流を通して調査した。 ［方言地図の作成］「かばすぐねえ」「こっこ」など、一人一語身近な方言の使用の有無、使用場面について全校に調査をし、居住地域による差異があるかどうかを分析し、レポートにまとめ、文化祭で展示した。今後、保護者や他地域の学校にも調査の協力を仰いだり、年配の方などにヒアリングしたりすることを通して、より正確な地域ごと、地区ごとの方言地図の作成を目指す。	・今後、地域の年配の方などのヒアリングを通し、疑問に思ったことを異なる年代に質問する力を醸成させるとともに、活動を通して学んだことをレポートや発表を通して表現する機会を作る。
まちづくり探究 ３年生 ２単位	４月から６月は、チームとして話し合うために必要なことや資料の読み解き方を学んだ。「都会と田舎どちらに住みたいか」「マンガの原作をアニメ化すべきか」というテーマで話し合った。６月から９月は、デザイン思考の方法を学んだ。地域の事業者の方をゲストに呼び、作業する際使いやすいペンケースのプレゼンテーションを行った。 ９月から 11 月は、学校の課題について考えた。問題と思われることを各グループでデータやアンケート等の根拠をもとに主張した。最終的に校長へのプレゼンテーションを行った。11 月から３月は、町の課題について考える。	・今後は、民主主義制度や人権など社会的な課題とからめながら、身近な町の課題や復興に関わること、意思決定に関わることを考える機会を作る。
くらし math ２年生 ２単位	前期は、「根拠を持って判断をする」ための演習として、客観的なデータや数値に基づいて判断をする場面（生活費、コマづくり等）や、最適解がみつからない問に対して複合的な視点で考える場面（求人票の比較, 宝くじの分析等）を設定し、学習した。また、データを用いて探究するための基礎技能として、グラフの活用・アンケート調査・Excel の扱い方について学んだ。 後期は、グループ毎に自由に問を立て、統計・データを活用し考察するレポート課題に取り組んでいる。「大槌町と塩分摂取量」「大槌町の遊ぶ場所と満足度」「大槌で再開された祭への参加」などの町と関連したテーマでレポートを進める班も出てきた。	・地域に目を向けることができているグループに対して、よりよい地域のデータを得ることができるようサポートする。 ・集めたデータから知見を得ること、そして次の問い・調査に繋げる部分の伴走をする。

Ｅパスポート ２年生 ３単位	前期で身につける資質能力をジブンゴト・課題設定と置き、ネイティブスピーカーの故郷であるカナダ・トロントに「留学をしてみる」ことをテーマに、E-Mail 文章、ホストファミリーへの自己紹介や持参するお土産やハンコを紹介するというプレゼンテーション資料の作成を行った。生徒たちは自分の伝えたいことを英語にして、英語を母語にする人にもコミュニケーションを取ることができることを学んだ。 後期は異文化理解をテーマにハロウィーンや感謝祭について学んだ。今後はクリスマスやバレンタイン、イースター（復活祭）について学習して、理解を深めたい。また、外国人に大槌や大槌高校を紹介する英文の作成も検討している。また大槌で生活する外国人を授業に招き身近にいる外国人について意識をする機会を設ける。	・外国人に向けた大槌の紹介映像やHPの英語版製作に取り組む。また、より身近なテーマについて英語で表現する機会を設ける。 ・コラボスクールの協力を得ながら姉妹都市であるフォートブラック市との連携を図る。
おおつちラボ ３年生 ３単位	「新型コロナウイルス」や「カーボンニュートラル」など、現在話題になっている時事問題をテーマに、論文や信憑性のある情報サイトから得られるデータを活用する方法を学んだ。また、日常生活の中での「便利/不便」に感じることや「不思議」なことから、調べてみたいテーマを設定し、仮説を立て、調べ学習によって検証する過程を学んだ。調べ学習で設定した仮説に対しては、自分なりに実験等を行い、データを活用した検証を行う過程を学んだ。 地域課題と SDGs に注目し、17 項目ある中の気候変動、再生可能エネルギー、海・陸の生態系等の理科的な到達目標に特化して調査を行った。まずは、国・大手企業・岩手県の取り組みの現状把握を行った。その後、町内のフィールドワーク（ジオ視察、岩手大槌サーモン養殖視察）を行い、取り組みの成果と課題について学んだ。今後は、自分の町をより持続可能にしていく視点を提案するため、他の自治体や企業で取り組んでいる前例を論文等から見つけ、効果の有無を検証し卒論ポスターとしてまとめる。	・郷土財エリアなどを題材に、ビオトープづくりに携わることで自然保全について考える機会となる授業を組む。 ・次年度以降も担当教員の専門性を活かしたフィールドワーク先を検討する。 （新山高原の風力発電施設、製造業種の地元企業等）

※課題と今後について　上記学校設定科目は教科書がなく、授業者が年間を通して試行錯誤を繰り返しながら探究的な学びを軸においた指導計画を策定するため教員の負担感が大きい。そのため、教科担任でチームを組んでの指導・教材開発を継続し、定期的に全体での検討を行い、科目の目標を確認しながら、より深い探究活動が行える科目にブラッシュアップを図る必要がある。また、受講生徒の特性に応じた柔軟なカリキュラム策定が必要となる。

（オ）探究交流授業について

小規模高校は地域資源と接続しやすいというメリットがある反面、自分と同様な興味関心を持つ生徒や教員と出会うことが難しいというデメリットがある。オンラインを活用することで学校の域を越え、同じような探究テーマで活動する生徒や、そのテーマに専門性を持つ大人と交流することが可能となる。そこで今年度は、マイプロジェクトを行っている小規模校４校が集い探究交流授業を行った。生徒の探究活動のジャンルごとにグループを作り、グループごとに発表・質疑を行った。次年度についても、小規模校等の連携を継続していきたい。

※連携校　山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校

（４）コーディネーターの配置および活動内容

ア　カリキュラム開発等専門家について

菅野祐太（本事業予算を使って認定 NPO 法人カタリバへの業務委託）　週４日常駐

活動日程	活動内容
毎月１回	・大槌高等学校の職員会議等に出席 ・魅力化の取組の進捗や運営指導委員会やコンソーシアム等開催された会議の内容を共有
不定期	・学科編成会議の協議進行 ・コンソーシアムによる魅力化に関する会議の企画・運営 ・ワーキンググループ事務局員として参加 ・町立学校コミュニティー・スクール等の会議に参加

イ　地域協働学習実施支援員について

三浦奈々美（町から認定 NPO 法人カタリバへの業務委託）　　週５日常駐

小野寺　綾（町から認定 NPO 法人カタリバへの業務委託）　　週５日常駐

日程	内容
毎月１回	・大槌高等学校の職員会議等に出席 ・魅力化の取組について共有
毎週１回	・１・２年生の総合探究の企画・運営 ・教員と打合せを行い、次回の授業方針を決定
年継続	・探究のルーブリック評価の構築
随時	活動の発表および紹介 ・地域の中学校を訪問し中学生に高校を紹介 ・来校者に探究活動について説明・紹介
令和４年７月～ 令和５年３月	・ＩＣＴ機器の活用・管理 ・オンライン探究連携授業の企画・運営 ・ワーキンググループ事務局員として参加
令和４年７月～ 令和５年３月	地域との協働による探究的な学びの企画・運営 ・「マイプロジェクト・フィールドワーク」、「大槌発未来塾！」、「SIM おおつち町内フィールドワーク」、「マイプロジェクトアワード岩手県 summit」、「三陸みらい探究」等
令和４年９月	・普通科改革支援事業の評価および集計・分析

ウ　カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付け

カリキュラム開発等専門家１名、地域協働学習実施支援員２名が職員室に席を持ち常駐している。入学者選抜関連以外のすべての会議に参加するなど、教員とともに教育活動を行っている。各学年に１人ずつ配置し、学年の活動に参加するなど、生徒の状況を把握しながら活動している。

エ　全国募集活動について

本校では「はま留学」という名称で生徒を全国募集している。コーディネーターが中心となり、副校長、担当教員、大槌町教育員会、生活支援員からなるチームとして動いている。年４回の地域みらい留学フェスタに参加している他、年２回のオープンスクールを開催し、

本校を留学生とその保護者に体験してもらう機会を設けている。なお、今年度は東京で行われた地域みらい留学フェスタに対面で参加した。

日程	内容
８月６日(土) ７日(日)	第３回地域みらい留学フェスタ
８月 20 日(土) 21 日(日)	第１回はま留学オープンスクール （参加者：各県の中学生と保護者　４組）
９月３日(土) ４日(日)	第４回地域みらい留学フェスタ
９月 23 日(金) 24 日(土)	第２回はま留学オープンスクール （参加者：各県の中学生と保護者　４組）
９月 24 日(土)	地域みらい留学フェスタ（ＮＹＣ：対面）

（５）管理機関による事業の実施体制や管理方法、支援体制

ア　管理機関による事業の実施体制や管理方法について

管理機関独自の予算措置を行うとともに、事業をきめ細かく実施できるように教員の配置等の人的支援を行い、定期的に学校を訪問して事業の進捗を確認し、必要に応じ指導助言を行う。

イ　管理機関における主体的な取組について

（ア）管理機関（コンソーシアムを含む）における主体的な取組について

本事業予算からカリキュラム開発等専門家１名の配置

（イ）事業終了後の自走を見据えた取組について

本事業により開発した研究内容について、事業終了後も充実発展させていくとともに、管理機関により、所管する高等学校へ広く周知していく。また、学校設定教科及び学校設定科目の実施について、適切な教育課程となるよう指導助言を行う。

（６）運営指導委員会の体制および取組

ア　運営指導員会の体制

氏　名	所　属・役職等	備　考
牧　野　　篤	東京大学教育学部 教授	教育専門家
佐々木　修　一	富士大学経済学部 教授	学識経験者
福　田　秀　樹	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター 准教授	学識経験者
久　坂　哲　也	岩手大学教育学部 准教授	教育専門家

イ　取組に対する指導・助言等の専門家による支援について

年間２回の運営指導委員会を開催。委員からは専門的な観点から活動計画や評価方法・検証等について助言をいただき、活動の改善を図った。また、三陸みらい探究における生徒の活動に対して指導・助言をいただいた。

（７）コンソーシアムの体制および取組

通番	機関名	機関の代表者名
1	大槌町町長	平　野　公　三
2	大槌高校校長	継　枝　　斉
3	大槌町議会議長	小　松　則　明
4	岩手県議会議員	岩　崎　友　一
5	大槌町議会総務教民常任委員会委員長	芳　賀　　潤
6	株式会社千田精密工業取締役会長	千　田　伏二夫
7	大槌町商工会会長	後　藤　力　三
8	一般社団法人おらが大槌夢広場代表理事	神　谷　未　生
9	大槌学園ＰＴＡ会長	阿　部　　司
10	吉里吉里学園ＰＴＡ会長	芳　賀　　新
11	認定 NPO 法人カタリバ代表理事	今　村　久　美
12	大槌高校同窓会会長	三　浦　文　雄
13	大槌高校ＰＴＡ会長	小　林　隆　広
14	大槌町副町長	北　田　竹　美
15	大槌町教育委員会教育長	松　橋　文　明
16	大槌町教育委員	谷　藤　怜　美
17	大槌学園学園長	小　石　敦　子
18	吉里吉里学園中学部校長	浅　沼　寿　典
19	おおつちこども園園長	八木澤　弓美子
20	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター教授	青　山　　潤

ア　コンソーシアムにおける取組について

・年３回のコンソーシアム会議を開催。復興推進のリーダーとなる人材の育成を目指し、大槌町役場、高等教育機関、地域、産業界、ＮＰＯ等がコンソーシアムを構築し、協働して子どもたちの実践的な学びを支援しながら地域を活性化し、教育と地域復興の相乗効果を生み出すことで、新しい価値を創造できる人材を育成する。

・カリキュラムについてコンソーシアム会議において協議した。委員からの指導・助言を学学科編成に反映した。

（８）成果普及のための取組

ア　他校交流

年間を通して多くの学校と探究活動、教育課程、地域連携、全国募集、学校運営等について意見交換をする機会が得られ、本校の教育活動の参考にすることができた。

他校交流	実施日程
福岡県立ひびき高等学校来訪（防災学習・カリキュラムに関する意見交換） 来訪者：校長１名、教頭１名、教諭 10 名	８月 18 日(木)
宮城県中新田高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：教員２名、コーディネーター１名	９月 28 日(水)
宮城県志津川高等学校来訪（防災教育・全国募集・公営塾に関する意見交換） 来訪者：教頭１名、教員１名、学校運営協議会委員２名	11 月９日(水)
山形県立遊佐高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：教諭１名、役場職員１名、コーディネーター２名	11 月 16 日(水)
山形県立小国高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：教頭１名、教諭１名、コーディネーター１名	11 月 17 日(木)
宮城県石巻西高等学校来訪（探究学習に関する意見交換） 来訪者：教諭２名	11 月 22 日(火)
堺市立堺高等学校来訪（探究学習・学校設定科目に関する意見交換） 来訪者：指導教諭１名、教諭１名	11 月 22 日(火)
島根県立横田高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：コーディネーター１名	11 月 24 日(木)
宮城県伊具高等学校来訪（探究学習に関する意見交換） 来訪者：指導教諭１名、教諭２名	12 月 14 日(水)
新潟県立阿賀黎明高等学校来訪（探究学習に関する意見交換） 来訪者：コーディネーター１名	12 月 14 日(水)
立命館宇治高等学校来訪（普通科改革支援事業について意見交換） 来訪者：教諭１名	12 月 16 日(金)
長崎県立松浦高等学校来校（普通科改革支援事業について意見交換） 来訪者：県教委指導主事１名、校長１名、教諭１名	２月６日(月)

イ　活動の内容や状況について学校ホームページや note で公開している。また、大槌町の広報誌に毎月活動の様子を掲載し町内へ広報している。

ウ　管理機関が実施する各種協議会等において本校の取組を周知し、地域と協働した教育活動による学校の特色化・魅力化を推進している。

エ　周知・広報ＷＧにより町内各所に各探究発表会の案内、生徒の研究発表成果物の展示を行っている。

オ　毎年、地域協働についての研究協議会を開催し事業の成果を発表している。今年度は昨年度までのオンラインに変わって対面での実施となり全国から 50 名を超える参加があった。

カ　令和５年度については、新学科の内容を中学校、周辺住民に伝える広報活動を周知・広報ＷＧを中心に進めて行きたい。

（９）成果検証、評価

本事業申請時に提出した目標設定シートに準じて進捗状況の成果を検証する（高等学校）。

ア　卒業時に生徒が習得すべき具体的能力を測るものとして設定した成果目標

下記指標に対する４件法によるアンケートの肯定的回答の割合

三菱 UFJ リサーチによる高校魅力化評価システムの調査結果から抽出したもの。

番	設問	R2 入学生		R3 入学生		R4 入学生
		R2 10 月	R4 ９月	R3 12 月	R4 ９月	R4 ９月
1	**課題の発見と解決に必要な知識および技能**	59.4%	66.7%	48.3%	63.4%	61.4%
	―自分で計画を立てて活動することができる	56.6%	64.6%	39.0%	64.3%	57.9%
	―現状分析し、目的や課題をあきらかにすることができる	62.3%	68.8%	57.6%	62.5%	64.9%
2	**探究の意義・価値理解、地域社会との関わり合い**	51.9%	61.5%	50.0%	57.1%	50.9%
	―地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	52.8%	62.5%	50.8%	57.1%	47.4%
	―誰かに言われなくても自分から勉強する	50.9%	60.4%	49.2%	57.1%	54.4%
3	**課題発見・解決への指向**	67.0%	70.9%	66.1%	68.9%	57.0%
	―情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	69.8%	75.0%	64.4%	69.6%	57.9%
	―地域や社会での問題や出来事に関心がある	64.2%	66.7%	67.9%	68.2%	56.1%
4	**主体性・協働性**	58.5%	64.6%	59.3%	62.5%	53.5%
	―忍耐強く物事に取り組むことができる	67.9%	70.8%	55.9%	64.3%	54.4%
	―自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる	49.1%	58.3%	62.7%	60.7%	52.6%
5	**価値創造への提案と次へつながる学び**	64.3%	63.6%	55.7%	55.4%	45.6%
	―国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	47.6%	56.3%	37.7%	35.7%	31.6%
	―学習を通じて、自分がしたいことが増えている	81.0%	70.8%	73.6%	75.0%	59.6%

※R2・3 入学生ともに課題解決に向けた知識・技能、地域社会との関わり合いにおいて向上が見られる。R4 入学生は課題解決に向けた知識・技能が高い数値となっているが、価値創造への提案と次への学び、課題発見・解決への指向が低い数値となっている。

イ　目標設定シートについて（別添）

ウ　今後の自走に向けた方向性について（管理期間評価）

県教育委員会では大槌高校の普通科改革支援事業における地域協働の取組に注目している。地域との連携・協働、コーディネーターの配置、探究的な学びの充実及び目指す人材育成のためのカリキュラムマネジメントなど、県内の高校では最も先進的に取り組んできた。

高校魅力化評価システムの調査結果を岩手県全体のデータと比較すると、社会性に関わる項目についての大槌高校生徒の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく上回っている。

	大槌高校	岩手県平均
社会性に関わる学習活動	60.7%	50.6%
社会性に関わる学習環境	75.9%	66.8%
社会性に関わる行動	43.5%	40.7%
社会性に関わる行動（３年生のみ）	52.8%	42.2%

このことから、魅力的な学びの環境を地域と共に創るという事業構想の具現化が着実に進んでいると評価することができる。

また、学校の魅力化を図るために、地域、生徒、保護者、学校の職員等の意見を広く吸い上げ、熟議を重ねながら取組の改善を図っており、学校とコンソーシアムが協働しながら組織的に取り組んでいることは、県内の他の高校にとっても大変参考になると考えている。

次年度は令和６年度の新学科設置に向けてこれまでの取組を継続しながら、個別最適な学びと協働的な学びの効果的実現に向けて準備を進めていく。

【担当者】

担当課	学校教育室　高校教育担当	ＴＥＬ	019-629-6140
氏　名	前川　啓太郎	ＦＡＸ	019-629-6144
職　名	指導主事	e-mail	kei-maekawa@pref.iwate.jp

II　研究開発の内容（詳細）

1　会議関係

（1）魅力化構想会議・コンソーシアム会議

大槌高校では、高校と町行政、町議会、各種学校の教育機関及び企業、研究機関との連携を拡充するとともに、生徒の主体的な学びへとつながる様々な教育機会の提供の充実を図り、県が設置するコンソーシアム会議と町が主催する大槌高校魅力化構想会議を設置している。

ア　魅力化構想会議・コンソーシアム会議 委員

No	氏名	所属・役職
1	平　野　公　三	大槌町長
2	青　山　　潤	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター 教授
3	小　松　則　明	大槌町議会 議長
4	継　枝　　斉	大槌高等学校 校長
5	岩　崎　友　一	岩手県議会 議員
6	芳　賀　　潤	大槌町議会 総務教民常任委員会 委員長
7	後　藤　力　三	大槌商工会 会長
8	今　村　久　美	認定ＮＰＯ法人カタリバ 代表
9	千　田　伏二夫	株式会社千田精密工業 取締役会長
10	神　谷　未　生	一般社団法人おらが大槌夢広場 代表理事
11	阿　部　　司	大槌学園 PTA 会長
12	芳　賀　　新	吉里吉里学園 PTA 会長
13	三　浦　文　雄	大槌高校同窓会 会長
14	小　林　隆　広	大槌高校 PTA 会長
15	北　田　竹　美	大槌町副町長
16	松　橋　文　明	大槌町教育委員会 教育長
17	小　石　敦　子	大槌学園 学園長
18	浅　沼　寿　典	吉里吉里学園中学部 校長
19	谷　藤　怜　美	大槌町教育委員
20	八木澤　弓美子	おおつちこども園 園長

イ　魅力化構想会議・コンソーシアム会議 オブザーブ

No	氏名	所属・役職
1	中　村　智　和	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 高校教育課長
2	前　川　啓太郎	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 指導主事
3	作　山　雄　一	大槌高校 事務長
4	鈴　木　紗　季	大槌高校 教務課長
5	澤　村　勇　一	大槌高校 生徒指導主事
6	田　中　貴　広	大槌高校 進路指導主事
7	藤　原　　淳	大槌町 総務課長
8	太　田　和　浩	大槌町 企画財政課長
9	岡　本　克　美	大槌町 産業振興課長

ウ　魅力化構想会議・コンソーシアム会議 事務局

No	氏名	所属・役職
1	竿　代　愛　也	大槌高校 副校長
2	三　浦　大　介	大槌町教育委員会事務局 参与兼教育次長
3	吉　田　　智	大槌町教育委員会事務局 学務課 課長
4	平　野　正　晃	大槌町教育委員会事務局 学務課 班長
5	菅　野　祐　太	大槌町教育委員会事務局 教育専門官

エ　第12回大槌高校魅力化構想会議兼普通科改革支援事業

令和４年度第１回コンソーシアム会議

日　　時：令和４年８月２日（火）14:00～16:00

場　　所：岩手県立大槌高等学校

内　　容：新委員紹介、事業経過報告（今年度及び来年度入学者数現状分析）
全国留学事業について（はま留学２期生より報告、はま親制度等）、
普通科改革支援事業について（事業計画、今後の検討スケジュール等）

発言要旨：

- 大槌ならではの生活や自然環境を活かした高校づくりをしていくべき。大槌高校に通えば子どもが幸せになれると親も思えるような学校になってほしい。
- 地元の魅力を見つけるためには、いま暮らしている場所とは違った環境での活動や学びが必要なのではないか。
- 町内でも、はま研究会に入りたいから大槌高校に行きたいという生徒がいる。高校での学びによって、高校卒業後の進路選択の幅を広げてほしい。
- Well-being の観点から、幸福感の得られる学校生活や将来に希望を持てる生徒を育ててほしい。
- 小中高の段階は失敗が許される時期だからこそ、失敗する経験も積めるような学科や高校であってほしい。
- 地域で大切にされる経験だけでなく、転んでも地域の人たちが支えてくれる実感を持たせてほしい。
- 生徒にとって学びたいことや取り組んでみたいことがあると思えるような学校になってほしい。子どもたちに「もっと知りたい」と思わせるのが学校の本質ではないか。
- 「普通科-普通科」の方もこれまで通りとするのではなく、改革を行うべきである。
- どの学科においても、基本的な知識のベースを育むことを大事にしてほしい。
- 地域社会に関する学科では、地域課題だけでなく日本全体や世界の課題とも関連させながら学びを深めてほしい。
- 一日中地域に出て学ぶなど、教科や場所に縛られず思いきった取り組みが必要ではないか。
- 管内就職者が年々減少している。新しい学科ができることで、地元に就職する生徒がさらに少なくなるのではないか。

オ　第13回大槌高校魅力化構想会議

日　　時：令和４年12月23日（金）14時00分～16時00分

場　　所：大槌町文化交流センターおしゃっち

内　　容：全国留学事業について（アンケート結果、次年度の受け入れ体制等）
普通科改革支援事業について（ワーキンググループの進捗状況等）

発言要旨：

- 生徒からの様々なニーズに対して、高校の先生だけで対応できるのか。先生方の負担が多くなってしまうのではないか。
- 内容としては良いが、財源が限られている中でどこまで実現できるのか心配な面もある。大人の都合で投げ出すことがないようにしなければならない。
- 大槌高校に進学する生徒は学力の幅が広いため、探究的な学びを充実させることで子どもたちが学ぶことを楽しいと思えるのではないか。
- 企業として、定期的にインターンシップを受け入れることは良いと思う。仕事で人と関わる経験を通して、コミュニケーションの大切さを知ってほしい。
- コロナ禍の状況を考慮して、授業をオンラインで受けられる体制を整えるべきである。
- 新しい科目では、地域での体験活動を行いながら基礎学力も併せて身につけられるように工夫してほしい。
- 生徒のニーズに応えるためには、単位制にするという方向性もあるのではないか。
- 地元の役に立てるような体験や取組を行い、地元に帰ってきたいと思えるようなキャリア学習を進めてほしい。
- 新しい科目や学科が学校の特色となり、中学生が通いたいと思うことができれば、生徒数の確保にもつながるのではないか。
- 義務教育段階の基礎的な学びを復習し、ある程度の学力を付けてから高校を卒業してほしい。
- はま留学でアピールしている内容と実際のカリキュラムの整合性が取れるようにすべきである。
- AI 教材だけでは足りない部分もあるため、先生方が子どもたちにしっかりと向き合ってほしい。
- 義務教育においても、高校で活かせる力をしっかりと付けてあげることが重要ではないか。

カ　第 14 回大槌高校魅力化構想会議兼普通科改革支援事業
　令和４年度第２回コンソーシアム会議

日　　時：令和５年３月 20 日（月）13 時 00 分～15 時 00 分
場　　所：大槌町文化交流センターおしゃっち
内　　容：令和４年度事業報告（地域協働カリキュラム、放課後学習支援事業等）
　　全国留学事業について（令和５年度の受け入れ体制について）
　　普通科改革支援事業について（学科再編に向けた論点等）

（２）運営指導委員会

大槌高校では事業の効果を高めるため運営指導委員会を設置し、研究開発の実施状況について有識者から評価助言を頂いている。

ア　運営指導委員会委員

No	所属	氏　　名
1	東京大学教育学部教授	牧　野　　篤
2	富士大学経済学部 教授	佐々木　修　一
3	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター 准教授	福　田　秀　樹
4	岩手大学教育学部 准教授	久　坂　哲　也

イ　出席者：

No	所属	氏　　名
1	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 高校教育課長	中　村　智　和
2	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 指導主事	前　川　啓太郎
3	大槌高校校長	継　枝　　斉
4	大槌高校副校長	竿　代　愛　也
5	大槌高校事務長	作　山　雄　一
6	大槌高校教務主任	鈴　木　紗　季
7	大槌高校進路指導主事	田　中　貴　広
8	大槌高校生徒指導主事	澤　村　勇　一
9	大槌高校１学年主任・カリキュラム WG 長	畠　山　　豪
10	大槌高校２学年主任・DXWG 長	近　藤　健　一
11	大槌高校３学年主任	野　田　啓　志
12	大槌高校 周知・広報 WG 長	菊　池　直　美
13	大槌町教育委員会学務課　班長	平　野　正　晃
14	大槌町教育委員会学務課　指導主事	小　原　道　宏
15	大槌高校カリキュラム開発等専門家	菅　野　祐　太
16	大槌高校地域協働学習実施支援員	小野寺　　綾
17	大槌高校地域協働学習実施支援員	三　浦　奈々美

ウ　令和４年度第１回運営指導委員会

日　　時：令和４年 11 月 30 日（水）10 時 00 分～11 時 30 分

場　　所：岩手県立大槌高等学校

内　　容：事業概要説明

令和４年度事業計画に関すること

ワーキンググループの推進状況に関すること

研究開発成果の分析・検証等に関すること

発言要旨：

［探究カリキュラム及び資質・能力に関すること］

・　「なぜそれが課題だと思うのか」ということを問うことで、課題を自分ごととして引きつけていくことができるのではないか。
・　これからの時代に求められる「課題を発見する力」を、マイプロジェクトでの課題設定等を通して身につけてほしい。
・　資質能力の育成において基盤となる自己肯定感を育むために、生徒の居場所づくりや受け入れてもらえる感覚についても検討してほしい。

［今後のカリキュラム検討に関すること］

・　より若いうちから学ぶ楽しさを伝えるためにも、小中高での連携した学びのあり方を検討してほしい。
・　地域の課題解決のためには、地域外の課題に目を向ける必要がある。地域社会を学ぶ学科においても、地域のみならず広く社会に目を向け、他地域との比較をしながら学んでほしい。
・　主体性とは、興味関心を持てないものに対しても目標を持って計画立てて取り組める力である。生徒の主体性や自律的な学びに向かう姿勢を高校段階でどのように育んでいくべきか検討してほしい。
・　学んだから興味を持つ場合と興味を持つから学ぶという場合があるため、高校段階ではいろいろな学びに幅広く触れておく必要があるではないか。
・　高校のカリキュラムにおいては、生徒が自由に選べる部分だけでなく必履修科目もあることを生徒に認識させておく必要があるのではないか。

［評価・分析に関すること］

・　学習の根底にある「学習動機」や「学習観」についても調査してほしい。

［その他］

・　「何のために改革をしているのか」を念頭に置き、子どもたちが自分自身で人生を作り上げられるようになることを目指して取組を進めてほしい。
・　協調型のリーダーシップを育成していくことで、地元企業でも長期的に活躍できる人材になるのではないか。
・　中学生が全県の高校を自由に選び、入学できるような工夫をしてほしい。

エ　令和４年度第２回運営指導委員会

日　　時：令和５年２月 27 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分

場　　所：岩手県立大槌高等学校（委員はオンラインでの参加）

内　　容：令和４年度事業報告に関すること
　　ワーキンググループの推進状況に関すること
　　研究開発成果の分析・検証等に関すること
　　令和５年度事業計画に関すること

発言要旨：

［探究カリキュラム及び探究的な学びの在り方に関すること］

・　マイプロジェクトでは、町に関連するテーマだけではなく、生徒自身が探究したいテーマを尊重することで多様性を持たせることを大切にしてほしい。
・　基礎教科の中に探究的な要素やアプローチの仕方を入れていくことで、子どもたちが前向きに学習に取り組み、探究力と基礎学力を同時に伸ばす方法を模索できないか。
・　個人探究だけに留まるのではなく、仲間で議論し合うなどのグループ活動も両立させることで、社会との調整を図りながらイノベーティブな力を育むことができるのではないか。
・　探究における問いを更新する過程で論理に飛躍が見られる生徒がいたため、節目でまとめの活動を取り入れ、考えを整理させる機会や関わりが必要ではないか。

［評価・分析に関すること］

・　「One Team」の項目について、地域そのものの認識を広い視野で捉えつつ、社会全体における自らの役割を認識させることで、自己肯定感が高まり、数値の向上にもつながっていくのではないか。
・　「課題設定」の項目では、生徒が地域課題の複雑さを感じて数値が下がっていることから、教員や地域から課題設定の在り方や課題の認識を問い直すための関わりをすることが必要ではないか。

［ワーキンググループの推進に関すること］

・　学校側がICTで生徒の学びの状況を把握し､デジタライゼーションで留まることなく、最適な指導のあり方を考えることや、単位取得等を踏まえた誰も取りこぼさない授業のあり方を模索することが、目指すべきDXの在り方ではないか。
・　想定より新学科の情報が地域に浸透しない可能性があるため、周知を徹底してほしい。
・　これまでの普通科で学ぶことができていたことが新学科へ移行してもしっかりと学べるという部分を、地域の中学生、保護者やはま留学希望者に対して十分に説明してほしい。
・　地域での探究活動で身につけた力を活かせる大学や学部との連携を検討することで、高校卒業後の出口を魅力的にすると同時に、生徒たちの活躍の場所も広げていくことができるのではないか。

（３）普通科改革研究協議会

日　　時：令和５年２月 23 日（木・祝）15 時 00 分～16 時 30 分

場　　所：大槌町文化交流センター おしゃっち

内　　容：有識者、教員、生徒が登壇するパネルディスカッション及びワークショップ

［パネルディスカッションテーマ］

「大槌高校（小規模普通科高校）の未来を語る」

～地域全体で高校生の“大槌(ハンマー)”を育むために、私たちに何ができるか？～

［背景及び目的］

大槌高校と大槌町は、令和元年度から魅力ある学校づくりに向けて「大槌高校魅力化事業」を立ち上げ、様々な取り組みを進めてきた。高校と地域の連携が進んできた今、さらなる発展に向けて、生徒と地域双方にとって目指したい学校、通いたくなる学校に向けて、地域全体で構想していくことが求められる。

本会では、「大海を航る、大槌（ハンマー）を持とう」をコンセプトに掲げている大槌高校において、生徒・地域双方にとってより良い学校とは何か、今後私たちには何ができるかを考えていく機会としたい。

［登壇者］

・　中川 覚敬氏（文部科学省初等中等教育局教科書課課長補佐
　　・前岩手県教育委員会事務局学校教育室学校教育企画監）
・　酒井 淳平氏（立命館宇治中学校・高等学校キャリア教育部長）
・　鈴木 紗季　（大槌高校 教諭・教務主任）
・　畠山　豪　（大槌高校 教諭・教務副主任）
・　遠藤 大地　（大槌高校２年）
・　菊池 康介　（大槌高校１年）
・　黒澤 直美　（大槌町教育委員会事務局 学務課）※進行役

研究協議会　登壇者プロフィール

中川覚敬氏（文部科学省初等中等教育局教科書課課長補佐・前岩手県教育委員会事務局学校教育室学校教育企画監）

岡山市の中学校教員を経て、文部科学省に入省。初等中等教育局教科書課、生涯学習政策局男女共同参画学習課、復興庁への出向を経て、2015 年に島根県海士町に地域教育魅力化コーディネーターとして派遣。前岩手県教育委員会事務局学校教育室学校教育企画監。

酒井淳平氏（立命館宇治中学校・高等学校キャリア教育部長）

文科省指定の研究開発学校・WWL の研究主任及びキャリア教育部長として、キャリア教育と探究を軸にしたカリキュラム開発を実践。文部科学省「ライフプランニング支援推進委員会」委員。国立教育政策研究所 高等学校特別活動『指導と評価の一体化』のための学習評価、評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者。

パネルディスカッション内容：

ア　パネラー自己紹介

イ　今回の趣旨説明

・　魅力化を始める際に、大槌では「大海を航る“大槌(ハンマー)”を育成する」という教育ビジョンを地域と高校が共有している。(スクールポリシーにもなっている)

・　“大槌(ハンマー)”とは、自ら実感ができる強み＝資質・能力を指す。

・　大槌町では0～18歳の学びを掲げており、小中高の学びを繋げ、高校卒業段階で自分の“大槌(ハンマー)”を持ち、これからの予測不可能な社会を力強く歩んでほしいという願いがある。大槌で学ぶ高校生たちが“大槌(ハンマー)”を身につけるために、生徒・教員･地域の方それぞれに何ができるか、どのように在るべきかを考えていく機会としたい。

ウ　話題提供①「なぜ資質・能力の育成が求められるようになったのか」(中川氏)

・　人口減少や情報化、グローバル化など、社会の変化は複雑で、予測困難な時代に生きている。これらは、地方における農業や漁業などにも大きな影響が出てくる。

・　このような「正解のない時代」においては、「答えのない課題に対して多様な他者と協働して、目的に応じながら納得解を導き出すような力」が必要である。

・　変化の激しい社会に対応するため、今年度から高校でも新学習指導要領が実施されたが、大槌高校は新時代の学びを４年前から全国に先駆けて取り組んでいると思う。

・　これまで必要とされてきた「知識・技能」を身につけることはもちろん、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう人間性」などの資質・能力も重要になってくる。

・　それらは、学校だけでは身につけることはできず、地域社会の力が必要不可欠である。今後も、生徒たちが自ら関心あるテーマについて、地域の方々と関わり合いながら探究的に学んでいくことが求められる。

エ　パネルディスカッション「大槌を身につけるために必要な機会とは？」

（２年生 遠藤さん）

・　「帆を張る機会」: 中学生の頃は、自分の好きなことややりたいことが分からなかった。しかし、高校に入って色々なチャレンジを重ね、自分について深く考える機会が多く持つことで、自分の将来の在りたい姿が見えてきた。

（１年生 菊池さん）

・　「経験を食べる機会」: 大槌が復興していく過程で、全国の様々な人と出会い、話す機会が役に立った。自分で様々な経験をしていくこと、多様な背景を持った人から様々な経験を聞くことを通して、成長ができると思う。

（講師 中川氏）

・　チャレンジをすることは、初めはハードルがあると思うが、どのようなきっかけでチャレンジをするようになったのか。

（遠藤）

・　大槌高校では、先生が様々なきっかけをくれ、背中を押してくれる。

（講師　酒井氏）

・　先生から与えられるチャンスを掴みたいと思うのはなぜか。一歩を踏み出したいと思うのはなぜか。

（菊池）

・　私自身も最初から生徒会など積極的な方ではなく、先生の後押しが大きかった。見た目は美味しくなさそうなものでも、食べてみたら美味しかったという感覚があるように、一回やってみると案外楽しいと思うことが多い。

（町教委　黒澤）

・　学校や地域にはたくさんの機会がある中で、資質・能力を高めるためにどのように繋げて行けば良いのか、という現場の難しさもあるのではないか。

（大槌教員　畠山）

・　資質・能力は数字などで分かりやすく表現できるものではなく、育てていくことも難しいと感じる。探究活動の充実によって、少しずつ育っている実感もある。

・　探究がきっかけで目標を持ち、学習に取り組むということができたら良いと思っているが、各教科へどのような視点で落とし込んでいけば良いのかを模索している。

（中川）

・　探究的な学びが充実していると思うが、生徒の皆さんは５教科の学びについてはどれくらい必要性を感じているのか。

（遠藤）

・　教科の授業も大切だとは思うが、やはり社会に出たときを考えると、行動力や考える力などの能力を育てていくことが大切だと思う。

（酒井）

・　自分自身に力がついたなと思う時は、どのような時か。

（遠藤）

・　自分で考え、行動し、何かを最後までやり遂げたときに、力がついたと思う。

（菊池）

・　人から褒められたときに、自分の力を客観的に認識できると思う。

（中川）

・　今のような力がついたと思う瞬間は、探究だけでなく教科の中でも作ることができると思うか。現場の先生の意見を聞きたい。

（畠山）

・　教科の中でも、「なぜこれが起きるのか」という問いを持つ視点を取り入れることで、探究的に学ぶことができると思う。

（大槌教員　鈴木）

・　教科だけでなく、総合探究でやっていることを各教科にも落とし込むという連動性を高めていくことができると思う。教科の学びと探究の学びを往還することで、生徒たちの

「できた」と感じる瞬間が増えると思う。

オ　話題提供②「生徒の資質・能力を高めることができる授業・特別活動・カリキュラムとは？」

・　人からフィードバックをもらったり、自分のやったことを振り返ったりするときに、資質・能力の高まりを実感できるのではないか。
・　振り返りは、「反省すること」ではなく、「経験から学び、未来につなげる活動」である。併せて、振り返るための「時間」や「場」の設定も重要である。
・　振り返りの際は、「体験の質」に大きく左右される。質のある体験活動ができるよう、学校として環境を整えることが重要である。
・　そのために、地域の方との協働も必要不可欠である。学校側も活動のねらいをしっかりと地域に伝えていくことで、より良い協働関係が生まれる。

カ　ワークショップ「高校生の“大槌(ハンマー)”を育成するために、自分の立場（生徒・教員・地域）で何ができるか？」

【参加者からの意見】

・　自分の好きなものから学びにつなげる機会が増えると良い
・　高校生が主体となって、周りの高校生や大人を動かすこと
・　「高校生が求めている機会、成長できる機会とは何か？」を認識すること
・　地域の立場から、高校生が大海を航ることができるような「風」を作っていく

２　ワーキンググループにおける検討について

（１） カリキュラムＷＧにおける検討について

ア　カリキュラムＷＧの設置目的

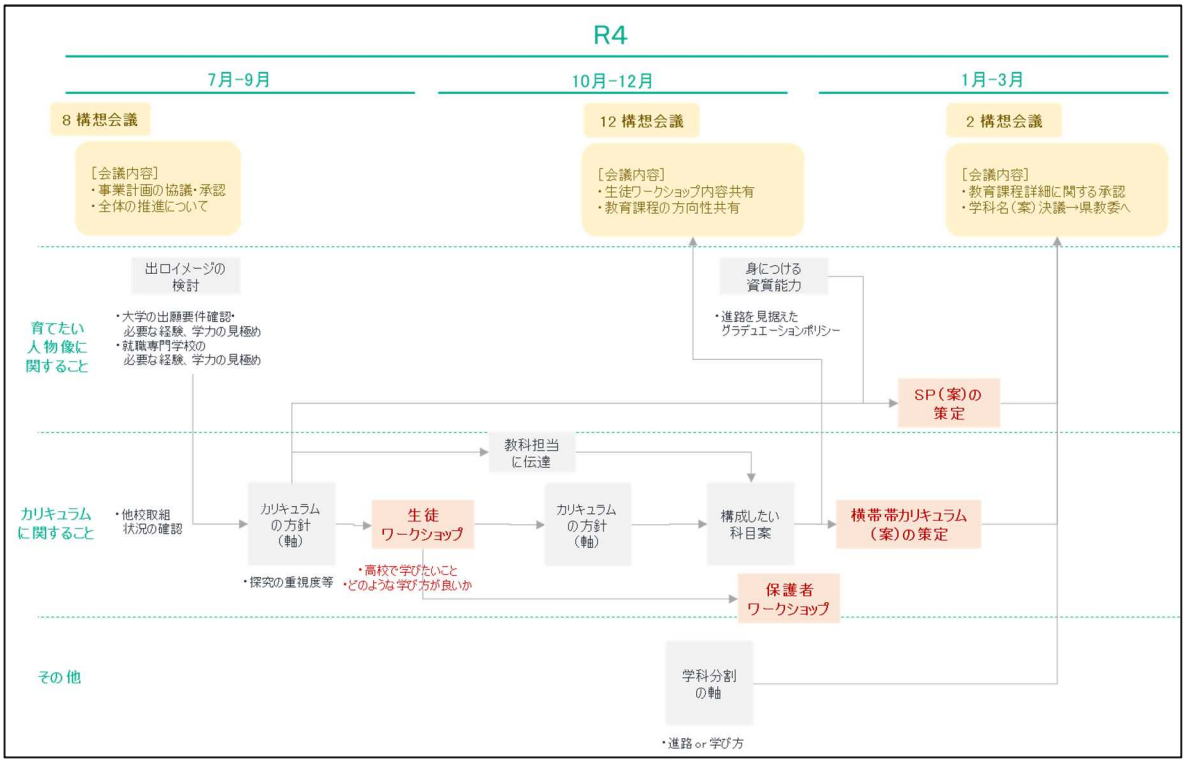
カリキュラムＷＧの設置目的は、新学科のカリキュラム策定を行うことであり、それに付随する①学科を設置した場合の学科スクールポリシー（案）の策定、②学科名の原案、③教科/探究学習のありかた、④科目選択の弾力性向上、⑤資質能力を基礎とした評価の在り方、⑥評価ルーブリックの見直しを図ることとなった。また具体的な検討事項としては当初、学科ごとの卒業時のありたい姿の設定、進路保証できるカリキュラムの在り方（入試形態に合わせたカリキュラム）、科目選択の拡充、単位認定方法などを具体的な検討事項としてとりあげていた。

イ　検討のスケジュール

今年度のカリキュラムＷＧの検討は大きく分けて３つの段階に分かれる。

【第１期】　検討テーマの設定、他校事例勉強会　（　７月－　９月）
【第２期】　生徒向けワークショップの検討・開催　（１０月－１２月）
【第３期】　カリキュラム策定方針や学科編成の検討　（１２月－　３月）

当初設定したスケジュール

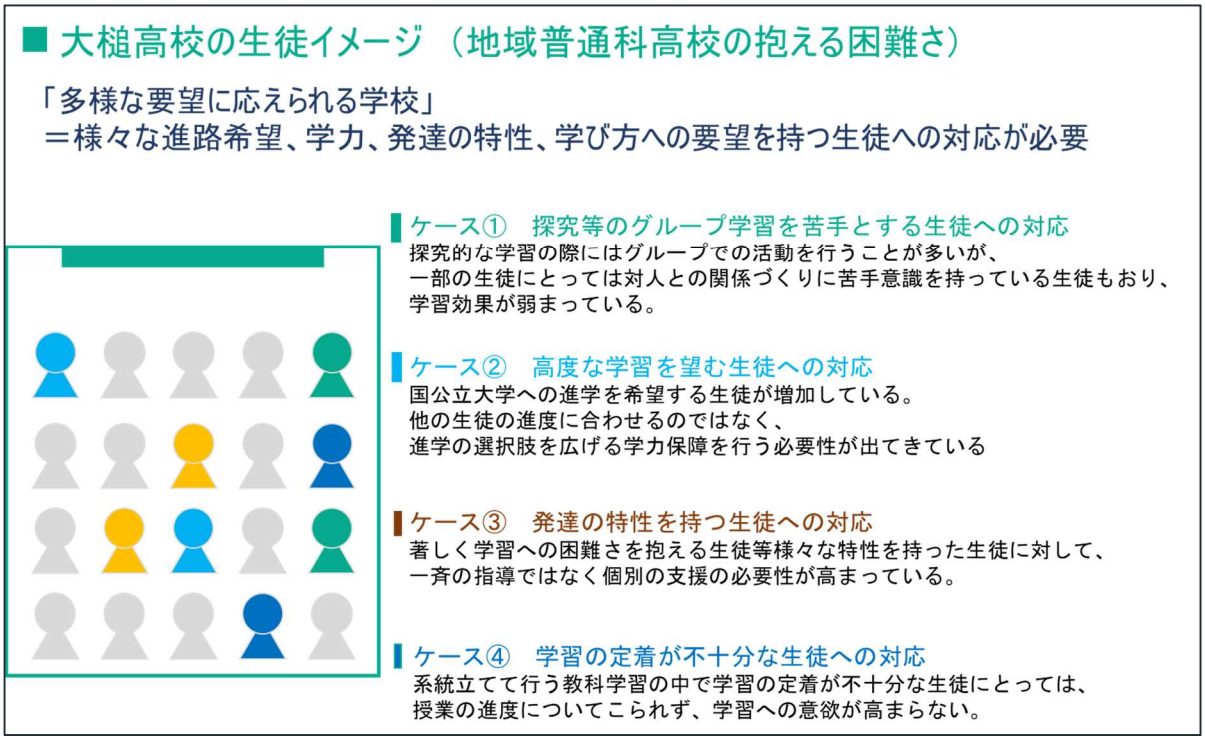


ウ　第１期　検討テーマの設定、他校事例勉強会

会議名	日程	内容
第１回 カリキュラム ＷＧ	8/5 （金）	・　カリキュラムの検討に関する放談 ・　生徒の実態に関する共有 ・　今後のスケジュール
第２回 カリキュラム ＷＧ	8/18 （木）	・　今後の検討テーマ案の協議 ・　先進事例校研究（事務局提示） －島根県立隠岐島前高等学校 －岡山県立和気閑谷高等学校 －長崎県立松浦高等学校
第３回 カリキュラム ＷＧ	9/5 （月）	・　先進事例校（事務局提示） －北海道伊達開来高等学校 －北海道登別明日中等教育学校 －愛媛県立三崎高等学校 －茨城県立茨木東高等学校　　等

まずは生徒の実態を共有することで、生徒にどのような機会を届けるべきか議論がなされ、その上で他校の事例研究を行い、カリキュラムに関する理解を深めた。ワーキングの委員からは、単位制を認めることで生徒の選択の幅を広げるべきではないかという意見やインターンシップ、英語以外の外国語の受講など生徒の意欲を高めるための様々なアイディアが出された。

共有された生徒イメージ



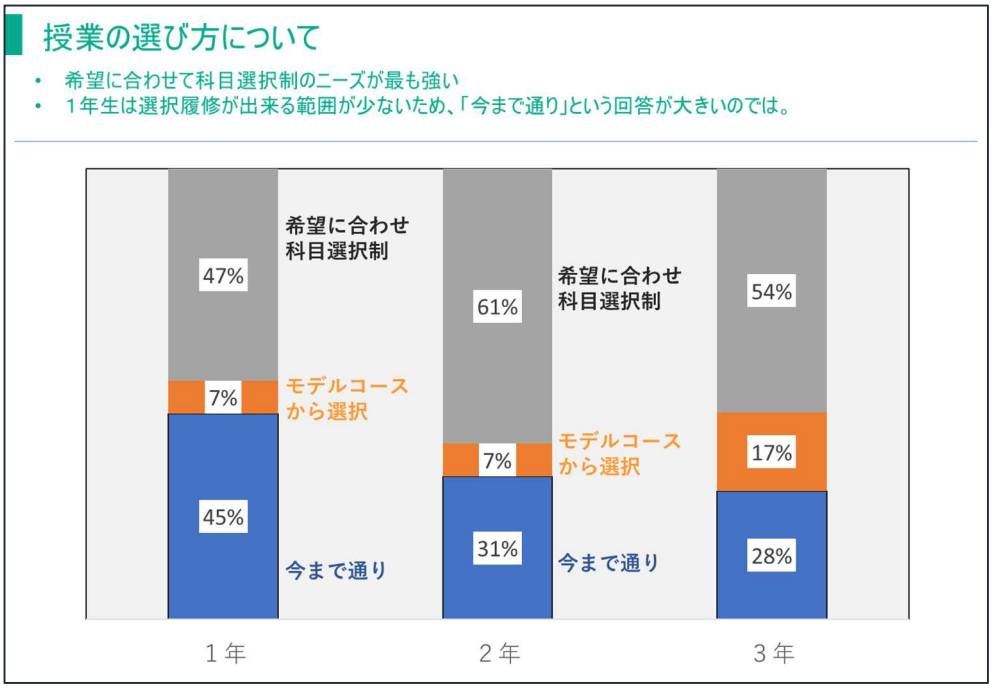
エ　第２期　生徒向けワークショップの検討・開催

会議名	日程	内容
第４回 カリキュラムWG	9/20 （火）	・　生徒ワークショップの進め方 ・　今後の検討の軸について
第１回 生徒ワークショップ	10/6 （木）	【第１回生徒ワークショップ　場所：体育館】 ・　副校長あいさつ ・　生徒会長あいさつ ・　魅力化に関する趣旨説明（魅力化のこれまでと実際に魅力化されたことに関する共有） ・　生徒ワークショップ ［テーマ］大槌高校をさらに魅力的な学校とするために取り組むべきこと ・　校長まとめ
生徒向けアンケートの実施	10/13 （木）	以下の項目についてアンケートを実施 ・　科目選択について ・　学校独自の学びについて ・　必要だと思う学校設定科目について　等
第２回 生徒ワークショップ	10/20 （木）	【第２回生徒ワークショップ　場所：体育館】 ・　副校長あいさつ ・　生徒会長あいさつ ・　アンケートの結果共有 ・　生徒ワークショップ ［テーマ］大槌高校のカリキュラムをさらに魅力的な学校とするために取り組むべきこと ・　副校長まとめ
第５回 カリキュラムWG	11/17 （木）	・　生徒ワークショップの共有 ・　普通科改革の基本的な方向について

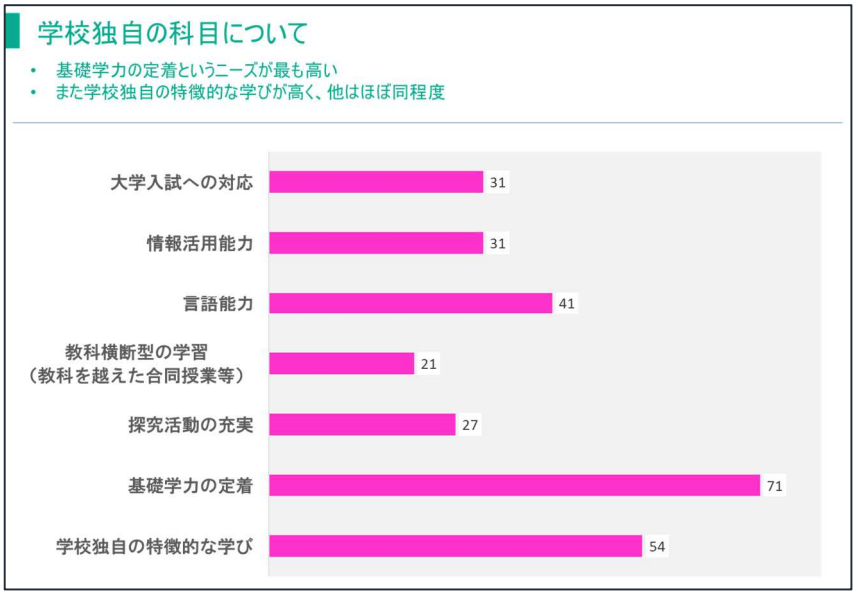
第２期ではカリキュラムを受ける当事者となる生徒の意見を聞くためのワークショップを開催した。全校生徒が体育館に集まり、魅力化に関する検討を行った。

生徒ワークショップの様子

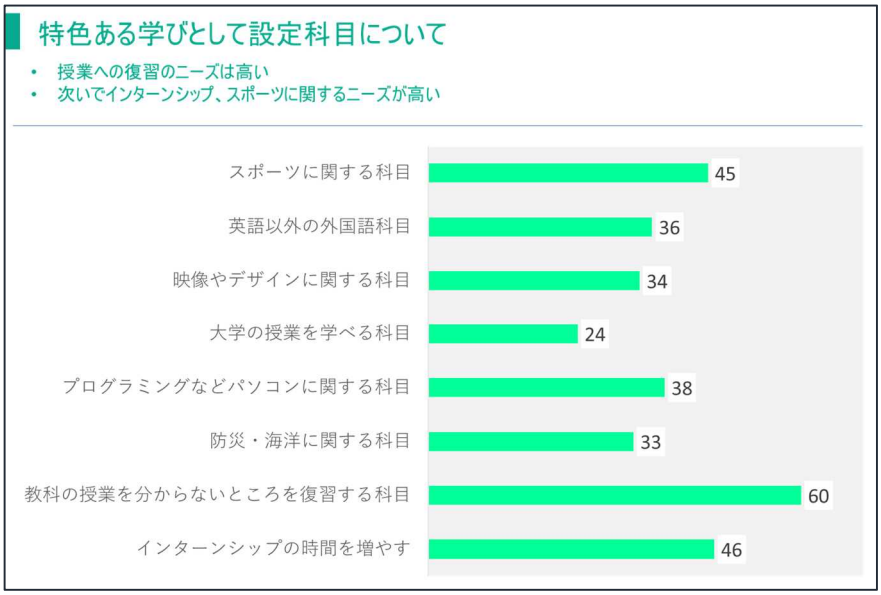
次に生徒アンケートについてである。まずは授業の選び方については以下のような回答となり、生徒にとっては希望に合わせて科目選択制としてほしいという要望を持っている生徒が多いことがわかる結果となった。



また、学校独自の科目については、基礎学力の定着に関する要望が最も多く、次いで学校独自の特徴的な学びや言語能力や学びに関する要望が多かった。基礎学力定着のニーズが非常に高かったのは、普段の授業やこれまでの学習により、基礎的な学力の修得実感が得られていないのではないかということも推測される。



また、特色ある学びとして設定してほしい科目については、教科の授業の分からないところを復習する科目やインターンシップの拡充をしてほしいという要望があり、先述した復習に関する科目や社会に出た際に役立つ実用的な科目を求めていることがわかった。そうしたアンケートを踏まえてカリキュラムの方向性を打ち出した。



オ　第３期　カリキュラム策定方針や学科編成の検討

会議名	日程	内容
第６回 カリキュラム ＷＧ	12/27 （火）	・　カリキュラムの策定方針について ・　単位制普通科等の制度の在り方
第７回 カリキュラム ＷＧ	1/24 （火）	・　新学科の編制について

第８回 カリキュラム ＷＧ	3/15 （水）	・　教育課程表（試案）について

生徒へのワークショップ等からカリキュラムの策定方針を以下の６つとした。

①探究的に学ぶ科目の充実

現状の探究科目

総合的な探究の時間
（三陸みらい探究）
※両コースとも5単位

＋

地域みらい学
（5教科の探究科目）
※就職・専門コースのみ
12単位

- くらしmath(数学)
- まちづくり探究(社会)
- Eパスポート(英語)
- ひょっこり表現島(国語)
- おおつちラボ(理科)

＋

新規の探究科目

①家庭・情報などの科目に関する
探究科目の設定

②既存教科（5教科）を探究的な学びに

②科目選択の自由度向上

現状

- 原則は、進学コース（文理コース）と就職・専門コース（教養コース）のみで授業科目にあまり選択の余地はない
- 選択できるのは進学コースで文系か理系を選択するのみ。就職・専門コースは学びたい科目を選択できない

改革の方向性

国が定める必履修科目
（34単位）

＋

普通科であり大槌高校として学んでほしい必履修科目（？単位）

＋

生徒自ら選択する科目（？単位）

※どの程度の単位とするかは今後議論

その他

特色ある選択科目として、防災や海に関する科目については新しく選択科目を設置することも検討

③社会教育の単位化

大槌高校で行う課外活動

震災後から活動を続ける
「復興研究会」

東大海洋研と連携をした
「はま研究会」

地域行事のボランティア参加
※写真は安渡地区大運動会

▼

- 生徒の社会教育での学びも高校生活における重要な学びとして単位化
- 上記の活動にレポート等を課し、活動時間30時間以上等で単位として認めるのはどうか
- 生徒の中にはこれまでの卒業単位90単位以上を取得し卒業する生徒もいることが想定される

④キャリア学習の充実

現状の課題

- 年に3日間程度のインターンシップ
- 生徒からも実社会に活かされるような科目の設置が期待されている
- 就職を目指す生徒の学習意欲を喚起できているとはいい難い状況

▼

改革の方向性

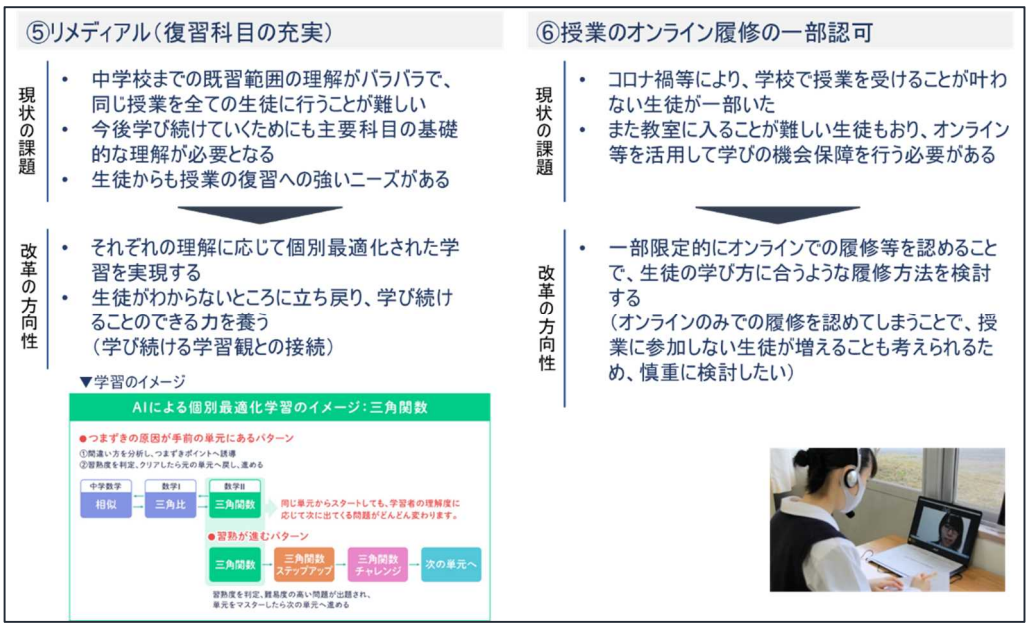
- **「日本版デュアルシステム」の導入**

日本版デュアルシステムとは、厚生労働省が推奨する「働きながら学ぶ、学びながら働く」ことにより若者を一人前の職業人に育てる新しい職業訓練システムであり、高校の中での座学と職場体験を同時に行っていくシステム。

- 生徒は希望する生徒のみが選択できるものとする。どの程度の期間とするかは今後検討

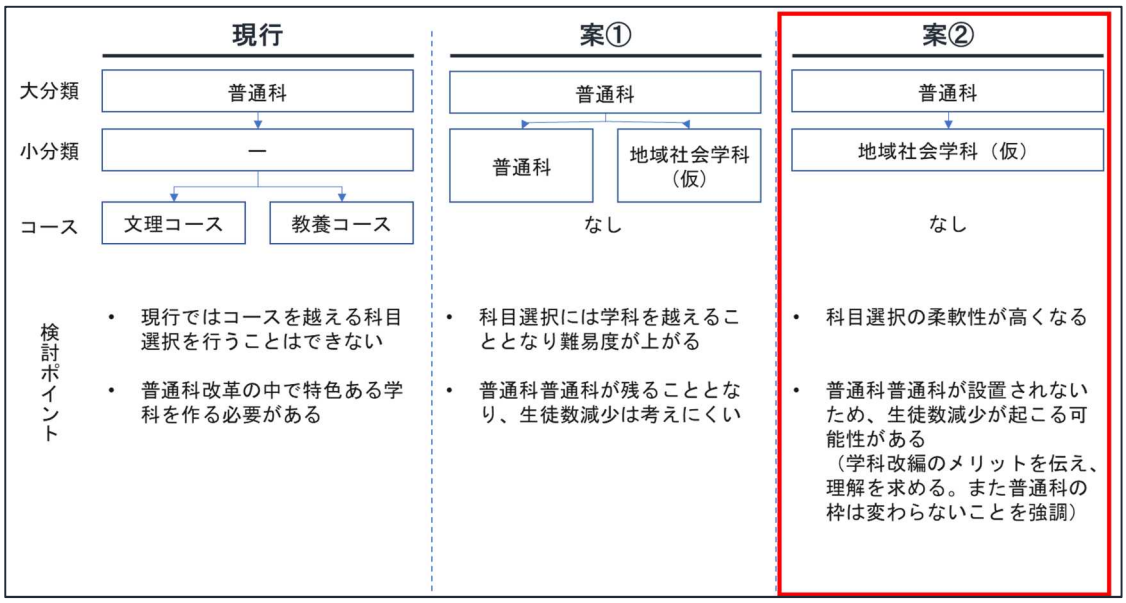
懸念

- これまで以上の期間の受け入れとなるため、体験可能な企業はあるか（デュアルとなる学びへの理解も含め）



そうした方針の下で、実際の教育課程に反映することができるようにカリキュラム構成の案を練っているところである。また、もともとワーキンググループ委員からあがっていた単位制普通科高校に移行する検討については、単位制に移行したとしても標準法に定められている算定基準では教職員数の増加は見込めないことから、単位制への移行は検討しないこととした。

さらに学科の持ち方に関しては、当初本校にある１学級を普通科として残し、もう１学級を新しい学科にする案なども検討されたが、生徒の科目選択への自由度を減らすこととなり生徒の要望に合わないことから１学科とし、科目選択の自由度を向上させることを図る。また、それに伴い普通科普通科への進学希望も地域にはあることで、生徒数が減少する見込みがあることから、積極的に地域や中学校への広報活動を行い、取り組もうとする普通科改革への理解を促すことが重要であることが確認された。



上記の結果を受け、新学科名や具体的なカリキュラムについて次年度以降検討を進めていく。

（２） ＤＸ等教育方法検討ＷＧにおける検討について

ＤＸ等教育方法検討ＷＧでは、「新時代に対応した”生徒の学び方” と”教員の働き方“を実現するための効果的なＩＣＴ活用方法とは？」というテーマを掲げ、①授業領域における実証実験と、②校務領域における実証実験に取り組んだ。授業領域における実証実験では、個別最適な学びや協働的な学びを実現するための授業実現を目指し、国語・数学・英語・理科・社会の主要５教科において、本ＷＧに所属する各担当教員がそれぞれ研究授業と研究協議を実施した。校務領域における実証実験では、岩手県立高校で導入している Microsoft Teams の機能等を最大限活用して校務の効率化を目指した取り組みを行ってきた。取り組みのスケジュールは下記の通りである。

ア　授業領域における実証実験

（ア）「個別最適な学びの実現」をテーマとした授業（11 月～12 月）

11 月～12 月の期間は、「個別最適な学び」を実験のテーマとして掲げ、理科と数学においてそれぞれ研究授業を行った。授業の内容と結果は下記の通りである。

理科における実証実験

テーマ：補助教材サイト“Java実験室”を活用した個別最適な授業の実現

基本情報	授業の内容	現状の成果と課題
■対象 2年生教養コース37名 ■単元名 化学基礎 「化学結合～組成式～」 ■使用教材 補助教材サイト 「Java実験室」	授業冒頭でサイトの使い方を説明した後に、学び方を自ら選択して問題演習に取り組む。 ①サイトを使用しながら、組成式のイメージを持つ。 ②サイトを使用しながら、教員が自作したプリントの問題演習に取り組む。 ③サイトを使用せずに、ワークブックの問題演習に取り組む。 	【成果】 ・教材が、教員の頭の中にあるイメージ図の生徒転用をサポートしてくれた。 ・生徒同士での教え合いが活発に行われるようになった。 ・内容理解に時間がかかる生徒に対してじっくりとサポートできるようになった。 【課題】 ・どの単元にも対応できる教材探し。

数学における実証実験

テーマ：AI教材“Qureous”を活用した個別最適な授業の実現

基本情報	授業の内容	現状の成果と課題
■対象 2年生文理コース21名 ■単元名 数学B「数列」 ■使用教材 AI教材「Qreous」	授業冒頭に、全体で例題の演習を行った後に、習熟度別に問題演習に取り組む。 ①例題が解けなかった生徒 →教員による個別サポートor生徒同士での教え合いにより、例題を解けるようにする。 ②例題が解けた生徒 →Qreousを活用して問題演習を行う。 ③Qreousでの演習をクリアした生徒 →模試対策の問題に取り組む。 	【成果】 ・何度か演習を重ねるにつれて、教材への抵抗感が無くなってきた。 ・生徒同士での教え合いが活発に行われるようになった。 【課題】 ・生徒が自律的に学ぶようになった結果，教員と生徒との関わりが少なくなった。 ・授業時間以外での学習意欲の向上。 （授業時間だけではできることが限定的）

（イ）　「協働的な学びの実現」をテーマとした授業（１月～２月）

１月～2 月の期間は、「協働的な学び」を実験のテーマとして掲げ、英語と社会においてそれぞれ研究授業を行った。授業の内容と結果は下記の通りである。

英語における実証実験

テーマ：Microsoftのツールを活用した協働的な学びの実現

基本情報	授業の内容	成果と今後の課題
■対象 1年B組30名 ■単元名 論理・表現Ⅰ「関係代名詞」 ■使用教材・ツール等 Microsoft Teams Microsoft Forms	①Microsoft Formsを活用した英単語テストの実施。 ペアワークによる暗記→テスト実施 ②関係代名詞 who を活用した英文を1つ作成しMicrosoft Teams上に投稿。 ③他の生徒が投稿した英文を見ながら気に入った英文を5つ書き出す。	【成果】 ・全体を通して思考、表現が活発に行われ全生徒が能動的に参画していた。 ・スマートフォンの利用とプリントへの記入の往還が活発に行われ、メリハリのある授業になった。 ・単語テストの採点業務が減った。 【課題】 ・表現活動のハードルを下げることと、知識・技能の定着をどのように両立させるのか。

社会における実証実験

テーマ：学習用動画サイト“NHK for School”を活用した協働的な学びの実現

基本情報	授業の内容	成果と今後の課題
■対象 2年生58名 ■単元名 現代社会「裁判員制度」 ■使用教材 NHK for School「昔話法廷」 Microsoft Forms	①NHK for School「昔話法廷」の動画視聴 ②裁判の論点を整理し、個人の判決とその理由をMicrosoft Formsに投稿。 ③少人数グループで判決とその理由をまとめ、発表する。	【成果】 ・動画教材によって、裁判の具体的なイメージを持つことができた。 ・Fomsへの投稿とグループワークを混ぜることを通して、すべての生徒が活動に参加していた。 【課題】 ・動画の時間がやや長く、議論に十分な時間を割けなかった。 ・少人数グループ内での議論の内容をどう見える化し、質を高める助言ができるか。

（ウ）　「学び直し（リメディアル）」をテーマとした授業（２月）

最後に、「学び直し（リメディアル）」を実験のテーマとして掲げ、国語において研究授業を行った。授業の内容と結果は下記の通りである。

国語における実証実験

テーマ：Microsoftのツールを活用した、学び直しに取り組める授業の実現

基本情報	授業の内容	成果と今後の課題
■対象 1年B組30名 ■単元名 現代の国語「漢字」 ■使用教材・ツール等 Microsoft Teams Microsoft Forms	①各級（5級・4級・3級・準2級・2級）から読み・書きそれぞれ5題ずつ抽出した小テストの実施。 ②小テストの結果をMicrosoft Formsに入力し、最も得点率が低かった級の問題演習に取り組む。 ③各級の確認テストをMicrosoft Teamsで配信し、生徒は自分が取り組む級を選択し、テストを受ける。 ④確認テストの結果とその振り返りをMicrosoft Formsに入力する。	【成果】 ・これまで、全員が同じ進度で一律に行っていた漢字練習だったが、小学校で習う範囲の漢字を覚えられていない生徒でも、自分のレベルに合った問題に取り組むことが可能になった。 【課題】 ・学び直しに取り組んでほしかった生徒が、小テストでたまたまいい点数を取ってしまったために、自分のレベルに合った問題演習に取り組むことができなかった。

イ　校務領域における実証実験

校務領域においては、はじめに本ＷＧに所属する教員がそれぞれ感じている課題意識を洗い出し、Microsoft Teams 等の機能を活用することで効率化できる可能性のある項目を抽出した上で実践を進めた。これまでに行った主な実践の項目と結果は下記の通りである。

No	項目	実践前の状況	実践後の状況
1	生徒への連絡・伝達方法の改善	朝の職員朝会、生徒 HR における連絡を口頭もしくは紙で行い、欠席者への連絡や紙の印刷に手間がかかっていた。	連絡事項をクラウド上に集約することにより教員の準備にかかる手間が省けた。また、欠席者も学校外から連絡を確認できるようになった。更に、教室掲示物等の資料もクラウド上で共有するようにした。
2	各種アンケートの Form 化	アンケートを紙で実施し、集計作業もすべて手動で行っていた。	アンケートをFormsで作成することにより、配布・回収・集計作業の手間が減った。
3	各種資料の電子化	毎月行われる職員会議等の資料を、毎回紙で印刷、製本、配布を行っていた。	PDF 化した資料をクラウド上で共有し、各自が自身の端末で見るようにした。 修学旅行のしおりも電子化し、情報漏洩のリスク回避や、旅行中の加筆・修正が容易になった。
4	資料の共同編集	生徒や保護者からの集約が必要な案内を紙で配布し、回収、集計等に手間がかかっていた。	三者面談の日程調整や生徒への課題等を、クラウド上で共同編集できる状態で共有し各自の端末で直接入力できる ようにした結果、回収や集計の手間が減った。

ウ　今後に向けて

今年度は、ＩＣＴの活用が得意ではない教員も多くいる中で、この分野に明るい教員を中心に活用方法等の教え合い・学び合いを行いながら実践を進めてきた。そうした実践の成果として、各教員が持つＩＣＴ活用に対する苦手意識や抵抗感等が薄れてきており、より効果的な活用方法について議論する風土が少しずつ醸成されてきた。今後は、実践を本ＷＧ内での取り組みに留めずに、学校全体を巻き込んだものに拡大させていく必要がある。特に、授業に領域における実践においては、カリキュラムＷＧで議論されている内容と連動しよりテーマを明確にした具体的な改革に取り組んでいく。

（３） 周知・広報ＷＧにおける検討について

ア　検討テーマと目的

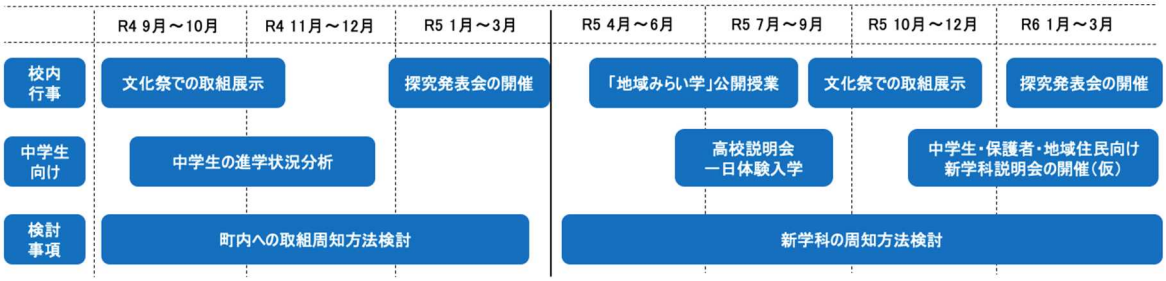
本 WG では、「新時代に必要な学びを、どのように中学生や保護者に理解・浸透させていくか？」を検討テーマに置き、以下３つの観点で取組を実施した。

①周知する「対象」の検討（特徴的な学びに興味を持つ層をイメージする）

②周知する「機会」の検討（全生徒・教職員で広報・周知を行う体制づくり）

③周知する「手法」の検討（中学生・保護者に効果的に伝わる方法を模索）

新学科の具体的な周知は令和５年度からとなるため、令和４年度は現在の取組を地域住民に広く周知する機会や手法を検討した。特に近年はコロナ禍の影響で、生徒の成長を保護者や地域住民に直接見てもらう場を設けることができなかったことから、地域に向けた情報発信に積極的に取り組むこととした。



イ　大槌高校の入学者に関する分析

町内及び近隣自治体の中学生がどのような目的で高校を選択しているのかを分析した。過去５年間の大槌高校入学者層の推移を見ると、令和元年度の魅力化事業開始以降、近隣自治体からの生徒が増加し、出身中学校の構成も多様化していることが分かった。また、町内中学生の分析から、釜石市内へ進学している生徒は、大学進学または商業資格取得を目的とし、管外進学生徒はスポーツを目的としていることが見えてきた。さらに、大槌・釜石地区の７中学校の高校進学先の分析等も実施した。以上の分析から、本校でどのようなカリキュラムを充実させていけば生徒数の確保が見込めるのかを予測・提案した。

ウ　文化祭及び地域での探究活動展示

以下の日程で、探究活動の成果を町内の施設等に展示し、地域住民に本校の特徴ある取組を周知した。生徒一人ひとりの顔が見える展示を行ったことで保護者からの注目も高く、生徒の取組状況を見てもらうことができた。

［校内展示企画］

・　10 月 14 日（金）～10 月 15 日（土）：文化祭期間に実施

［第１回展示企画］

・　12 月 12 日（月）～12 月 19 日（月）：シーサイドタウンマスト　１階センターコート

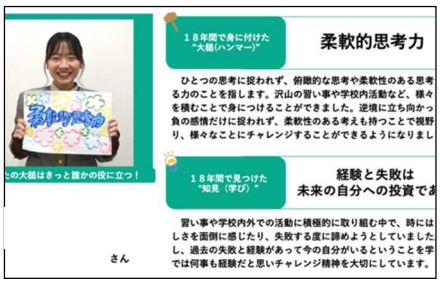
・　12 月 19 日（月）～12 月 26 日（月）：大槌町文化交流センターおしゃっちエントランス

※１年生「ちょこっとマイプロ」の活動まとめポスターを展示

［第２回展示企画］

・　２月 14 日（火）～２月 20 日（月）：シーサイドタウンマスト　１階センターコート

・　２月 20 日（月）～２月 27 日（月）：大槌町文化交流センターおしゃっち　エントランス



※３年生「18 年間で身につけた“大槌(ハンマー)”」の活動まとめポスターを展示

エ　note 等を活用した情報発信

県内の全県立高校に note pro アカウントが配布され、本校でも note を活用しながら探究の取組や学校行事、メディア掲載のお知らせ等を掲載している。10 月以降は、周知広報 WG の各教員が持ち回りで、授業や研究会等に関連する記事を作成した。

オ　地域に開かれた「探究発表会」の実施

２月 23 日（木・祝）に、大槌町文化交流センターおしゃっちにて、１・２年生の探究学習の成果発表会を実施した。昨年度は、新型コロナウイルスの拡大により中止となったため、

地域での探究発表会は初めての開催となった。町内から約 160 名、県内・県外から約 70 名の来場があり、多くの方に生徒の成長を直接感じてもらう機会となった。

【第１部】　１年生「大槌町の課題解決アイデア発表会」
【第２部】　２年生「マイプロジェクト活動成果発表会」
【第３部】　研究協議会 パネルディスカッション
テーマ：「小規模普通科高校の未来を語る」
登壇者：中川覚敬氏（文部科学省初等中等教育局教科書課課長補佐・
前岩手県教育委員会事務局学校教育室学校教育企画監）
酒井淳平氏（立命館宇治中学校・高等学校 キャリア教育部長）
教員２名・生徒２名

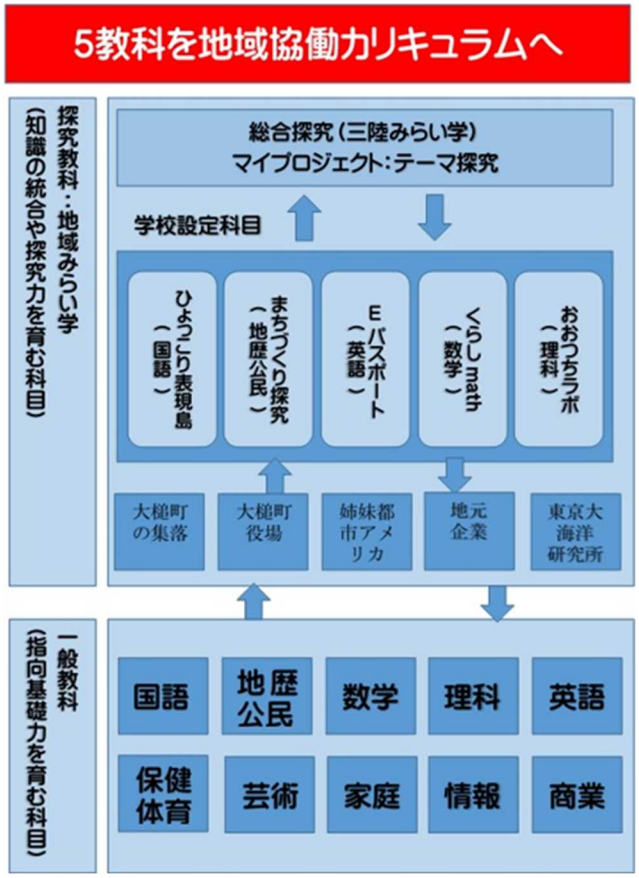
カ　今年度の成果・課題と次年度以降の方向性

・　地域での展示企画は、普段から高校生と接する機会のない住民にも本校の取組を周知することができ、新たな対象への周知方法を見出すことができた。新学科に関する情報や特徴についても、地域住民の生活に身近な場所を選んで伝えていくことで、より効果的な周知につながると考える。
・　探究発表会では、授業や地域活動等で関わった方々に多く来場いただけた。生徒たちが自分の意見を堂々と述べる姿が、取組への成長を実感するといった声があった。
・　地域への周知が広がる一方で、入学者数に直結する近隣中学生や保護者への効果的な周知方法については、今後検討を重ねていきたい。次年度は、中学校への学校説明会を、管内だけでなく広域で実施できるよう検討したい。

３　学校設定教科「地域みらい学」

生徒の資質・能力の育成のために各教科・科目と総合的な探究の時間を相互に関連させ、教科横断的な学習を実現することと、就職を中心とするコースの生徒に対して、これまで通りの授業でよいかという疑問点から、より探究的な学びを実践する科目を設定し、カリキュラムの中に体系的・系統的に位置づける教育課程を構築した。

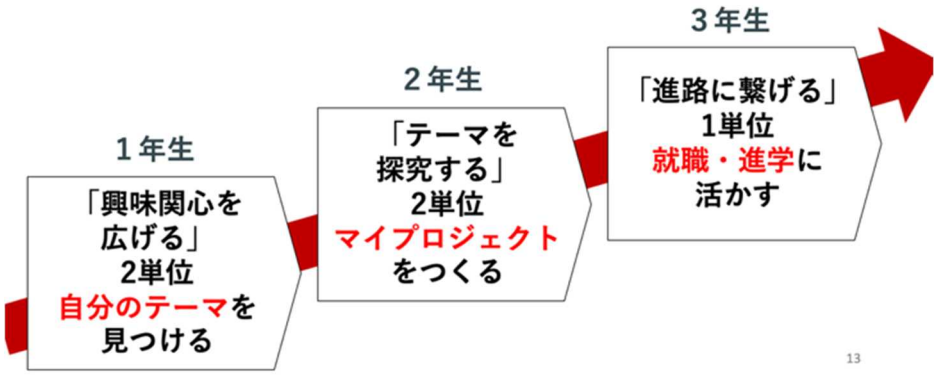
学校設定科目「三陸みらい探究」に加えて、国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語のそれぞれが探究的な学びを実践する、「ひょっこり表現島」、「まちづくり探究」、「くらしmath」、「おおつちラボ」、「Eパスポート」を設定し地域協働カリキュラムとして令和３年度から実施を開始した。



◇各学校設定科目の実施状況◇

（１）三陸みらい探究

三陸地域の復興を担うリーダーを育成することを目指し、３年間を通して身の回りや地域の課題を解決する力を身につけることを目標としている。同科目では、大槌町というフィールドを題材に、地域課題の発見・解決に向けた活動を実施した。東日本大震災を経験した大槌町を題材にすることで、生徒は複雑多様な地域の事情や住民感情の揺れ等に触れることになる。そのような状況から、自分自身を見つめ、理想の姿を描き、それを実現するための実践を行った。この学びを通して、地域を創る側の視点を持って社会参画する意欲と力を涵養するとともに、今後ますます不確実性の高まる未来を生きていく力を育むことを目指した。大槌町においては、震災後の生活基盤の復旧は完成を迎えている。今後は高校生が社会の構成員として主体的な意志をもち、理想の姿に向かい行動を起こすことも復興の姿そのものとなる。「三陸みらい探究」では、そうした地域におけるロールモデルの基盤となる資質・能力の育成を目指した。３年間を見通した流れは以下の図の通りである。



１年生では「興味関心を広げる」をテーマに、自分紹介プレゼンテーションや町内外の大人による人生講話、大槌町の行政をシミュレーションするワークショップ活動等に取り組んだ。自分自身に目を向けるところから徐々に視点を社会へ広げ、町内・町外の具体的な取組を知り、課題解決を体験的に学ぶ機会を設定している。

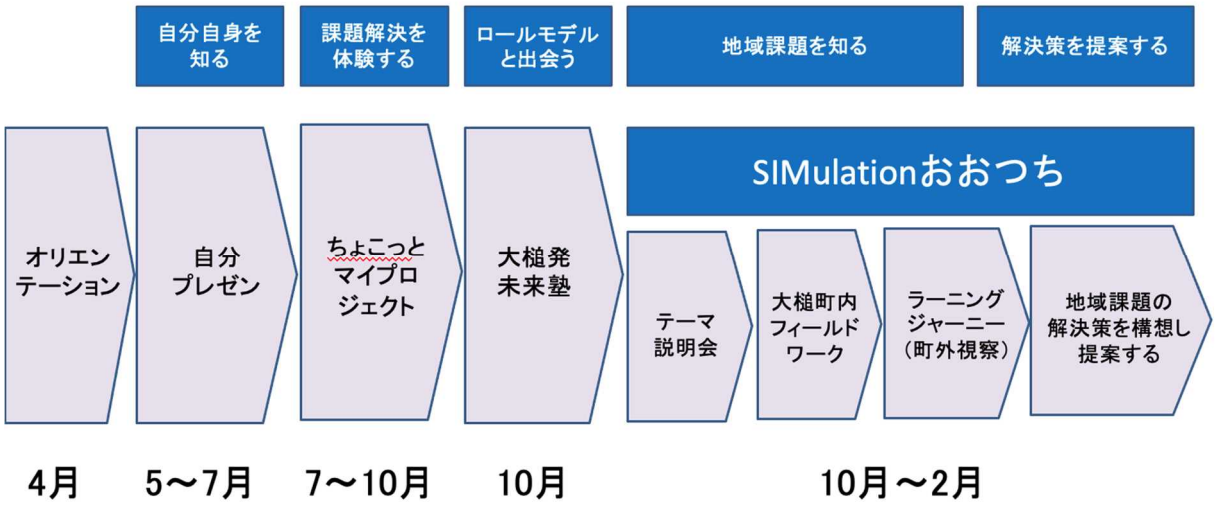
２年生では「テーマを探究する」をテーマに、自ら設定したテーマでプロジェクトを企画し、実行しながら探究を進めるマイプロジェクト活動に取り組んだ。各自の興味・関心から問いを設定し、他者や地域を巻き込みながら問いの検証を繰り返すことで、実践的な探究活動を目指している。

３年生では「進路に繋げる」をテーマに、大学・短大進学を目指す文理コースでは進路志望に関連したテーマでの探究活動、専門学校・就職を目指す「教養コース」では就きたい職業の未来を考える活動を実施した。また、18 年間で得た強みや知見を語るプレゼンテーション活動を通して、これまでの学びを総括した。

ア　１年生の取組

１年生では自分と社会に目を向けながら心が動くテーマを探すことを目標に、自分紹介プレゼンテーションや、町内外のゲストによる人生講話、大槌町役場へのヒアリングや町外視察を通して大槌町の地域課題解決に向けた提案を行う活動に取り組んでいる。２年生で行うマイプロジェクト探究活動に向けた下地作りの時期と位置付け、生き方・考え方を見つめ直し、自分と地域社会課題との関わりを考える機会を繰り返し設定している。

１年間を通した授業の流れは以下の通りである。



（ア）自分プレゼン（４月～７月）

総合的な探究の時間を始めるにあたって、自己発見・自己理解を深めることを目的に、自分自身をプレゼンテーションする「自分プレゼン」の作成に取り組んだ。また、「自分プレゼン」を町内の中学３年生に行うことで、より深い理解につなげることを目指した。昨年度は、大槌学園・吉里吉里学園の生徒を分けて発表会を実施していたが、今年度は町内の９年生の交流を深めるために、大槌学園・吉里吉里学園が合同で大槌高校に集まり、対面での発表会を実施した。

◆授業の流れ

回数	日程	内容
1	４月 12 日（火）	オリエンテーション
2	４月 19 日（火）	学びに向かう関係性づくり①
3	４月 26 日（火）	学びに向かう関係性づくり②
4	５月 10 日（火）	自分グラフを使っての自己理解
5	５月 17 日（火）	ロールモデルの自分プレゼンを聞く
6	５月 24 日（火）	自分プレゼンをつくる①
7	５月 31 日（火）	自分プレゼンをつくる②
8	６月７日（火）	自分プレゼンをつくる③
9	６月 21 日（火）	自分プレゼンをつくる④
10	７月５日（火）	自分プレゼン発表練習（リハーサル）
11	７月７日（木）	自分プレゼン発表会

◆オリエンテーション・学びに向かう関係性づくり

オリエンテーションでは、総合的な探究の時間の年間を通した目的と流れを説明し、自らの意志を持ち主体的に行動することへの意識づけを行った。また授業全体を通してお互いの意見や考えを交流させる機会が多いため、心理的安心のある関係性づくりのためアイスブレイク（共通点探しゲーム・傾聴トレーニング等）を実施した。

◆ロールモデルの自分プレゼンを聞く

自分プレゼンテーションのお手本として、本校卒業生３名に授業に参加いただいた。人生の先輩方の経験談に触れることによって、自分が行う発表へのイメージづけを行った。

◆自分プレゼンの作成

今年度は、「私はなぜ大槌高校で学ぶのか」をテーマに、15 年間の人生を振り返りつつ、大槌高校でどのような学びを実現したいのかをまとめ、５分程度のプレゼンテーションを作成した。最後はスケッチブックに清書し、紙芝居形式でのプレゼンテーションが完成した。

◆自分プレゼン発表会

日　時：令和４年７月７日（木）11：00～12：20

場　所：大槌高校 各教室

テーマ：「学園生に自分プレゼンを伝えることを通じて、自分についてより深く理解する」
「高校生の目標や生き方に触れることを通して、進路意識を高める」

対　象：大槌学園９年生（71 名）、吉里吉里学園９年生（14 名）

日　程：

開始	終了	内容
11:00	11:05	【開会】 ・　開会挨拶／趣旨説明
11:05	11:25	【アイスブレイク】 ・　教室全体でのアイスブレイク
		・　グループ内での自己紹介 ・　グループ内でのアイスブレイク
11:25	11:30	【発表に関する説明】 ・　発表の聞く順番

		・　ワークシートの書き方
11:30	11:37	【発表】 ・　高校生１回目発表（７分）
11:37	11:44	・　高校生２回目発表（７分）
11:44	11:51	・　高校生３回目発表（７分）
11:51	12:00	【グループ座談会】 ・　学園生徒から高校生への質問 ・　高校生から学校生活について語る
12:00	12:08	【感想記入タイム】 ・　ワークシートに感想を記入する
12:08	12:15	【グループ内感想共有】 ・　班内で９年生から高校生に感想を伝える
12:15	12:20	【閉会】 ・　学園生徒代表あいさつ ・　大槌高校生より閉会の言葉

【当日の様子】

司会進行・アイスブレイクの運営もすべて生徒が行い、小グループにわかれて中学３年生への発表を行った。発表後は座談会を設定し、中学生からの質問を受けたり、高校生が学校生活を紹介したりする時間を設けた。生徒たちは、後輩やお世話になった先生の前で、自らの経験を堂々と発表することができた。

【生徒の感想】

・最初は、どのようなことを話したら良いか迷っていましたが、作成を進めていくにつれて、自分の気持ちを言葉で表せるようになったと思います。
・これまで、自分の人生を振り返ったり、今後の人生について深く考えたりするという機会がなかったので、プレゼンテーションを作ることで良い経験ができたと思います。
・プレゼンテーションをするのは初めてで、とても緊張しました。自分の失敗した経験を話すことは少し恥ずかしさがありましたが、中学生が真剣に聞いてくれたので、しっかりと伝えることができたと思います。

（イ）ちょこっとマイプロジェクト

身近な課題解決を体験することを目的として、夏休み中に１週間で取り組む「ちょこっとマイプロジェクト」を実施した。これまでに取り組んできた自己理解の活動の発展させ、後続する SIMulation おおつちで町の課題解決に向けた提案を行うことを見据えて、この時期に設定した。自分の設定したテーマの現状と理想から、１週間程度で実施できる課題解決に向けたアイデアを考案した。最後に活動をポスターにまとめ、成果発表を行った。

◆授業の流れ

回数	日程	内容
1	７月 19 日（火）	オリエンテーション
2	８月 23 日（火）	「ちょこっとマイプロジェクト」計画立案
～「ちょこっとマイプロジェクト」実施期間～		
3	９月２日（金）	「ちょこっとマイプロジェクト」発表準備①
4	９月６日（火）	「ちょこっとマイプロジェクト」発表準備②
5	10 月４日（火）	「ちょこっとマイプロジェクト」発表会

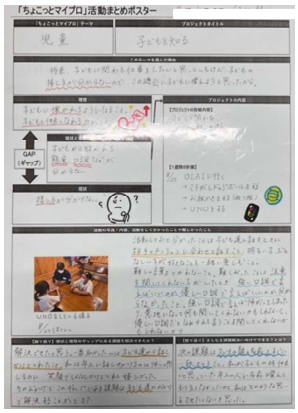
◆「ちょこっとマイプロジェクト」計画立案＆実施

生徒が立案した「ちょこっとマイプロジェクト」には、以下のような企画があった。

・保育士の進路を見据え、子どもとのふれあい方を学ぶため、学童でボランティアをする。
・心理に関わる仕事の種類を調べるために、精神科医にオンラインでヒアリングを行う。
・自分が好きなウルトラマンの魅力について、中学生に伝えるイベントを開く。
・大槌の郷土料理である「すっぷく」の作り方を地域の方から学ぶ。
・中学校でお世話になった先生に自分の成長を伝えるため、手紙を書いて渡しに行く。
・１週間毎日タイピングゲームに取り組み、タイピング技術を向上させる。
・家の近所でよく聞こえる鳥の鳴き声が気になり、どの種類なのかを観察する。

◆「ちょこっとマイプロジェクト」発表

活動の成果を、写真と共に A3 サイズのポスターにまとめた。８名程度のグループに分かれて、ポスターを使った成果発表を実施した。ポスターは、文化祭や町内のショッピングセンター等にも掲示し、生徒たちの活動を町民に広く伝えることができた。



（ウ）大槌発未来塾（10 月）

「大槌発未来塾」とは、町内外や多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、今後の進路・自らの未来を考えていくための材料とすることを目的とした企画である。１学期、総合的な探究の時間では自分と向き合うことを通じて、自分の興味関心を探るという活動を行ってきた。さらにその学習を進めるために、高校生のロールモデルとなりうる地域内外の大人を招いて話を聞く機会を設けた。

◆概要

日　時：令和４年 10 月３日（月）３・４校時

場　所：大槌高校体育館

テーマ：「身の回りの課題に取り組むチャレンジャーと出会う」

対　象：大槌高校１、２年生

日　程：

開始	終了	所要	内容
13:20	13:30	10	［移動］ ・１ターム目の発表教室に移動 ・投影スライド等の接続確認
13:30	14:10	40	［ゲストとの対話①］ ・開会挨拶（5 分） ・自己紹介＆アイスブレイク（5 分） ・ゲストによるプレゼンテーション（20 分） ・質疑応答（10 分）
14:10	14:20	10	休憩・移動（次に聞くゲストの教室へ）
14:20	14:55	35	［ゲストとの対話②］ ・自己紹介＆アイスブレイク（5 分） ・ゲストによるプレゼンテーション（20 分） ・質疑応答（10 分）
14:55	15:00	5	移動（各 HR へ）
15:00	15:20	20	［振り返り］ ・各 HR で生徒と講師集合 ・生徒より感想共有、ゲストより生徒へのメッセージ（20 分）

◆講師・プロフィール

No	分野	所属・氏名	プロフィール
1	観光	三陸花ホテルはまぎく 総支配人 立花和夫氏	宮古市出身。高校で上京し、卒業後は観光業に従事する。約 30 年間、三陸花ホテルはまぎく（旧波板観光ホテル）の支配人として従事し、震災による営業停止や再開な

			ど、様々な困難を乗り越えながら、三陸沿岸地域の観光業界を盛り上げている。
2	林業	大槌町産業振興課 林業担当 佐々木健介氏	釜石市出身。24 年間、釜石地方森林組合で森林整備や森林管理等を担当した。令和３年４月から大槌町産業振興課一次産業活性化班で林業を担当し、町内の森林・林業に係る事業等に取り組んでいる。
3	福祉・教育	大槌町スクール ソーシャルワーカー 南景元氏	韓国出身。徴兵を終え、調理師を目指し、日本に留学。福祉の大学に入学し、学校で働くスクールソーシャルワークを学ぶ。東京で働いていた時に震災があり、ボランティアで大槌町に入った。
4	地域・教育	NPO 法人吉里吉里国 事務局長 松永いづみ氏	東京都出身。2012 年に釜石へ、2017 年から NPO 法人吉里吉里国に勤務。 ダンス、子どもの教育、国際協力（発展途上国支援）、復興支援、移住、森林環境教育等の様々な職種を経験。
5	芸術	塗師屋 谷藤怜美氏	京都府出身。西陣織を家業とする家に生まれ育つ。京都伝統工芸専門学校で漆と出会い、漆と西陣織を組み合わせるオリジナル技法を開発。結婚を機に、大槌町へ移住。
6	観光	一般社団法人 SUMICA 佐々木敦代氏	岩手県盛岡市出身、花巻育ち。震災をきっかけに岩手に U ターンし、2012 年から住田町に移住。地域づくりに関わる仕事を中心に、2014 年に NPO 法人 wiz を、2015 年に一般社団法人 SUMICA を設立。
7	環境	NPO 環境パートナーシップいわて 坂下慶夏氏	大槌町吉里吉里出身。宮古高校卒業後に渡独し、環境先進国ドイツに魅せられ、大学でドイツの環境政策について学ぶ。大学卒業後は岩手に戻り、2020 年から環境教育に携わっている。
8	アート・ デザイン	株式会社ヘラルボニー 丹野晋太郎氏	岩手県・陸前高田市出身。震災をきっかけに、クリエイティブの世界へ飛び込み、クライアントワーク及び自社事業全般の企画制作推進を担当。デザイン業務にも従事。
9	大学生	宮城大学事業構想学群 ２年 君島真叶氏	釜石市鵜住居町出身。本校卒業生。高校時代から地域づくりに関心を持ち、現在は地

			域の若者がマイプロジェクトに取り組めるようなイベントを実施している。
10	大学生	弘前大学人文社会学部 ２年 倉本岳氏	大槌町吉里吉里出身。本校卒業生。吉里吉里大神楽に所属し、高校時代のマイプロでは郷土芸能をテーマに探究を進めた。

◆当日の様子

生徒は町内外 10 名の社会人・大学生から２名を選び、小グループでお話を聞いた。講師のみなさんに、自身が取り組んでいる分野についてのお話しだけでなく、これまでの人生の中での悩み、葛藤等を丁寧に話していただくことで、生徒は自身の経験と照らし合わせながら聞くことができた。また、大槌高校出身の卒業生という身近な存在の話に触れた生徒は、同じような環境の中で自分の夢を実現していった先輩の姿に強く心を動かされている様子だった。

◆生徒の感想

・谷藤さんの話から、「やりたいことはやる」ということと「周りの人を頼る」という二つのことを強く感じました。漆塗りの作品を自分の目で初めて見て、素敵だなと思いました。伝統工芸を仕事にし、自信を持って自分の作品を紹介できることがとても素敵だなと思いました。

・松永さんのお話から、積極性の大切さを学び、チャレンジすることを恐れないということを教わりました。一度ダメだと思っても、次を探して選択の幅を広げていこうと思えました。私も好きなことをして、自分の夢を叶えたいです。

・物事へのアプローチの仕方や自分で考える力など、倉本さんがマイプロジェクトを通して得られたものを知ることができました。倉本さんのように、自分の好きなことをテーマにすることで、熱中してマイプロジェクトに取り組めるのかなと思ったので、テーマを決める時に参考にしたいと思いました。

・私は海外にすごく興味があるので、坂下さんの「少しでも興味があるなら行ってみた方が良い」というお話を聞いて、私も若いうちに海外に行って色々な経験をし、日本とは違う文化に触れてみたいと思いました。私もときめく瞬間を記憶してノートにまとめるということを真似して、将来に繋げられたら良いなと思いました。

（エ）SIMulation おおつち

SIMulation おおつちとは、大槌町で起きている地域課題に対して、解決策を構想し提案する活動である。生徒が解決策を構想する地域課題テーマは、第９次大槌町総合計画の６つの柱に基づき、大槌町議会に設定していただいた。内容は下記の通りである。

No	高校生が解決策を構想する地域課題テーマ
1	大槌の資源を活かし、地域経済の好循環を図るための施策を考えよ
2	地域食堂（子ども食堂）を通じた食育（健康）の推進に関する施策を考えよ
3	郷土芸能を活用した、交流人口拡大のための施策を考えよ
4	三陸鉄道の利用者数増加に向けた施策を考えよ
5	ふるさと納税で多くの寄付を集めるための施策を考えよ
6	震災の体験を風化させず、次世代に継承するための施策を考えよ

学習は以下の順で行った。

a　大槌町議会によるテーマ説明会
b　各テーマに関する町内の現状を調査する（大槌町内フィールドワーク）
c　町外を視察し、各テーマに対する解決策の先進事例を学ぶ（ラーニングジャーニー）
d　課題が生まれている原因を探る、課題の検証に向けた調査
e　解決策を構想する
f　構想した解決策を発表する（課題解決のためのアイデア発表会）

◆授業の流れ

No	日程	内容
1	９月 30 日(金)	オリエンテーション
2	10 月 11 日(火)	大槌町議会によるテーマ説明会
3 4 5	10 月 18 日(火) 10 月 25 日(火) 11 月 1 日(火)	フィールドワーク事前学習 （テーマに関する調べ学習、質問出し）
6	11 月４日（金）	大槌町内フィールドワーク
7 8 9	11 月８日(火) 11 月 22 日(火) 11 月 29 日(火)	ラーニングジャーニー事前学習 （視察先に関する調べ学習、質問出し）
10	12 月５日（月）	ラーニングジャーニー（町外視察）
11 12 13	12 月６日(火) 12 月 13 日(火) 12 月 20 日(火)	課題の検討、課題解決アイデアの考案

14 15 16	１月 17 日(火) １月 24 日(火) １月 31 日(火)	解決アイデアの構想
17 18 19	２月 14 日(火) ２月 21 日(火) ２月 22 日(火)	発表に向けた資料作成、発表練習
20	２月 23 日（木・祝）	課題解決アイデア発表会 （グループごとに構想したアイデアについて大槌町議会議員に発表）

a　大槌町議会によるテーマ説明会

10 月 11 日（火）に、大槌町議会の阿部俊作議員、菊池忠彦議員、澤山美惠子議員、芳賀潤議員からテーマに関する説明を行っていただいた。生徒はそれぞれのテーマに関する基礎的な情報や、大槌町の現状についての理解を深めた。その後、生徒自身が取り組みたいテーマの希望調査を行い、調査の結果をもとに各テーマに 10 名ずつ振り分けた。10 名をさらに５名ずつの２つのグループに分け、活動がスタートした。

b　各テーマに関する町内の現状を調査する（大槌町内フィールドワーク）

各テーマに関する町内の現状をより深く理解するために、大槌町内でのフィールドワークを行った。フィールドワークは、前半に大槌町役場職員へのヒアリング、後半にテーマに関連する施設や住民を訪問する形式で実施した。

No	分野	役場ヒアリング担当課	訪問先
1	大槌の資源	産業振興課	桃畑養殖場 （大槌復光社協同組合）
2	子ども食堂	健康福祉課	つつみこども園 芳賀カンナ 氏
3	郷土芸能	教育委員会学務課	大槌町郷土芸能保存団体連合会 東谷一二三 氏 大槌町観光交流協会 服部真里 氏

4	三陸鉄道	町民課	三陸鉄道株式会社 三浦芳範 氏 大槌町観光交流協会 平賀聡 氏
5	ふるさと納税	産業振興課	有限会社魚よし 平野将 氏 MOMIJI 株式会社 兼澤幸男 氏
6	震災伝承	協働地域づくり推進課	一般社団法人大槌新聞 菊池由貴子 氏

【当日の様子】

生徒たちは大槌町役場を訪問し、テーマの担当課から大槌町の行政事業について説明を受けた。また、事前に用意した質問をもとに生徒たちからのヒアリングを実施した。活動の後半では、テーマに関連する施設や団体を訪問し、ヒアリングや体験活動を行った。

【生徒の感想】

・ふるさと納税にはメリットもある一方で、返礼品目当てでの納税者が増え、納税者の住む地域の市税が減るという問題点もあるということが分かった。大槌町のふるさと納税をもっと知ってもらうためにはどうしたらいいのかが課題だと知った。
・今日改めて、郷土芸能を継続していく大切さについて知れました。また、他の地域の人に大槌の郷土芸能の魅力を伝える大切さを知り、その伝える役目として若い世代の力が必要だと思います。
・大槌にこんなに大きい鮭の養殖場があることを初めて知ってすごいと思った。他にも鮭の生産量を増やし、大槌の主力産業にしていくところが特に興味深かったです。様々な努力があることを色々聞くことができ詳しく知ることができました。

c　町外を視察し、各テーマに対する解決策の先進事例を学ぶ（ラーニングジャーニー）

各テーマに関する課題解決のための先進的な事例を学ぶために、大槌町外の自治体や民間団体を訪問し、調査活動を実施した。最終的に町への提案アイデアを考えるにあたり、大槌町に活かせる知見を持ち帰ることを目指した。訪問するエリアは、いずれも各テーマに対して先進的な取組を行っている、岩手県の大船渡市、宮古市、花巻市、陸前高田市、釜石市と、宮城県の気仙沼市に設定した。

◆訪問先

No	テーマ	行き先	場所・内容
1	大槌の資源	大船渡市	【AM①】サン・フィッシュ釜石 【AM②】旧甫嶺小学校/三陸アクティブ 【PM①】越喜来波板海岸/スポアバッグづくり・藻場観察
2	子ども食堂	宮古市	【AM①】宮古市社会福祉協議会くらしネットみやこ 【AM②】子ども食堂「しおかぜダイニング」 【PM①】校内/子ども食堂メニュー調理体験
3	郷土芸能	花巻市 大迫町	【AM①】神楽の館見学 【AM②】大迫総合支所/大償神楽保存会 【PM①】大迫高校/学芸部神楽班との交流
4	三陸鉄道	気仙沼市	【AM①】気仙沼市役所/地域政策課 【AM②】交流プラザ/気仙沼市議会 今川悟氏よりお話 【PM①】大船渡線 BRT 及び三陸鉄道乗車
5	ふるさと納税	花巻市 大迫町	【AM①】花巻市役所/定住推進課 【PM①】大迫高校/ふるさと納税探究生徒との交流 ぶどう農家鈴木寛太氏よりお話、体験活動等
6	震災伝承	陸前高田市 釜石市	【AM①】東日本大震災津波伝承館見学 【AM②】高田松原津波復興祈念公園/ 陸前高田市都市計画課より案内 【PM①】いのちをつなぐ未来館/館内見学・語り部

◆当日の様子

グループごとにバスに乗って現地へ行き、１日を通して各地域の課題解決の取組を視察した。現地では午前と午後に渡り２～３つの事業所を訪問し、お話を聞いた。

各視察先では体験活動等を実施していただき、楽しみながら活動に参加することができた。

◆生徒の感想

・BRT について熱心にお話されていたのが印象的でした。BRT のメリットやデメリット他、鉄道がほしい理由などを教えてくださったおかげで、三陸鉄道と BRT の比較をすることができることができました。

・花巻市でふるさと納税に関して行っているお話を聞いて、大槌でも取り組めそうな活動があるなと感じました。花巻に比べたら大槌はまだまだですが、大槌にしかない食べ物や返礼品を存分に活かしてさらなる町の活性化に繋げたいと思いました。

・子供食堂を運営していく上で、試行錯誤を繰り返して改善していくが本質は絶対に曲げないという言葉がとても印象的でした。宮古市は連携を大切にしていて、地域全体のつながりを感じることが出来ました。

・ポアバッグを作って、実際に海に落としてみて、くくりつけるところなど工夫がたくさんされていてすごかったです。肉眼でも見れるくらいウニがたくさんいてびっくりしました。体験を交えて自分の知識を深めることができてよかったです。

d　課題が生まれている原因を探る、課題の検証に向けた調査

フィールドワークを経て、各グループがテーマに対する「現状」と「理想」を掲げ、そのギャップから生まれている「課題」を設定した。設定した課題が本当に起きているのかを検証するため、再度役場職員に質問をしたり、身の回りでのアンケート調査を実施したりしながら活動を進めた。

ｅ　解決策を構想する

上記を踏まえ、設定した「課題」から、大槌町で「すでにできていること」と「まだできていないこと」を整理した。「まだできていないこと」を参考に、解決策を構想し、まとめる活動を行った。

その後、発表会に向けた資料の作成や発表練習を行った。資料の作成はすべて Microsoft teams を活用して、生徒全員が共同編集できる形式で進めていった。

ｆ　構想した解決策を発表する（課題解決のためのアイデア発表会）

各チームが構想した解決策のアイデアを、大槌町議会議員や地域住民に対して発表した。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で校内のみでの発表会となったが、今年度は、大槌町議会をはじめ、地域に対して発表をすることができた。

◆発表会概要

日　時：令和４年２月 23 日（木・祝）10：00～11：40

場　所：大槌町文化交流センター おしゃっち

テーマ：「大槌町の地域課題に対する解決策のアイデアを発表する」

◆当日の流れ

10：00～10：20　開会・学校長並びに大槌町長挨拶（多目的ホール）

10：20～10：45　発表ターン１ ※４会場に分かれて実施

10：45～11：10　発表ターン２ ※４会場に分かれて実施

11：10～11：30　発表ターン３ ※４会場に分かれて実施

11：30～11：45　大槌町議会より高校生へメッセージ（多目的ホール）

◆当日の様子

これまでのフィールドワーク等で学んだこと及び構想した解決策のアイデアの提案を、PowerPoint にまとめて 10～15 分程度で発表した。大槌町議会の議員 10 名が出席して生徒たちの解決アイデアを聞き、質問応答を行った。

◆発表内容・解決アイデア一覧

No	テーマ	班	解決アイデア名	概要
1	大槌の資源	A	大槌 S-1 グランプリ	大槌サーモンへの知名度を上げ、売上の向上を目指し、大槌サーモンの新しい食べ方を提案する料理コンテストを考えた。
		B	Life below water ～ダイバー育成チャレンジ～	大槌の海の資源を守るために、磯焼け対策に携わるダイバーの増加を目指した高校生・大学生向けのダイバー育成企画を考えた。
2	子ども食堂	A	ちるどれんめい(Child 連盟) ～築いていこう共生の輪～	支援を必要としている家庭を把握し、各子ども食堂につなげていくために、子ども食堂運営団体と行政が情報交換できる場を考えた。
		B	おおつちこども未来 レストラン	子ども食堂が「楽しめる場」だと認識してもらえるよう、高校生が中心となって遊びや勉強、食育等の機会を提供することを考えた。
3	郷土芸能	A	交流人口を増やせ！ ちょこっと Local performing arts 体験ツアー	町内の各郷土芸能団体にお試しで参加し、数日間の練習を重ね、最終日に「かがり火の舞」で披露する体験型合宿を考えた。
		B	子どもたちに届け！ 郷土芸能の魅力 in 公民館	郷土芸能団体に所属していない小中高生を巻き込んでいくことが必要だと思い、各地区の公民館を回って PR する方法を考えた。
4	三陸鉄道	A	Illumination Train Night Project	車を持っている人でも三陸鉄道に乗車したくなる機会を目指し、乗車することで楽しめるイルミネーションイベントを考えた。

		B	Passenger Friendly 三陸鉄道活性化大作戦	利用者に優しい三陸鉄道にするために、乗車料金をバスと同等にしつつ、車内販売等を行うことで差額分を補う方法を考えた。
5	ふるさと納税	A	私達しかつくれない 付加価値	ふるさと納税をした人に「大槌を応援したい」と思ってもらえるように、町民みんなで作り上げる返礼品のパッケージデザインを考えた。
		B	唯一無二の大槌を全国へ！	大槌の返礼品が全国で話題になることを目指して、ユニークな新しい返礼品をつくり、SNS 等で面白く発信することを考えた。
6	震災伝承	A	見えない震災遺構 ～QR コードで伝え、残す～	震災遺構を何かしらの形で残していきたいと考え、被災した建物があった場所に QR コードを設置し、当時の様子を伝える方法を考えた。
		B	大槌の震災を 五感で伝える絵本	震災を知らない世代の子どもたちに当時の様子を分かりやすく伝えていくために、五感で伝える仕掛け絵本を考えた。

◆生徒からの感想

・大槌の町は好きだけれど、大槌の魅力を自分の言葉で相手に発信する機会はこれまでありませんでした。SIM おおつちの活動を通して、たくさんの方々のお話を聞く中で、大槌の魅力は、町全体を巻き込みながら「みんなで良い町を作ろう」という意識を持っている人たちが多いことだと考えました。そして、大槌をより良い町にしていくために、自分たち高校生にもできることがあるのだと感じました。

・SIM おおつちが始まる前までは、町の課題は他人事だと思っていましたが、取り組んでみると決して他人事ではなく、自分も当事者の一人なのだと実感しました。自分たちの考えたアイデアを議員の方にも評価してもらえて、達成感を感じました。

・これまで町を歩いていて三陸鉄道が走っていても何も感じることがありませんでしたが、活動を行うごとに三陸鉄道を見かけると「今日は人が多いな」「鉄道の外装が変わっているな」など意識することが多くなりました。町の良いところを見つけられるようになって良かったです。

・半年間、町の課題に向き合ったことで、興味を持つことができたり、他にも課題がないか、どうしたら解決できるのかを考えたいと思えるようになりました。地域の方、町議会の方に発表した時に、「ぜひ実現してほしい」という前向きなコメントをいただくことができて嬉しかったし、頑張ってきて良かったなと思いました。

イ　２年生の取組

２年生では、生徒各自が興味関心から取り組みたいテーマを設定し、問いを立てながら検証アクションを繰り返していく「マイプロジェクト」に取り組んだ。

４、５月は、自分の興味や身の回りの気になることを模索しながら、個人でテーマを設定

した。６月からは、各自のテーマに関する問いを立て、検証アクションを実行した。フィールドワークを行い、生徒のテーマに関連する地域の方からの協力を得ながら活動を実施した。

８月以降は、生徒や教員が５つのゼミに分かれて、個々で進めるプロジェクトを共有・相談するコミュニティをつくりながら授業を展開した。また、オンラインを活用し他県の高校生とお互いの探究の進捗状況を共有し合うオンライン探究交流会（６月、７月、11 月、２月）や、校内での中間発表会（10 月）、地域での最終発表会（２月）も実施し、自身の学びを振り返り、他者に向けて発表する機会を定期的に設定した。

プロジェクト活動の指導にあたり、認定ＮＰＯ法人カタリバのスタッフ４名と大学生インターン２名に協力をいただいた。

１年間を通した授業の流れは以下の通りである。１回の調べ学習だけで活動を終わらせずに、年間を通して問いを更新し続けることを目的としてカリキュラムを設計した。

（ア）テーマ設定（４月）

◆気になること探しワーク・テーマの設定

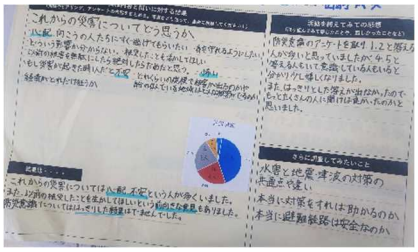
自分の過去の経験から印象に残った出来事を振り返ったり、新聞や広報誌を見て気になる記事を探したりしながら、テーマに繋がりそうなキーワードを書き出した。その上でプロジェクトのテーマとそれに関連する３つのキーワードを個人で設定した。

（イ）マイプロジェクトの問いⅠ（５月～７月）

◆“常識を疑う問い”から、ちょこっとマイプロを実行しよう

「本当に（テーマ）は〇〇なのか？」という“常識を疑う問い”を設定した。

“常識を疑う問い”を検証するために、１週間程度で実行できるアクション（ちょこっとマイプロ）を計画し各自がアクションを実行した。



【生徒から出てきた問い】
・本当に、地域のつながりは薄れてきているのか？
・本当に、障がいを持った方と関わるのは難しいのか？
・本当に、歯医者を怖がる人は多いのか？
・本当に、努力をすれば自分の能力は向上するのか？

◆“アイデアを広げる問い”からプロジェクトの未来を考えよう
「どうしたら〇〇できるのか？」という“アイデアを広げる問い”を設定した。ブレストカードを使い、問いに対するアイデアをグループで出し合った。

【生徒から出てきた問い】
・どうしたら、海洋生物の生態系を守ることができるのか？
・どうしたら、防災を自分ごととして捉えてもらえるのか？
・どうしたら、地域の活動に若い人が参加するようになるのか？
・どうしたら、集中力を継続することができるのか？

◆第１回オンライン探究連携授業（６月７日）
小規模校４校がオンラインで集まり、互いの探究活動を共有しながら学びを深めていく「オンライン探究交流会」を実施した。本校の生徒 60 名と、山形県立小国高等学校生徒 25 名、栃木県立足利特別支援学校の生徒３名、熊本県立小国高等学校の生徒 47 名が参加し、オンラインビデオ通話を活用して交流した。
１回目の交流会では、**「聴く姿勢を身につけながら、お互いの共通点や違いを知る」をテーマ**

に、各校の紹介や生徒同士のアイスブレイクなどを行った。

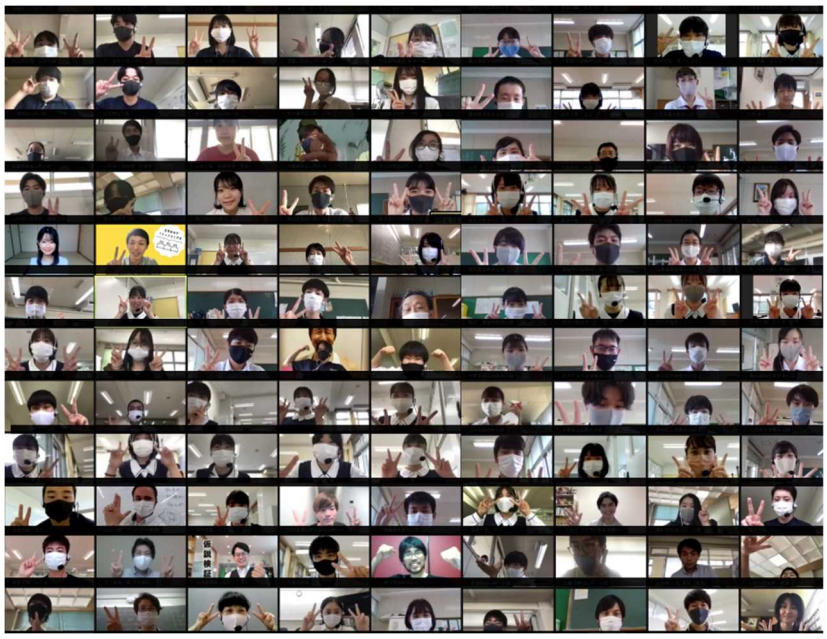
◆第２回オンライン探究連携授業（７月 15 日）

２回目の交流会では「ロールモデルとの出会いを通して“マイプロジェクト”をもつ楽しさを知る」をテーマとした講演会を実施した。ロールモデルとの出会いを通して、マイプロジェクトを進めていくイメージを深めることができた。

講師は自分のテーマを仕事につなげている社会人や高校時代にマイプロジェクトに取り組んだ現役大学生を中心とした 13 名に参加していただいた。

【テーマ・講師一覧】

No	テーマ	講師名（所属）
1	健康・スポーツ	板谷悠佑氏（野崎徳洲会病院）
2	ＩＴ	今川哲矢氏（株式会社 ti）
3	メディア	加藤聡氏（日本テレビ放送網株式会社）
4	観光	佐々木文人氏（株式会社 KNOT　WORLD）
5	探究・キャリア	信岡亮介氏（株式会社アスノオト）
6	映像制作	松岡弘明氏（カミハグプロダクション株式会社）
7	行政・まちづくり	和田大志氏（熊本県庁）
8	教育・地域活性化	井下友梨花氏 （熊本県益城町教育委員会・地域おこし協力隊）
9	自然科学	落合真弘氏（大学生）
10	デザイン	後田将人氏（大学生）
11	表現	中島幸乃氏（大学生）
12	地域活性化	日向風花氏 （大学生・尾鷲市地域おこし協力隊）
13	地域医療	總山萌氏（株式会社 Community Nurse Company）



◆マイプロジェクト・フィールドワーク（7月20日）

各自の探究活動を進めていくにあたり、各テーマに精通した地域の大人と出会うことを目的として「マイプロジェクト・フィールドワーク」を実施した。

生徒のテーマから 19 ヶ所の訪問先及び講師を設定し、生徒たちが各講師のもとに出向いて、プロジェクトの進め方や今後の方向性などについて相談をした。また、遠方の講師については、オンラインで実施した。

【テーマ・講師一覧】

No	テーマ	講師名（所属）★はオンライン参加
1	対人関係	南景元氏（大槌町スクールソーシャルワーカー）
2	アート・デザイン	内海沙樹氏（おらがおおつち夢広場・デザイナー）
3	環境	佐々木洋介氏（浄土ヶ浜ビジターセンター）
4	栄養	菊地範子氏（大槌町食生活改善推進員団体連絡協議会）
5	防災	平野圭氏（大槌町防災対策課）

6	地域コミュニティ	越田実紀子氏・岩間裕歌氏（大槌町協働地域づくり推進課）
7	写真	小笠原佑樹氏（大槌町協働地域づくり推進課・広報担当）
8	福祉	渡辺賢也氏（大槌町社会福祉協議会）
9	観光	小國夢夏氏（大槌町観光交流協会）
10	宗教・哲学	大萱生修明氏（大念寺住職）
11	スポーツの魅力向上	河合秀保氏（河合商店代表・花道プロジェクト企画者）
12	障がい・福祉	東梅麻奈美氏（地域共生ホームねまれや）
13	医療・看護	看護師のみなさま（植田医院）
14	歯科	歯科衛生士のみなさま（近藤歯科医院）
15	スポーツの技術向上	佐藤陸氏（トレーニングジムＫｉｎｇ８）
16	ファッション	中村雅人氏（ＴＫＭＳＢＡＳＥ代表）
17	海洋生物	大土直哉氏（東大大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター）
18	音楽	臺隆明氏（槌音プロジェクト代表）
19	キャンプ	芳賀博典氏（吉里吉里公民館館長・ボーイスカウト経験者）
20	国際交流	松永いずみ氏（吉里吉里国スタッフ・青年海外協力隊経験者）
21	動物	鈴子真佐美氏（保護猫アンドゥ）
22	美容	石井恵里奈氏（美容師）
23	特撮・アニメ	有坂民夫氏（シネマ・デ・アエル代表）★
24	文学	帆苅基生氏（弘前大学教育学部教授）★
25	キャリア	星野七海氏（一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー）★
26	起業	古川真愛氏（大学生・マイプロジェクト経験者）★
27	その他	竹入悠渡氏（大学生・マイプロジェクト経験者）★

◆夏休み中のアクション計画（７月）

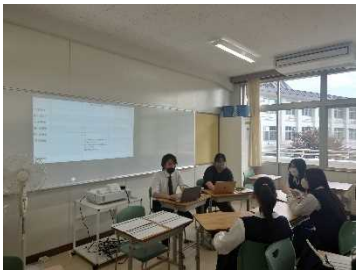
フィールドワークでのアドバイスを活かし、夏休み中のアクションを計画した。

（ウ）マイプロジェクトの問いⅡ（８月～10 月）

◆ゼミ活動

夏休み明け以降は、授業時間等を使い各自で探究活動を進める体制に入った。町内の協力者のもとへ足を運んで調査活動を行う姿や、ＰＣ・タブレットを使ってオンラインインタビューを行う姿など、外部の方々に協力を求めながら活動を進める様子が見られた。

生徒のテーマや教員の専門分野をもとに５つのゼミをつくり、ゼミごとに各自の探究活動の進め方を相談し、定期的に生徒同士が互いの進捗状況を共有した。



◆マイプロジェクト中間発表会（10 月 26 日）

問いⅠ、問いⅡ期間のまとめとして、中間発表を実施した。生徒各自が、半年間実施してきた活動の進捗とそこから得た学びについてプレゼンテーション形式で発表した。

◆第３回オンライン探究連携授業（11 月２日）

７月の２回目の交流会に引き続き、３回目のオンライン交流会を実施した。４校の生徒が関心の近い生徒同士で小グループをつくり、各自が探究活動を紹介し意見交換を行った。それぞれが、自身の活動を振り返るとともに、今後の探究を深めるヒントを得る機会となった。

（エ）マイプロジェクトの問いⅢ・まとめ（11 月～２月）

◆活動の振り返り・まとめ（１月）

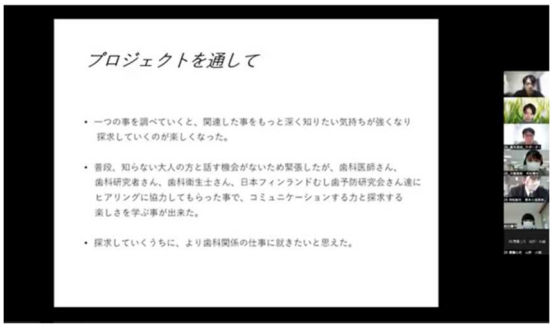
11 月以降も、引き続きゼミごとに分かれて生徒が各自で探究活動を進めていった。

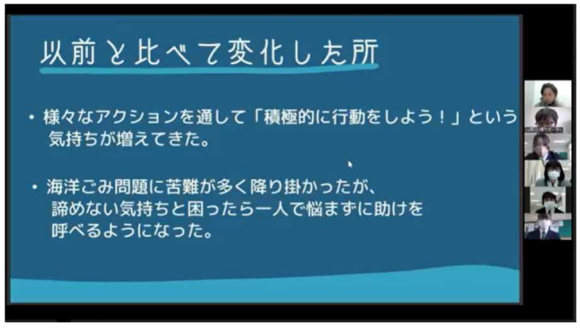
冬休み明けの１月以降は、ワークシートを活用しながら、これまで立てた問いやその検証アクションを整理するとともに、活動を通して得た学びについて振り返る機会をとった。

◆第４回オンライン探究連携授業（２月 17 日）

11 月の３回目の連携授業に引き続き、４回目のオンライン探究連携授業を実施した。１年

間のまとめという位置づけで、前半は４校の生徒がそれぞれ小グループをつくり、これまで実施してきた活動の内容や、そこから得た学び等について各自が５分間で発表した。後半は、①１年間の探究を振り返るコース、②今後に向けて探究テーマを更に深めるコースに分かれて小グループをつくり、生徒同士で意見交換を行った。





◆最終発表会（２月 23 日）

最終発表会は町の文化交流センターで実施し、これまでに生徒の活動に関わった方々をはじめ、保護者、地域住民、教育関係者等、約 230 名の方に来場していただいた。生徒は、各自が１年間の探究活動の成果と学びについてプレゼンテーションにまとめて発表した。

（オ）プロジェクト実践事例

◆分野・活動内容一覧

No	分野	発表タイトル	活動内容
1	福祉･教育	誰も取り残されない未来の教育環境の在り方	ＨＳＰ傾向にある自身の特性をきっかけに、授業に集中できない生徒の状況を調査し、学校教員との対話を通して、誰もが集中できる授業環境づくりを行った。
2	対人関係	コミュニケーション能力はどうやったら上がるのか？	周りの人と上手く人間関係を築けるように、コミュニケーション能力を向上させるための実験に取り組んだ。
3	アニメ	実写作品の問題点と改善策	漫画の実写化作品をいくつか実際に見て、その傾向と問題点を分析し、改善策を自分なりに検討した。
4	キャリア	文学、折り紙、好きなものについて	１つのことを継続的に考え続けることが苦手という自身の特性から、興味のあることを広く浅く調べてみるという実践を行った。その過程を通して自身の今後のキャリアに検討した。

5	美容	メイクをする事で自信が出るのか？	アンケート調査や、論文を用いた文献調査を通して、メイクと自己肯定感の関係性について考察した。
6	スポーツ	長距離走で記録を伸ばすには何が必要なのか？	自身の運動能力の向上と、努力することの価値を知ることを目的として、ランニング等のトレーニングを継続的に行った。
7	スポーツ	バスケットボールの魅力を伝えるには	地域のバスケットボール人口を増やすための方法を、バスケットボールに関わる地域の方へのヒアリングを通して模索した。
8	医療･教育	ど田舎 JK のキャリア教育	田舎住みが原因でロールモデルに出会えず、進路選択に必要な職業イメージが湧かないという自身の課題を解決するために、オンラインを活用した職業インタビューを継続的に実施した。
9	音楽	曲作り	歌が好きという思いから、これまで取り組んだことがなかった作詞・作曲活動に挑戦し、オリジナル曲を 10 曲ほど制作した。
10	音楽	ベースの技術向上	ベースの技術を向上させるために、実際にバンド活動を行っている方へのヒアリングを行い、練習に励んだ。また、学校内の友人を誘って実際にバンドも結成した。
11	服・表現	ファッションは自分を変える	ファッションが好きという思いを起点に、着なくなった服を利活用した作品を制作した。また、その過程を通して、ファッションと自己表現の関係性について考察した。
12	教育	1 人 1 人自分に合った方法で教育を受けるには？	教育や福祉に関連する方へのインタビューや文献調査を通して、非行や不登校に関する課題を分析し、より良い学校教育のあり方について考察した。
13	音楽	どうしたら J-POP は世界で売れるようになるのか？	J-POP に興味を持つ人が増え、より売れるようになるための方法を、K-POP の事例等を収集した比較調査を実施して検討した。
14	キャリア	マイプロジェクトでアクションをするとは？	マイプロジェクトを通して、いくつかの分野に関して実際にアクションを行い、探究することやアクションすることの価値について考察した。
15	福祉	悩んでいる人が生きやすい世界を創るために～ラジオの可能性～	悩みを抱えている人が生きやすい環境をつくるために、教育や福祉に携わる方々へのヒアリング調査を行い、学校内での校内ラジオを実現した。
16	キャリア	人生について	アンケートやヒアリングを通して、後悔しないための人生の歩み方や、他者と良好な人間関係を築く方法について考察した。

17	福祉	幸せとは何か？	福祉に携わる方へのヒアリングやアンケート調査を通して、幸せの定義を考え、自身がより良く生きる方法について考察した。
18	福祉	発達障害と向き合う	保育や福祉に関わる方へのヒアリングを通して、発達障害を持つ子どもと保護者への関わり方について考察した。
19	歯科	目指せ！8020！！	歯科衛生士や研究者へのヒアリングを通して、キシリトールが虫歯予防に与える影響について考察した。
20	防災	防サイクル Part２	災害時に避難所に避難しない人の状況についての調査活動を行い、災害で失われる命を少しでも減らす方法について検討した。
21	美容	メイクは自信につながる	自身のコンプレックスを克服したいという思いからメイクについて探究し、メイクを用いた心理学実験を行った。
22	自然	楽しくキャンプ	オリジナルのキャンプを企画、実施し、チームで協力することや、自分の責任を果たすことの重要性について考えた。
23	キャリア	自分の人生をより良くするために	マイプロジェクトの活動で複数のアクションを行うことを通して、自分の人生をより良くするための方法について検討した。
24	服	服について	ファッション系の仕事に就きたいという思いを実現するために、オリジナルの服作りに挑戦した
25	写真	初心者の写真撮り	自身のカメラ撮影技術向上のために、カメラマンへのヒアリング調査等を行った。また、実際に自分で撮影した写真をコンクールに応募した。
26	地域活性	地域活性化のための土づくり～高校生コーディネーターとしての挑戦～	震災やコロナの影響で薄れてきている地域のつながりを復活するために、地域住民とマイプロジェクトに取り組む高校生をマッチングする活動を行った。
27	海洋生物	ウミガメについて	ウミガメの生態や、ウミガメの保護に関する取り組みの問題点を、研究者等の協力を得ながら考察した。
28	環境	藻場について	磯焼けによって起こる問題について調査し、課題解決に向けた第一歩として海藻を育てるための実験を行った。
29	動物	猫にとって栄養のある食事づくり	猫の保護活動を行っている方や、動物園の飼育員さんへのヒアリングを通して、猫にとって本当に栄養のある食事について考え、実際に試作した。

30	医療	理学療法について	自身の将来の夢につながる知見を広げるために、理学療法士へのヒアリングを行った。
31	環境	海とゴミ問題～海洋プラスチックごみについて～	海洋生物の生態系を守りたいという思いから、海ゴミ問題の実態を調査し、海ゴミを利活用したグッズを制作した。
32	昆虫	トンボの翅の秘密とは？	トンボと、トンボ以外の数種類の昆虫を実際に捕獲・写真撮影し、翅の違いについて観察を行った。
33	アート	イラストを上達させるには？	イラストの技術向上を目指して、たくさんの作品を描いた。また、イラストを専門に学ぶ専門学生等へのヒアリング等を行い、自身の趣味を仕事にしていく方法を模索した。
34	スポーツ	どうしたらバトミントンのスマッシュは速くなるのか？	自分のプレーを動画で撮影して、速いスマッシュを打つために必要な要素について分析した。
35	交通 アート	地域に残る鉄道	鉄道模型イベントや個展イベントの開催を通して、三陸鉄道が持つ魅力について考察し、地域の鉄道を後世に継承していく方法を検討した。
36	栄養	化学で考える食事	地域の食生活の課題を解決するために、食生活改善推進員や、先進的な事例を持っている行政へのヒアリング、栄養素の働きを分析する実験等に取り組んだ。
37	スポーツ	筋肉をつける	自身の筋力を向上させるために、効果的なトレーニングや栄養補給の方法について検討した。
38	心理	自分の中の創作意欲	何かをつくることに対する意欲や集中力を持続させるための方法について模索した。
39	ビジネス	起業について	自身の生い立ちから、規格外野菜の廃棄問題に興味を持ち、地域に貢献するためのビジネスモデルを検討した。
40	栄養	食とスポーツ	食事を通したスポーツのプレー向上を目指して、専門家等へのヒアリングを参考に、プロテインを使ったオリジナルクッキーを試作した。
41	心理	興味について	物事に興味を持てない自身の特性と向き合うために、小さなアクションを繰り返すことを通して、物事に興味を持てる方法を模索した。
42	ジェンダー	LGBTQ について	ジェンダー的な特性で生きづらさを抱えている人を支えるための方法について、当事者へのヒアリング等を通して検討した。

43	観光	ますと乃湯について	地元の温浴施設の魅力を多くの人に知ってもらうために、実際に何度か通うことを通して、魅力の要素について考察した。
44	福祉	双子を持つ親のために	自身が双子の当事者という経験から、多胎児家庭の状況や支援策について興味を持ち、行政へのヒアリングや双子の当事者同士が語り合う「双子座談会」を実施し、効果的な支援方法を検討・提案した。
45	医療	看護の知識を広げる	自身の将来の夢につながる知見を広げるために、今後師へのヒアリングを行った。
46	スポーツ	バドミントンのメンタルについて	試合中に焦ってミスをしてしまう自身の課題を解決するために、メンタルを鍛える方法について調査した。
47	交通	堤防の利用について	舗装されていない堤防の問題の解決方法を検討するために、行政の担当者へヒアリングを行った。
48	スポーツ	バスケットボールの人気を上げるためには	バスケットボールの人気を上げる方法を検討するために、地元のバスケ関係者や、プロバスケチームの関係者にヒアリングを行った。
49	スポーツ	ジャンプ力を向上させるためには	自身のジャンプ力を向上させるために、効果的なトレーニングの方法について検討した。
50	ゲーム	「ゲームが持つコミュニケーション」の可能性について	ゲームを通じて多くの人が交流できるようになることを目指して、自身が制作したゲームを用いた交流活動を行った。また、特に不登校傾向にある子どもたちの役に立てるような交流方法を模索した。
51	国際	世界クイズ	海外の様々な国に関する情報を多くの人に知ってもらうためのワークショップイベントを開催した。
52	スポーツ	スポーツ人口を増やすためには	スポーツ人口を増やすための方法を、アンケート調査等を通して検討した。
53	宗教･哲学	生と死　死を迎える人と周囲の影響	お寺の住職さんやカウンセラーさんへのヒアリングを通して、「生きることと死ぬこと」という答えのない問いに対して向き合い、その意味について考えた。
54	スポーツ	大槌町のトレーニング人口を増やすためには	トレーニング人口を増やすための方法を、アンケートやヒアリング調査を通して検討した。
55	動物	チワワの好き嫌いを克服をさせるためには	家で飼っているチワワが市販のドッグフードを食べてくれないという問題を解決する方法を、ペットショップの店員さんへのヒアリング内容を参考にして模索した。

《事例①「地域活性化のための土づくり～高校生コーディネーターとしての挑戦～」》

震災や新型コロナウイルスの影響で薄れてしまった地域のつながりを復活させたいという思いから始まったプロジェクト。地域住民と高校生それぞれへのニーズ調査の結果、お互いが接点を求めていることに気づき、高校生コーディネーターとして両者をつなげる活動に取り組んだ。その過程で様々な壁にぶつかり、自己と向き合う経験を通して地域のつながりづくりの本質を発見した。

《事例②地域に残る鉄道》

三陸鉄道が持つ魅力や価値とは何か？という問いを明らかにするために、鉄道イベントや個展イベント等の開催を通して多くの地域住民の声を聞いた。その結果から見えてきたことと、他地域の地域鉄道の事例を比較し考察することで、地域の鉄道を後世に継承していく方法を検討した。

《事例③「防サイクルＰart２」》

「災害で失われる命を１つでも減らしたい」という思いのもと、大槌町、釜石市をフィールドとして、行政へのヒアリングや住民へのアンケート調査を行った。約 250 名の方に協力いただい調査の結果、避難所に避難したくない理由があることが適切な避難行動ができない要因になっていることが明らかになり、そうした状況にある方でも、適切な避難行動ができるような方法を模索した。

◆生徒の感想

・マイプロジェクトの活動を通して、地域の方々が温かく迎えてくれる経験を数多く得て、「私はこの町にいていいんだ」という感覚が芽生えてきました。小さい頃から人見知りで人付き合いが苦手だった私ですが積極的に人と関われるようになりました。将来も、この町に貢献できる人になりたいという気持ちが強くなりました。

・マイプロジェクトの発表会やオンライン探究交流会を通して、大槌高校の中だけでは関われない同世代の高校生と交流できたのが良かったです。自分の活動に対して共感してもらえたり、自分とは別の視点でアドバイスもらえるのが嬉しかったです。また、同世代の人が自分と同じように頑張っていることを知って、活動に対する意欲が湧きました。

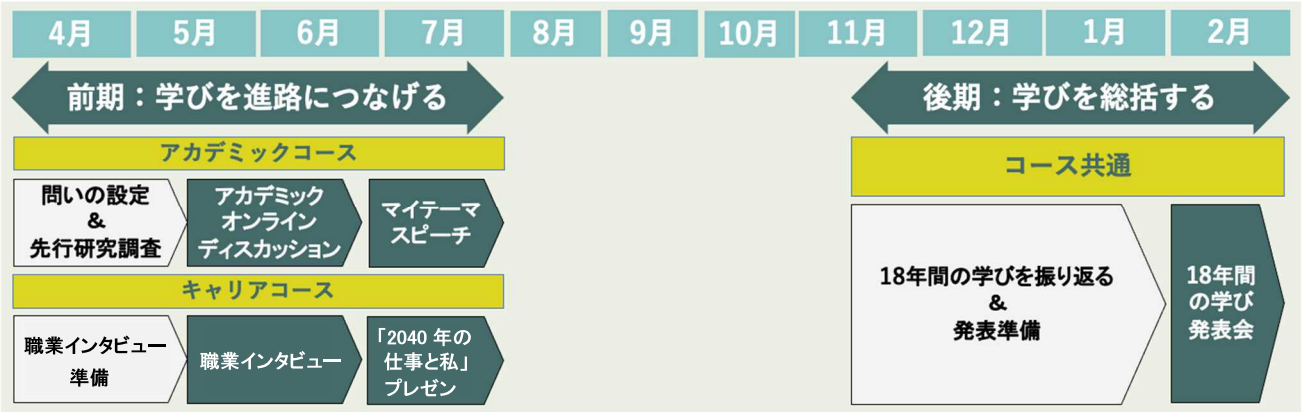
・最初は何をやればいいのか分からなくて不安でいっぱいでしたが、活動を重ねていくうちに知りたいことがたくさん出てきて、気づいたらマイプロに熱中している自分がいまし

た。新しいことを知ることや、物事を深く考えることの楽しさを実感することができました。

ウ　３年生の取り組み

前期（４月～６月）、後期（11 月～２月）に分けて実施した。前期では、これまでに取り組んできた学習をそれぞれの希望進路へ接続することを目指し、大学・短大進学や公務員を希望する「アカデミックコース」と専門学校進学や就職を希望する「キャリアコース」の２コースで授業を展開した。関心あるテーマの専門家や希望する職種の社会人との対話を通して、自らの現状と将来の在りたい姿を比較しながら進路実現に向けて必要な力を認識することができた。後期では 18 年間の学びの集大成として、これまでの人生を通して身につけた力と様々な経験から得られた知見について語るプレゼンテーションを作成した。最終的にはマイプロジェクト活動等でお世話になった地域の方を学校に招き、プレゼンテーションを発表した。

１年間を通した授業の流れは以下の通りである。



【前期（４月～６月）】

（ア）アカデミックコース：「アカデミック・オンラインディスカッション」

a　問いの設定・先行研究調査

前年度のマイプロジェクトで探究した問いをベースに、ディスカッションで話したい問いを設定した。論文検索サイトを活用して先行研究の調査を行うことで、自分のマイプロジェ

クトがどのような学問分野や研究と結びついているのかを認識した。各生徒がディスカッションに参加していただきたい専門家（大学教授、有識者等）を選定し、メール等でアポイントを取った。

b アカデミック・オンラインディスカッション

生徒自身のテーマと近い分野で研究や実践に取り組む専門家とのオンラインディスカッションを下記の 16 テーマで実施した。生徒が４～５人１組になり、自分のテーマ以外の３つ程度のディスカッションにも参加することで、多様な問いについて深く考え、自分の意見を述べる力が身についた。また、大槌町小中高接続事業の一貫として、授業内のディスカッションの様子を公開した。

【問い・講師一覧】

No	問い	講師
1	時代とチーム育成にふさわしいリーダーになるためには	世羅侑未氏 （株式会社プロノイアグループ）
2	行動経済学と葛藤の関わり	小井田伸雄氏 （岩手県立大学総合政策学部教授）
3	顧客の本質的なニーズを引き出すために大切なコミュニケーションのとり方とは	阿部至氏 （フリーデザイナー）
4	医療関係者に効果的なメンタルケアとは	阿部卓史氏 （釜石大槌地区行政事務組合消防本部）
5	平等と公正について	和田大志氏 （熊本県庁）
6	保護者が家庭で応答的な環境をつくるためにはどうしたら良いのか	河合清美氏 （NPO 法人こども発達実践協議会 代表理事）
7	インクルーシブ保育への理解と普及を進めるためにどのようなことが必要か	田中恭子氏 （ペガサス福泉中央こども園 理事）
8	災害時における Well-being な栄養のありかた	清水詳子氏 （公益社団法人日本栄養士会研究・教育センター事業課）

9	高齢者と障害者と心を通わせるコミュニケーションのとり方とは	井谷重人氏 （CIL 星空）
10	動物を買わずに家族に迎え入れるにはどうしたら良いか	長野礼子氏 （株式会社 Auxi）
11	障がい者の事故を減らす方法	金子健氏 （国立特別支援教育総合研究所）
12	「高齢者の孤独」という社会課題を、コミュニケーションの力によってどのように解決しているのか	神山晃男氏 （株式会社こころみ代表取締役社長）
13	障害に対する知識を得ることと差別意識の関係性について	大塚類氏 （東京大学教育学部准教授）
14	障がいがある方から見た社会・医療福祉とは	畠山亮夏氏、畠山織恵氏 （一般社団法人 HI FIVE）
15	本を読まない若者にどうアプローチすれば本に触れてくれるのか	藤岡宏章氏 （岩手県立図書館 館長）
16	食育の取り組みについて	戸鎖悠子様 （鵜飼保育園）
17	弓道を海外に普及させるためにはどうしたらいいか	松尾牧則氏 （筑波大学准教授）
18	狭い居住空間の中で住み心地の良いインテリアのあり方とは	湯目俊彦氏 （公益社団法人インテリア産業協会東北支部）
19	大槌のような過疎地域に必要な医療とは何か	藤澤盛秀氏 （公益社団法人地域医療振興協会）

c アカデミック・テーマスピーチ

活動のまとめとして、５分間のスピーチを実施した。ディスカッションを通して自分が探究してきた問いがどのように深まり、今後の進路等にどのように活かしていきたいかを発表した。

【生徒の感想】

・アカデミック・ディスカッションは、マイプロの延長かつ自分の進路に向けての活動だったので、とても探究のやりがいがありました。専門家の方にお話を聞いて、自分の知りた

いことを知ることができたので良かったです。友達のディスカッションは、自分のテーマと共通するところを探すことで、参考にできてとても学びになりました。

・自分の意見を伝えることは簡単だけど、相手の方のお話に対して瞬時に質問を練り出すことが大変でした。また、友達のディスカッションでは、自分が進んで質問したり、積極的なサポートができなかったのが悔しかったです。

・自分が知りたいことを幅広く知ることができ、自分の武器になるものが多く得られたと感じました。

・たくさんの専門家の方からお話を聞く貴重な時間でした。自分のディスカッションでは、他の人よりも多くの学びを吸収することができ、自分の進路の幅が広がったり、進路学習の材料になると思いました。友達のディスカッションでは、自分が調べていない分野の方々の話を聞くことができ、自分の分野と似ている部分もあると思いました。

（イ）キャリアコース：「２０４０年の仕事と私」

a　職業インタビュー

自らが将来なりたい職業の先輩に対してインタビューを行った。インタビューは、仕事の内容やその職業に求められる力などについての質問を中心に行い、自らがその職業に就くために、残りの高校生活で身につけたい力について考えた。

【職業・事業所一覧】

No	職種	ご協力いただいた事業所名 （フリーランスの方は氏名）
1	公務員	大槌町役場企画財政課
2	製造業	千田精密工業株式会社
3		株式会社エノモト
4		ＳＭＣ株式会社
5	建築土木	株式会社青紀土木
6	食品加工	株式会社グランバー東京ラスク
7	看護師	岩手県立大槌病院
8	介護士	社会福祉法人堤福祉会特別養護老人ホーム三陸園
9	事務職	大槌郵便局
10	パティシエ	菓子工房エルマーノ
11	調理師	割烹岩戸
12	美容師	株式会社花耶
13	デザイナー	内海　沙樹様

b　身につけるべき力と自身の経験を紐づける

職業インタビューでの学びをもとに今後身につけるべき力をまとめ、その力をこれまでの経験の中でどの程度身につけてきたのかを振り返った。また、現状と理想のキャップを考え、力を身につけるために自身が取り組むことの目標設定を行った。

c　最終発表会「2040 年の仕事と私」

活動のまとめとして５分間のプレゼンテーションを作成し、校内で発表会を行った。

【生徒の感想】

・自分の就きたい職業で必要とされる力についてインタビューした結果、事前に考えていた仮説と違っていた部分が多数あったけど、どの話もどんな職業にも共通して役に立つ内容でとても参考になりました。また、「思いを具現化する」というアドバイスがとても響いたので、これからの進路選択においても自分だけで満足せずに他人の意見や評価を取り入れながら考えていくことを大切にしたいと思いました。

・職業インタビューでは、はじめは緊張して上手く質問することが出来るか心配だったのですが、講師の方が優しく声を掛けてくださり、沢山のお話を聞くことが出来てとても貴重な時間になりました。私は人と関わるのがあまり得意ではないのですが人の役に立つことをするのは好きなので、進路を考える際の職業の選択肢を増やしていきたいと思いました。

・自分の将来就きたい職業に就いている人に話を聞くのは初めての経験だったのですが、丁

寧に質問に答えてくださって嬉しかったです。相手の要望をしっかりと掘り下げて話を聞くことや、客観的な視点や柔軟性が必要だということは私も事前に考えていましたが、今回の授業を通してその必要性を再確認できました。今回いただいたたくさんの学びを、具体的に進路につなげていきたいです。

【後期（11 月～２月）】

（ウ）コース共通：「私が 18 年間で身につけた大槌（ハンマー）と知見」

a　オープンダイアログ

発表の内容を考えるにあたり、18 年間で身につけた力について対話を通して確認する「オープンダイアログ」というワークを行った。このワークは、生徒３名～４名と、教員１名を加えたグループをつくり、その中から選んだ対象者１名の長所や身に付けた強み等を、残りの生徒と教員で対話を行って見つけるという内容である。自己理解だけではなく、他者からの視点で自分にどのような強みがあるのかを理解することを目的として行った。

ｂプレゼンテーションの作成

学校コンセプトである「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」になぞらえ、自身が 18 年間で身につけた「大槌（ハンマー）＝強み」をテーマとした５分程度のプレゼンテーションを作成した。どの生徒も、最終発表会に向けて一生懸命作成を進めた。

ｃ　最終発表会

最終発表会は、生徒１人ひとりが 18 年間の人生で最もお世話になった方を自ら招待する形式で実施し、マイプロジェクトでお世話になった地域の方、幼稚園・小学校・中学校でお世話になった先生、保護者の方等、約 50 名の方に集まっていただいた。会の中盤では、生徒とゲストがお互いに手紙を交換し合う時間も設け、中には生徒と関わった当時を回想し、成長した姿に思わず涙を流すゲストもおり、参加者がそれぞれの思い出や未来に思いを馳せる温かい場となった。

d　発表資料の公開

生徒それぞれの「18 年間で身につけた“大槌（ハンマー）”」を紹介する資料とショートムービーを作成し、大槌高校ホームページでの公開や、地域の文化交流施設、ショッピングセンターでの展示を行った。

【生徒の感想】

・オープンダイアログの活動では、自分だけでは思いつかないことを知ることができました。緊張したけれども、同じグループの人が自分の強みを真剣に話してくれてとても嬉しかったです。

・プレゼンを作るのは大変だったけど、これまで経験してきたことを振り返ることで自分の成長や変化を実感できました。高校３年生の就職活動の経験が自分にとってはとても大きかったことが分かりました。進路も無事に決定してやり遂げることができたので、卒業後

も頑張っていきたいです。

・発表会に招待する方を考える時に誰を呼ぶのかすごく迷いました。私から声をかけても迷惑かもしれないなと思っていたけど、勇気を持って連絡することができました。発表会では、これまでの感謝の気持ちや成長した姿を伝えることができてとても良かったです。ゲストの方は涙ぐみながら喜んでくれて、勇気を持って誘って良かったと思いました。

・最後の発表会は、18 年間の人生の中で 1 番幸せな日になりました。これまで生きてきて良かったと思える時間を過ごせて嬉しかったです。

・これまで自分は色んな人に迷惑をかけてばっかりでしたが、今日の発表会を通して、感謝の気持ちが溢れてきました。親や先生方、地域の方がどれだけ自分のことを支えてくれていたのかを実感することができました。こういう授業を作ってくれてありがとうございました。

【最終発表会に参加したゲストの感想】

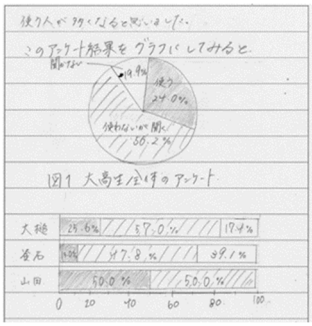
・自分の想いを言葉に乗せて人に伝えるということはとても難しいことだと思いますが、生徒たちが自分なりに見つめたり、悩んだり、迷ったりしながら歩んできたことがとても伝わってきて感動しました。この子たちは、震災やコロナでたくさんの困難を経験してきた子たちでしたが、こうして前を向いている姿を見れたのが何よりも嬉しかったです。

・生徒たちの様子を見て、大槌高校で取り組んできた「マイプロジェクト」は間違いなかったのだと実感しました。大槌高校での学びによって素晴らしく成長した生徒たちの姿を見ることができ、素敵な時間を過ごさせてもらいました。

・「生徒たち自身が直接声をかければこれだけの人が集まる」というのが、何よりの大槌（ハンマー）だと感じました。これだけの地域の方に愛されているということ自体が素晴らしいと思います。10 代の頃からこうした関係性を築くことができるのはとても大切だと思います。私自身も良い学びをいただきありがとうございました。

・生徒たちの発表を聞いて、大槌高校のコンセプト「大会を航る”大槌（ハンマー）”を持とう」の意味がとてもよく分かりました。どの子も、ここで身に付けた力を使って強く生きていってほしいです。生徒たちの成長する姿は、私にとって本当に宝物です。ここまで成長を見守り関わってくださった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

（２）ひょっこり表現島（国語）

実施学年・単位数	２年生　２単位
設置理由	地域言語を用い地域独特の表現を深く理解することにより、より多彩な「伝える力」「表現力」を育成する手立てとするために設置する。
科目目標	地域言語を深く学び、身近な言葉を大切にしながら表現力を高める。
今年度の取組	 ［他地域の生徒へのインタビュー調査］全国で使用される方言を調査し、学級内で共有をし合うことを通して自らの地域以外で使われている方言と比較しながら、自らが無意識に活用している方言について理解を深めた。また、調べた内容と実際の方言の運用のされ方の差異を調べるため、他地域の方言を調べ、日常的に使うか、どのようなニュアンスで使うかなどをオンライン交流を通して調査した。 ［方言地図の作成］「かばすぐねえ」「こっこ」など、一人一語身近な方言の使用の有無、使用場面について全校に調査をし、居住地域による差異があるかどうかを分析し、レポートにまとめ、文化祭で展示した。今後、保護者や他地域の学校にも調査の協力を仰いだり、年配の方などにヒアリングをしたりすることを通して、より正確な地域ごと、地区ごとの方言地図の作成を目指す。 
現状の成果と課題	［成果］身近な言語で普段意識しない方言の特徴を捉え、親しもうとする態度が身についた。（生徒の変化例：調べてみると意外と知らない方言がたくさんあり面白かった等）オンライン交流を通して、インターネットで調べた情報と実際の現地での運用のされ方の差異に気付くことができた。また、小学生という異なる世代に対し、わかりやすく伝えることを意識し交流をした。 ［課題］全校生徒のアンケートから、「その方言を使わないがほかの人が話しているのを聞く」という意見が散見されたため、世代ごとの差を見るため、保護者等にも協力を仰ぎたい。
今後の取組	・今後、地域の年配の方などのヒアリングを通し、疑問に思ったことを異なる年代に質問する力を醸成させるとともに、活動を通して学んだことをレポートや発表を通して表現する機会を作っていく。

（３）まちづくり探究（地歴公民）

実施学年・単位数	３年生　２単位
設置理由	複雑さが増す社会においては、正解が一つに定まることはなく、様々な課題（矛盾・葛藤・衝突）が生まれる。課題の解決は容易ではないが、それぞれの主張の背景を理解しながら、解決の方向性を探る力が求められる。
科目目標	身近なテーマから地域や日本・世界にある課題に関する背景やそれぞれの主張を理解し、想像することができるようにすることで、人間関係の調整や人間関係に係る課題の解決能力向上を図る。
今年度の取組	４月から６月は、チームとして話し合うために必要なことや資料の読み解き方を学んだ。「都会と田舎どちらに住みたいか」「マンガの原作をアニメ化すべきか」というテーマで話し合った。６月から９月は、デザイン思考の方法を学んだ。地域の事業者の方をゲストに呼び、作業する際使いやすいペンケースのプレゼンを行った。 ９月から 11 月は、学校の課題について考えた。問題と思われることを各グループでデータやアンケート等の根拠をもとに主張した。最終的に校長へのプレゼンを行った。11 月から３月は、町の課題について考えていく予定。
現状の成果と課題	［成果］データを活用して自らの主張を行うなど、根拠の提示ができるようになってきた。また、反論を想定しそれに対しての対策まで考えられるようになってきている。 ［課題］当事者意識の醸成にはまだ課題がある。主張や反論は挙げることができるが、深く説明を求められると立ち往生してしまう。自らをその立場に立たせ、問題を深く考える意欲を育てたい。
今後の取組	・今後は、民主主義制度や人権など社会的な課題とからめながら、身近な町の課題や復興に関わること、意思決定に関わることを考える機会をつくっていきたい。

（4）くらしｍａｔｈ（数学）

実施学年・単位数	２年生　２単位
設置理由	生活をする中で気づかないうちに様々な分野で数学の知識が活用されている。具体的に身近な分野で活用されている数学を学ぶことにより、数学の良さを認識するために設置する。また数学を用いて、暮らしの中にある課題を発見し、解決しようとする態度の育成を目指す。
科目目標	身の回りにある事象について数学を用いて考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用して生活に役立てる態度を育てる。
今年度の取組	 前期は、「根拠を持って判断をする」ための演習として、客観的なデータや数値に基づいて判断をする場面（生活費、コマづくり等）や、最適解がみつからない問に対して複合的な視点で考える場面（求人票の比較，宝くじの分析等）を設定し、学習した。また、データを用いて探究するための基礎技能として、グラフの活用・アンケート調査・Excel の扱い方について学んできた。 後期は、グループ毎に自由に問を立て、統計・データを活用し考察するレポート課題に取り組んでいる。「大槌町と塩分摂取量」「大槌町の遊ぶ場所と満足度」「大槌で再開された祭への参加」などの町と関連したテーマでレポートを進める班も出てきている。
現状の成果と課題	［成果］主観的で単一的視点になりがちであった多くの生徒の記述内容が、徐々に客観的・複合的な視点に変化が見られる傾向にある。 ［課題］今年度の環境においては短いサイクルの学習では，「考察する」段階まで思考を深めることは難しく、自由度の高い学び（自由なアイデアを生かす）・探究（深く考える場面設定）・多数のジャンルに触れる（短いサイクル）の３点の両立は実現できていない。 ※今年度後期は長期間の時間を確保することで、自由度の高いテーマ活動で深い考察をすることを目指している。
今後の取組	・地域に目を向けることができているグループに対して、よりよい地域のデータを得ることができるようサポートする。 ・集めたデータから知見を得ること、そして次の問い・調査に繋げる部分の伴走をする。

（５）おおつちラボ（理科）

実施学年・単位数	３年生　３単位
設置理由	既習内容を相互に関連付けることで、より深い理解の定着を目指し設置する。特に課題解決学習に取り組むことで問題に対しての仮説設定や、実験・検証方法を自ら模索することで、科学的課題への関心、理解を深める。
科目目標	理科的、科学的な学習内容を活用し、身近な理科的、科学的課題を自ら仮説を立て、実践を行うことで、各分野の知識を統合し自ら課題を解決する姿勢を身につけさせる。
今年度の取組	「新型コロナウイルス」や「カーボンニュートラル」など、現在話題になっている時事問題をテーマに、論文や信憑性のある情報サイトから得られるデータを活用する方法を学んだ。また、日常生活の中での「便利/不便」に感じることや「不思議」なことから、調べてみたいテーマを設定し、仮説を立て、調べ学習によって検証する過程を学んだ。調べ学習で設定した仮説に対しては、自分なりに実験等を行い、データを活用した検証を行う過程を学んだ。地域課題と SDGs に注目し、17 項目ある中の気候変動、再生可能エネルギー、海・陸の生態系等の理科的な到達目標に特化して調査を行った。まずは、国・大手企業・岩手県の取り組みの現状把握を行った。その後、町内のフィールドワーク（ジオ視察、岩手大槌サーモン養殖視察）を行い、取り組みの成果と課題について学んだ。今後は、自分の町をより持続可能にしていく視点を提案するため、他の自治体や企業で取り組んでいる前例を論文等から見つけ、効果の有無を検証し卒論ポスターとしてまとめる。
現状の成果と課題	[成果]調べて終わるのではなく、根拠となるデータを使って検証まで行うことで、自分の言葉で論理立てて理科的に説明する力が身についた。また SDGs についての理解が深まり、地域の持続可能性に対する課題についても自分なりに調べる力がついた。 [課題]疑問や違和感を持つ土台となる理科的な知識不足があり、テーマを自分で見つけることが難しい生徒が多い。大槌という地域には考えるテーマが多くあるが、自分なりに興味を見出し、噛み砕くことができるような基礎的な学力が必要となる。
今後の取組	・郷土財エリアなどを題材に、ビオトープづくりに携わることで自然保全について考える機会となる授業を組みたいと考えている。 ・次年度以降も担当教員の専門性を活かしたフィールドワーク先を検討していく（新山高原の風力発電施設、製造業種の地元企業等）

（６）Ｅパスポート（英語）

実施学年・単位数	２年生　３単位
設置理由	コミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰの学習内容を相互に関連付け、教科書では扱わないテーマや場面を設定し、発展的な英語によるコミュニケーション能力を育成するために設置する。特に４技能（「読む」「書く」「聞く」「話す（発表・やりとり）」）をバランス良く取り入れ、多様な場面での実践的な英語コミュニケーション能力のさらなる育成を重視する。
科目目標	コミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰの学習内容を統合させ、多様な場面における実践的な英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。
今年度の取組	前期で身につける資質能力をジブンゴト・課題設定と置き、ネイティブスピーカーの故郷であるカナダ・トロントに「留学をしてみる」ことをテーマに、E-Mail 文章、ホストファミリーへの自己紹介や持参するお土産やハンコを紹介するというプレゼンの作成を行った。生徒たちは自分の伝えたいことを英語にして、英語を母語にする人にもコミュニケーションを取ることができることを学んだ。 後期は異文化理解をテーマにハロウィーンや感謝祭について学んだ。今後はクリスマスやバレンタイン、イースター（復活祭）について学習して、理解を深めたい。また、外国人に大槌や大槌高校を紹介する英文の作成も検討している。また大槌で生活する外国人を授業に招き身近にいる外国人について意識をする機会を設ける。
現状の成果と課題	[成果]将来的に外国の方とコミュニケーションを取ろうとするために必要な学び続をけるために基礎的な態度を身につけることができた。また道案内や入国審査などの身近なテーマを題材にすることでより真剣に取り組む様子が見られた。インタビューテストやミニプレゼンテーションも実施できた。 [課題]基礎的な英語コミュニケーション能力を育成するため、４技能のバランスをどのように取るかが課題である。またどの教員が担当しても一定の成果があがる継続性についても今後対応していく必要がある。
今後の取組	・外国人に向けた大槌の紹介映像や HP の英語版製作に取り組みたい。また、より身近なテーマについて英語で表現する機会を設けたい。 ・コラボスクールとの協力を得ながら姉妹都市であるフォートブラックとの連携を図りたい。

４　目標の進捗状況、成果、評価

（１）資質・能力調査について

◆調査概要

本校ではすべての教育活動を通して「大槌高校魅力化構想骨子」で設定した目指す人物像の３つの柱である「自立」「協働」「創造」を育んでいく。令和２年度より、目指す人物像について９つの資質・能力の育成指標を設定し、年２回(５月・２月)の４件法アンケートにより調査を行っている。

※アンケート結果の詳細は【表２】参照

	No	資質・能力	内容
自立	1	ジブンゴト	三陸地域の復興や自身の未来に向けた意志をもつ
	2	課題設定	問題解決のために取り組むべき課題を明らかにする
	3	自己調整	学習の過程や結果をもとに、学び方を自律的に調整する
協働	4	共感・相互理解	価値観や意見の違いをみとめ、受け入れる
	5	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む
	6	リーダーシップ	他者に対して前向きに働きかけ、動かす
創造	7	レジリエンス	困難な状況でもプラスに考えて乗り越える
	8	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす
	9	チャレンジ	失敗をおそれず積極的に物事に取り組む

◆調査結果

令和４年度も、５月に１回目の調査、２月に２回目の調査を実施した。５月から２月までの約１年間の変化を、【表１】に示した。

【表１】アンケート結果（概要）：資質・能力別集計　※４件法での調査

	G	H	I	A	B	C	D	E	F
	B/A	C/D	E/F	R4 年 5 月	R5 年 2 月	R4 年 5 月	R5 年 2 月	R4 年 5 月	R5 年 2 月
	1 学年	2 学年	3 学年	1 学年		2 学年		3 学年	
ジブンゴト	99%	100%	98%	3.06	3.02	2.91	2.91	3.10	3.03
課題設定	97%	98%	100%	3.04	2.95	3.02	2.97	3.08	3.10
自己調整	101%	102%	102%	2.79	2.81	2.70	2.76	2.82	2.87
共感相互理解	100%	99%	101%	3.38	3.40	3.37	3.35	3.34	3.37
OneTeam	97%	98%	99%	3.09	3.00	2.95	2.88	2.96	2.94
リーダーシップ	102%	103%	99%	2.91	2.96	2.84	2.93	2.96	2.93
レジリエンス	100%	100%	106%	2.66	2.65	2.76	2.76	2.74	2.89
価値創造	100%	98%	97%	2.85	2.84	2.84	2.78	2.90	2.81
チャレンジ	105%	99%	101%	2.69	2.82	2.77	2.74	2.77	2.80
平均値	100%	100%	100%	2.94	2.94	2.91	2.90	2.96	2.97

【表２】アンケート結果（詳細）：資質・能力別集計　※４件法での調査

			質問項目	G 1学年 B/A	H 2学年 D/C	I 3学年 F/E	A 1学年 R4年5月時点	B 1学年 R5年2月時点	C 2学年 R4年5月時点	D 2学年 R5年2月時点	E 3学年 R4年5月時点	F 3学年 R5年2月時点	通番
自立（意志がある）	ジブンゴト	1	よりよい地域づくりのために自分から積極的に活動したいと思う	91%	99%	98%	3.05	2.78	2.59	2.56	2.79	2.72	1
		2	地域に対して貢献したいと思う	98%	97%	100%	3.03	2.98	2.79	2.70	3.02	3.02	2
		3	自分の将来を真剣に考えている	103%	101%	97%	3.29	3.40	3.21	3.24	3.44	3.34	3
		4	未来は自分で変えていけると思う	102%	103%	96%	2.88	2.93	3.04	3.13	3.15	3.02	4
				99%	100%	98%	3.06	3.02	2.91	2.91	3.10	3.03	
	課題設定	5	日頃から疑問や問題意識を持って生活している	99%	95%	98%	2.71	2.69	2.82	2.69	2.88	2.83	5
		6	理想と現実のギャップを認識できる	92%	103%	100%	3.33	3.07	3.14	3.24	3.29	3.28	6
		7	問題が起きたとき、解決までの手順を考えることができる	101%	97%	99%	2.91	2.93	2.95	2.87	3.02	3.00	7
		8	問題が起きたとき、原因をつきとめようとする	97%	97%	104%	3.21	3.10	3.16	3.07	3.15	3.28	8
				97%	98%	100%	3.04	2.95	3.02	2.97	3.08	3.10	
	自己調整	9	学習している内容を他の物事と結びつけて考える	101%	102%	101%	2.67	2.71	2.63	2.69	2.81	2.85	9
		10	自分に合った学習方法を探そうとする	105%	106%	100%	2.93	3.09	2.86	3.02	3.02	3.02	10
		11	最後まであきらめずに理解しようとする	102%	100%	107%	3.03	3.09	2.88	2.89	2.90	3.11	11
		12	計画を立ててから学習に取り組む	95%	100%	98%	2.52	2.38	2.45	2.44	2.54	2.49	12
				101%	102%	102%	2.79	2.81	2.70	2.76	2.82	2.87	
協働（仲間とともにある）	共感相互理解	13	相手の話を聞くときは、何を伝えたいのか考えながら聞く	98%	97%	102%	3.33	3.28	3.20	3.09	3.19	3.26	13
		14	常に相手の立場に立って理解しようとしている	97%	98%	100%	3.34	3.26	3.29	3.21	3.21	3.21	14
		15	頑張っている人を見ると応援したくなる	99%	104%	99%	3.53	3.48	3.55	3.68	3.56	3.53	15
		16	自分と違う意見も受けいれることができる	107%	99%	103%	3.33	3.57	3.45	3.43	3.40	3.49	16
				100%	99%	101%	3.38	3.40	3.37	3.35	3.34	3.37	
	One Team	17	集団の中で自分の役割を見つけることができる	97%	99%	101%	2.93	2.84	2.84	2.81	2.92	2.96	17
		18	相手の話を受けて質問をすることができる	92%	94%	99%	3.17	2.91	3.00	2.83	2.94	2.91	18
		19	周囲と良い関係をつくるために、行動や発言に気をつけている	98%	102%	96%	3.50	3.41	3.27	3.34	3.35	3.23	19
		20	自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる	103%	95%	101%	2.76	2.84	2.68	2.55	2.63	2.66	20
				97%	98%	99%	3.09	3.00	2.95	2.88	2.96	2.94	
	リーダシップ	21	安易に他人の意見に流されない	101%	106%	99%	2.79	2.83	2.68	2.83	2.88	2.85	21
		22	困難な状況でも前向きな発言をすることができる	104%	98%	95%	2.64	2.74	2.68	2.62	2.83	2.70	22
		23	互いの個性を尊重し協力することができる	105%	104%	98%	3.33	3.48	3.18	3.32	3.38	3.30	23
		24	目的を達成するために、相手を説得することができる	98%	103%	104%	2.86	2.79	2.84	2.94	2.77	2.87	24
				102%	103%	99%	2.91	2.96	2.84	2.93	2.96	2.93	
創造（逆境からつくり出す）	レジリエンス	25	難しい仕事を与えられても、そこに楽しさを見出せる	100%	106%	103%	2.62	2.62	2.73	2.89	2.83	2.91	25
		26	いまの苦労は将来役に立つと考えている	103%	101%	107%	3.02	3.10	3.27	3.30	3.21	3.43	26
		27	自分はプラス思考である	95%	96%	108%	2.55	2.43	2.48	2.38	2.35	2.53	27
		28	困難なときほど頑張れる	100%	97%	105%	2.45	2.45	2.55	2.47	2.56	2.70	28
				100%	100%	106%	2.66	2.65	2.76	2.76	2.74	2.89	
	価値創造	29	自分には発想力がある	97%	93%	97%	2.66	2.59	2.70	2.51	2.69	2.60	29
		30	自分なりの視点で物事を見ることができる	98%	98%	96%	3.17	3.12	3.07	3.02	3.13	3.00	30
		31	問題を解決するために創意工夫することが得意である	102%	104%	97%	2.59	2.64	2.61	2.70	2.73	2.66	31
		32	過去の経験を問題解決に活かすことができる	101%	97%	97%	2.98	3.00	2.98	2.89	3.06	2.98	32
				100%	98%	97%	2.85	2.84	2.84	2.78	2.90	2.81	
	チャレンジ	33	頑張れば道は開けると考えている	105%	101%	97%	3.02	3.17	3.14	3.17	3.15	3.04	33
		34	失敗を恐れず行動することができる	104%	98%	105%	2.48	2.59	2.52	2.47	2.46	2.57	34
		35	何事にも積極的に取り組むことができる	107%	94%	105%	2.59	2.78	2.71	2.55	2.67	2.79	35
		36	自ら行動して現状を変えようとする	103%	103%	100%	2.66	2.74	2.70	2.77	2.81	2.81	36
				105%	99%	101%	2.69	2.82	2.77	2.74	2.77	2.80	

◆考察

３年生は、第１回目の調査でも全体的に高い数値が出ていたが、「レジリエンス」等の粘り強く行動する項目においてのさらなる上昇が見られた。進路実現や難易度の高い探究活動の取組が、これらの結果に影響していると推測する。１・２年生は、上昇した項目と減少した項目に二分している。様々な経験を積み重ねることで前向きな意欲が醸成され、自信を高めていることがうかがえる。探究活動等を通して、地域の課題に向き合うことが多くあったため、課題の複雑さや難しさを理解し、自己評価にもマイナスの影響が出たと推測する。

［３年生］

３年生は、「レジリエンス」の項目で大きな上昇が見られた。特に「いまの苦労は将来役に立つと考えている」や「困難なときほど頑張れる」などの項目が上昇したことは、目標の進路実現に向けて努力を重ね、成功体験を得たことが影響していると考えられる。また、探究活動においても難易度の高い課題に取り組んだことで、自信をつけることができ、自己評価にもプラスの影響を与えたと考えられる。その他に、自己調整の「最後まであきらめずに理解しようとする」やチャレンジの「失敗を恐れずに行動する」など、粘り強く行動し続けることに関連する項目がどれも高い数値となっている。第１回の調査では「チャレンジ」の項目が低くなっていたが、２回目の調査では上昇した。３年生は、自分の在りたい姿や経験を通して身につけた力を自分なりの言葉でまとめ、表現する活動を重ねてきた。それらを地域の方やお世話になった方々に聞いてもらうという経験を通して、次のチャレンジへの意欲も醸成されていると考えられる。

［２年生］

２年生は、「自己調整」の項目に上昇が見られた。特に、「自分に合った学習方法を探そうとする」が上昇しており、これまで以上に自己に向き合いながら粘り強く学習を進めていこうという意欲が見られる。また、「学習している内容を他の物事と結びつけて考える」にも、やや上昇が見られた。就職・専門学校進学希望者は、学校設定科目を中心に探究的な学びに積極的に取り組んでいることから、教科で学んだことを地域社会等の課題と結びつけながら問いを深めることができていると考えられる。共感・相互理解の「頑張っている人を見ると応援したくなる」の項目は、１・３学年と比較しても高い数値となった。今年度のマイプロジェクトは、全員が個人で探究を進めていたことから、お互いの頑張っている姿を尊重し、高めあう雰囲気づくりができていると考えられる。一方で、価値創造の「自分には発想力がある」や、チャレンジの「何事にも積極的に取り組むことができる」などは低い数値となった。１年次より高度な学習を行うことにより、難しさを感じている生徒や、「理想の自分」と「今の自分」との間にギャップを感じてしまう生徒が一定数いると考えられる。様々なチャレンジを自信に繋げ、生徒自身が自己の能力を認識できるようにサポートしていきたい。

［１年生］

１年生は、１回目の調査で低い数値となっていた「チャレンジ」の項目に大きな上昇が見られた。特に「何事にも積極的に取り組むことができる」の項目の数値が高いことから、高校生活で多くの生徒が新しいことにチャレンジをし、少しずつ自信に繋げることができたと考えられる。

また、「共感・相互理解」における、「自分と違う意見を受け入れることができる」という項目に大きな上昇が見られた。高校生活で新しい人間関係を構築する中で、環境への適応能力を高め、他者を受け入れる気持ちや姿勢が身についてきたと推測できる。一方で、「課題設定」の項目は、１回目の調査より低い数値となった。特に、１年生の総合的な探究の時間では、地域課題の分析や解決に向けた方策を考える活動が中心であり、地域課題の複雑さや解決の

難しさを理解したことにより、自己認識が低くなったと考えられる。（例年、１年生はこのような傾向が見られ、学年進行により回復している）

（２）ルーブリックを活用した評価について

校内での探究活動の評価はルーブリックを活用して行っている。評価表を作成するにあたり、大槌高校魅力化構想において策定した人物像の柱「自立・協働・創造」をベースにして三陸みらい探究で育てたい資質・能力を６つ設定した。その上で、６つの資質・能力に関する具体的な評価項目を単元別に作成し、評価を行っている。

学習指導要領解説において示される「生徒に個人として育まれる良い点や進捗の状況などを積極的に評価することや、それを通して生徒自身も自分の良い点や進捗の状況に気づくようにすることも大切である」という指針に則り、項目別の段階評価にあわせ、文章による評価も生徒に知らせている。

大槌高校 三陸みらい探究ルーブリック評価表（R3～）

【三陸みらい探究で育成する資質・能力の設定】
・「大槌高校魅力化構想骨子」にて設定した目指す人物像をもとに、三陸みらい探究で育成する資質・能力を６つに細分化した。
・それぞれの資質・能力を３段階でレベル分けし、それぞれ１～３学年終了時の目標状態として記述語を設定した。
・それぞれの記述語について、評価項目の観点を２つずつ設定した。

育てたい人物像	資質・能力		内容	レベル１ （１学年終了時の目標状態）		レベル２ （２学年終了時の目標状態）		レベル３ （３学年終了時の目標状態）	
				高校生としての自覚		社会の一員としての自信		進路実現・社会人としての自立	
				記述語	評価項目の観点（R4）	記述語	評価項目の観点（R4）	記述語（R3）	評価項目の観点（R4）
自立 （意志がある）	1	**ジブンゴト**	三陸地域の復興や自身の未来に向けた前向きな意志	三陸地域の復興や身の回りの出来事を自分に関係のあることと考え、自分の意見を持つことができる。	①自分や地域の理想像について、具体的な考えを述べることができる。 ②活動を人任せにせず、みずからすすんで取り組むことができる。	社会や未来を良くしようとする意欲を持ち、志を自信をもって語ることができる。	①自分が関心を持ったテーマについて、自信を持って語ることができる。 ②自分が関心をもったテーマに取り組む意義を説明することができる。	社会の一員として自覚をもち、よりよい未来にしようとする意志を持てる。	①関心領域を通じて、社会にどんな貢献をしたいか説明することができる。 ②自分の強み（大槌）を活かして社会にどんな貢献をしたいかを語ることができる。
	2	**課題設定力**	課題解決や自己実現のために、取り組むべき課題を明らかにする力	理想の姿と現状のギャップから問題を見つけ、取り組むべき課題を考えることができる。	①「理想の姿」と「現状」を考えて、解決したい課題を挙げることができる。 ②課題が生じる原因を論理的に考えることができる。	解決策の実行を繰り返しながら、より重要な新しい課題を設定することができる。	①実行したことを振り返り、次に取り組む課題を設定することができる。 ②課題の設定と解決に向けたアクションを繰り返しながら仮説を深めることができる。	課題に対する関心や周辺知識への理解を深め、熱意をもって取り組みたいテーマを見つけられる。	①関心領域について、解決されるべき課題を説明することができる。 ②卒業後に取り組みたいテーマを自分なりに考え、自信を持って語ることができる。
協働 （仲間とともにある）	3	**共感・相互理解**	価値観や意見の違いをみとめ、前向きに受け容れる力	自分と異なる他者の意見や価値観を尊重し、受け入れることができる。	①相手に安心感を与える聞き方をすることができる。 ②相手の考えの背景を想像することができる。	対立する意見や価値観を取り入れ、その背景を想像することができる。	①他者のテーマに関心を持ち、学び合う雰囲気づくりに貢献することができる。 ②立場や考えが違う人にとってもプラスになるようなアイデアを出すことができる。	価値観の違いをふまえ、身の回りの他者や社会全体がよりよくなるための考えを持つことができる。	①多様な関心領域を持つ仲間と共に学び合う環境づくりに貢献できる。 ②対話を通して、他者の強みを見つけることに貢献できる。
	4	**One Team**	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力	自分の考えをはっきりと伝え、所属する集団の中で協力して活動することができる。	①他のメンバーの活動に関心を持ち、手伝ったり質問したりすることができる。 ②視線を相手の方へ向け、聞き取りやすい声で話すことができる。	自分の意見や考えをわかりやすく発信し、身近な他者を巻き込んで活動することができる。	①周囲や外部の協力を得て活動を行うことができる。 ②全体の流れをストーリーにして、相手に伝わるよう熱心に語ることができる。	自分の考えを論理性と熱意をもって伝え、多様な立場の人の中で活動することができる。	①自分の考えを伝えながら、多様な立場の人と議論することができる。 ②自分の考えを熱意をもって論理的に説明することができる。
創造 （逆境から創り出す）	5	**レジリエンス**	困難な状況をプラスに考え、前向きに挑戦し続ける力	与えられた環境の中で、ひるまず前向きに物事に挑戦することができる。	①自分の考えをあきらめずに言葉することができる。 ②過去の出来事や体験とつなげて自分の考えを持つことができる。	全く新しい環境や、思い通りにいかない状況でも、物事に前向きに挑戦することができる。	①物事が思い通りに進まないとき、打開策を考えて実行できる ②新しい環境にみずから飛び込んでいくことができる。	困難な体験もプラスに捉え、未知の環境へ飛び込むことを楽しむことができる。	①関心領域の専門家や職業のプロに自らアプローチしていくことができる。 ②今までの経験と自分の強み（大槌）との関連を具体的に話すことができる。
	6	**価値創造**	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力	すでにある事例を参考にしながら、課題の解決策を考えることができる。	①オリジナリティのある解決策を考えることができる。 ②解決策の効果について具体的に説明することができる。	集めた情報を活用して、自分なりの新しい視点やアイデアを持つことができる。	①自分なりの視点で解決策を考えることができる。 ②取り組みを振り返り、学びや発見を自分の言葉で表現することができる	既存の枠組みにとらわれず考え、誰かの役に立つ知見を発信することができる。	①関心領域の未来を見据え、理想の姿を自分なりの言葉で説明することができる ②他者にとって役立つ知見を、オリジナリティのある言葉で語ることができる。

Ⅲ　参　考　資　料

◇目標設定シート

◇魅力化評価システムによる評価結果

【様式第1別添3】

ふりがな	いわてけんりつおおつちこうとうがっこう
学校名	岩手県立大槌高等学校

令和５年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値（　年度）
a	（成果目標） 魅力化評価システムによる調査より本校の育成したい資質能力に合致する9項目を抜粋し平均値化したものに対する肯定的解答の割合						単位：
	本事業対象生徒：			72%	73%	74%	卒業時80%
	本事業対象生徒以外：	72%	69%				
	目標設定の考え方：主体性、協働性、探究性、社会性に関わる学習が幅広く行われているかを見る。						
b	（成果目標） 魅力化評価システムによる調査において「生徒の行動実績」の平均値の肯定的解答の割合						単位：
	本事業対象生徒：			60%	62%	65%	卒業時70%
	本事業対象生徒以外：	62%	58%				
	目標設定の考え方：生徒が高校生活の中で資質・能力をどの程度発揮できているかを見る。						
c	（成果目標） 地域社会学科への入学人数						単位：
	本事業対象生徒：			60人	61人	62人	R6　61人
	本事業対象生徒以外：	（　61人　）	（　60人　）				
	目標設定の考え方：地域社会学科への入学人数は実合格人数を見る。						

＜調査の概要について＞
1．生徒を対象とした調査について

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
全校生徒数（人）	153	167	178	181	183
本事業対象生徒数			178	181	183
本事業対象外生徒数			0	0	0

【様式第１別添3別添】

ふりがな	いわてけんりつおおつちこうとうがっこう
学校名	岩手県立大槌高等学校

令和５年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
変更理由シート

変更箇所　　本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）　c

変更理由　　申請時、小学科地域社会学科（仮）1学級、小学科普通科1学級を設置予定であったが、
小学科普通科を設置した場合、科目選択の余地があまりないため、2学級をともに小学科
地域社会学科（仮）とし、進学・就職に関係なく科目選択の自由度を高める方向で進めることとした。
これにともなって成果目標を地域社会学科への進学から地域社会学科への入学人数とした。

学科検討の報告

令和５年１月 23 日

岩手県立大槌高等学校　副校長

1　検討過程の変遷

① 現行

大学科	普通科	
小学科	普通科	
コース	文理コース	教養コース

文理コース（大学）、教養コース（就職・専門）の選択のみで科目選択の余地はない。

② R4.4 月申請時

普通科	
普通科	地域社会学科（仮）

普通科での科目選択の余地はあまりない。地域社会学科で科目選択と探究的な学びを充実させる。

③ R5.1 月検討時

普通科
地域社会学科（仮）

進学・就職に関係なく科目選択と探究的な学びを充実させる。コースを設けず進学・就職の科目選択群を設けることも検討。

①高校再編計画の対象となり、進学・就職のより充実をはかるためコース制を導入（H13 年）。

②・普通科…進学に特化（現行課程よりさらに一般選抜に対応した高度な学びを検討）する。

・地域社会学科（仮）…探究中心の学びを充実させる。

普通科・地域社会学科の２つでより特色ある学びの実現をめざす。

⇒カリキュラム WG（ワーキンググループ）で検討し生徒ワークショップ・アンケート・ヒアリングを実施

●生徒から（アンケート・ヒアリング）
・50%以上が、「希望に合わせた科目選択制」を望む。
・「学校独自の特徴的な学び」（５教科の総合探究：地域みらい学を含む）希望者が多い。
特に文理コース所属生徒が探究的な科目を選択してより地域の学びを深めたいという希望が多い。
※参考）教養コースから県立大学総合政策学部へ１名合格（R5 入試）
●保護者から（学校評価アンケート）
・推薦入試を考え、探究的な学びが充実する教養コースからの進学をできるようにしてほしい。
●教員から（ワーキンググループでの検討）
・一般選抜受験ほぼなし(R5…0 名、R4…1 名)
⇒進学希望者にも探究的な学びを充実させ、学校推薦型・総合型選抜へ特化、一般選抜は個別対応。

先生方の積極的な活動も踏まえ、カリキュラム WG で深く検討

科目選択の自由度を高めた教育課程編成の方向へ

③地域社会学科（仮）単独学科…より探究科目の充実を図る。

…進学・就職に関係なく科目選択の自由度を高め、学びたい学びを選ぶ（自分の学びを作る）。

→コンソーシアム会議(12 月)で説明、理解を得る。

2　今後について

・学科編成委員会（1/26）⇒県教委への報告⇒地域社会学科単独の教育課程編成（３月初旬）

■科目選択の自由度が高まれば教員のコマ数増→小規模校の人員でどう編成するか、加配は可能か？

□教育課程に盛り込んでいきたい内容…社会教育の単位化（防災学習・東大海洋研での活動等）

キャリア学習→デュアルシステム導入、復習科目の充実、授業のオンライ履修）

・普通科改革を進めるにあたり、先生方の思いを取り入れ、自発的な活動を促していく　。

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム　組織診断ポートフォリオ

高校名	岩手県立大槌高等学校												
年度	2022年度												
回答者数	生徒・学生	161	（内訳）	1年生	57	2年生	56	3年生	48	4年生	0	5年生	0
	（昨年度）	140	（内訳）	1年生	59	2年生	44	3年生	37	4年生	0	5年生	0
	大人	26	（内訳）	教職員	23	（昨年度）		大人	24	（内訳）	教職員	21	

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

How to read　結果の読み取り方

このポートフォリオでは、以下の５側面、４領域、３軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

５つの側面を ➡ 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤ウェルビーイング」の５つから把握しています。

４つの領域から ➡ 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の４つの資質・能力に関する領域に分類しています。

３つの軸で ➡ 上記のデータを「時間軸（前年度からの伸び）」「学年軸（学年による違い）」「地域軸（他地域との比較）」の３つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

【割合（%）】 ➡ 各項目で「４．あてはまる」「３．どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合

【平均】 ➡ 「あてはまらない＝１」～「あてはまる＝４」の回答の平均値

【他地域】 ➡ 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値

【回答上昇者の割合】 ➡ （個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示）前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

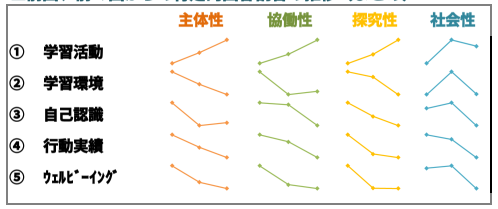
Summary　総括表

■今回の結果（まとめ）

	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	2	3	3	2
② 学習環境	3	3	3	3
③ 自己認識	2	3	2	2
④ 行動実績	2	2	2	1
⑤ ウェルビーイング	1	3	3	1

※肯定的回答割合が50%未満=1,50~65%=2,65%~80%=3,80%以上=4

■前回、前々回からの肯定的回答割合の推移（まとめ）



※左から前々回、前回、今回。非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

■強み・伸びしろ

	強み；肯定的回答割合が最も高い項目	伸びしろ：肯定的回答割合が最も低い項目
① 学習活動	88.2% 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	47.8% 日本や世界の課題の解決方法について考える
② 学習環境	83.9% 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	59.6% 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
③ 自己認識	86.3% 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	40.4% 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい
④ 行動実績	64.6% 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	31.7% 地域社会などでボランティア活動に参加した
⑤ ｳｪﾙﾋﾞｰｲﾝｸﾞ	76.4% 学校の一員だと感じている	44.1% 日本の将来は明るいと思う

■総合的な生徒の満足度

	満足度
生活全般の満足度（0~10で6以上）	47.8%
前回、前々回からの推移	
高校に対する満足度	72.0%
前回、前々回からの推移	
この学校を中学生におすすめできる	71.4%

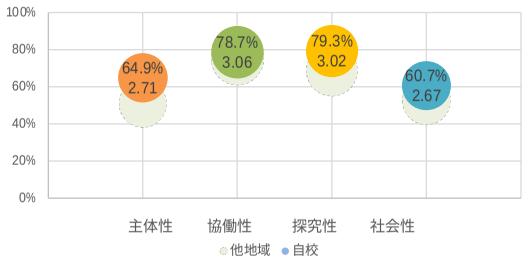
■総合的な大人の満足度

	満足度
この地域を将来暮らす場所として おすすめできる	50.0%
この学校に関わってよかった	88.5%
この学校を中学生におすすめできる	80.8%

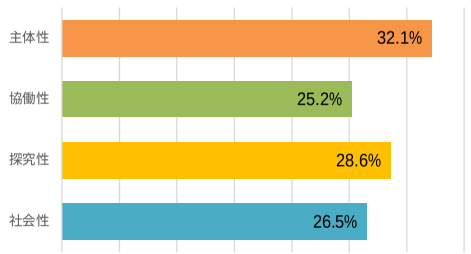
※非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

①学習活動（明示的なカリキュラム）

■今回の結果



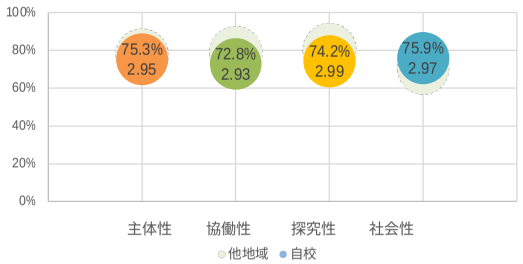
■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）



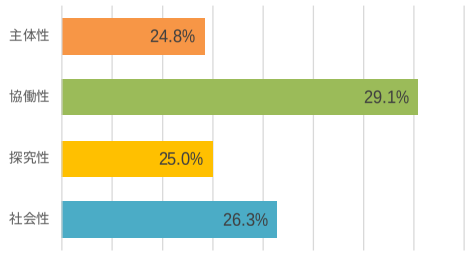
※上段の数値（%：縦軸）が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）

■今回の結果

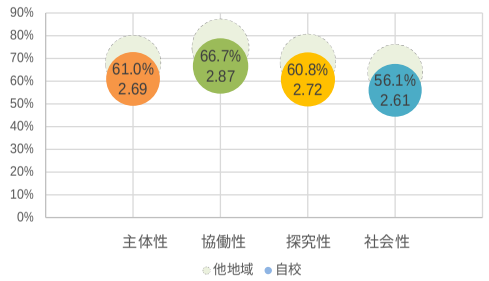


■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）

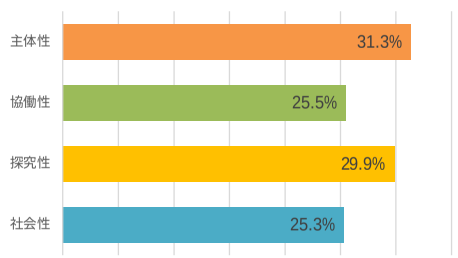


③自己認識（資質・能力の主観的認識）

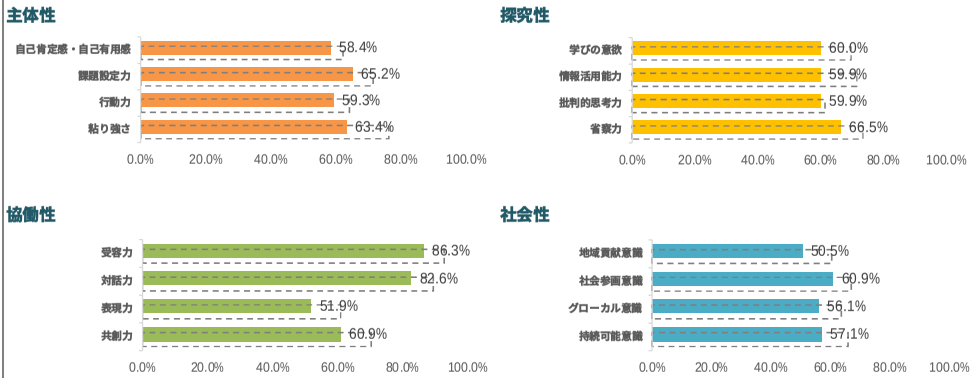
■今回の結果



■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）



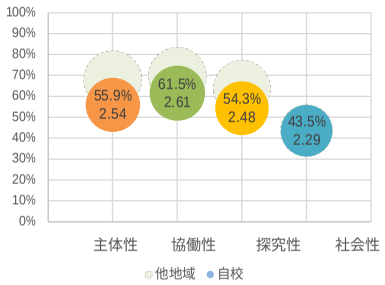
■今回の結果（詳細）



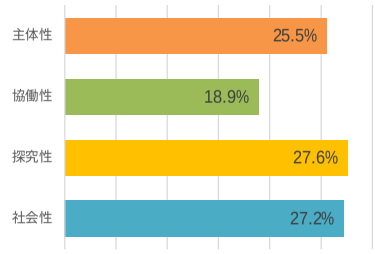
※点線は他地域における肯定的回答割合

④行動実績（資質・能力の発揮）

■今回の結果

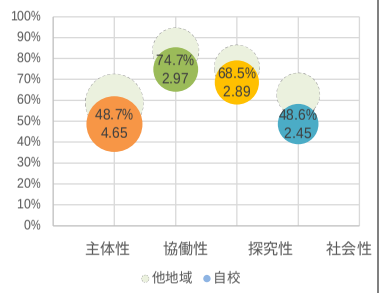


■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）

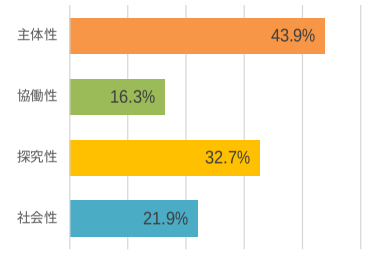


⑤ウェルビーイング

■今回の結果



■前回調査時からの変化（回答上昇者の割合）



【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

- 自校の強みや課題、それを増進／克服するための、協働のあり方は？
- 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ていそうか？
- 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か？

【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

- 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は？
- 前回からの変化は？その要因として、何が考えられそうか？（学習活動、学習環境と関連付けて）
- 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は？そのために必要な「次の一手」は？

【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

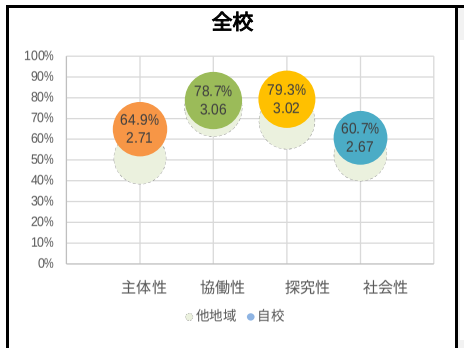
- 生徒に期待する具体的な行動は？
  生徒の自己認識との関連は？
- 具体的な行動を促すような、学習活動や
  学習環境づくりはできているか？

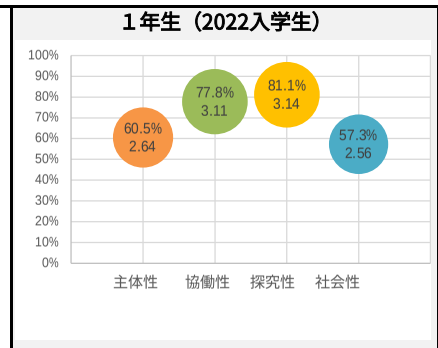
【ウェルビーイング】読み取り・検討の視点

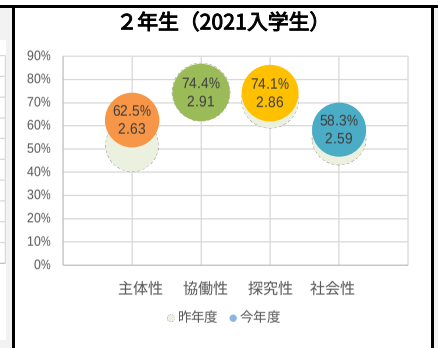
- 学習環境や大人のあり方との関係は？
  生徒の資質能力との関連は？
- ウェルビーイングの観点を学校目標に
  どう位置づけていくか？

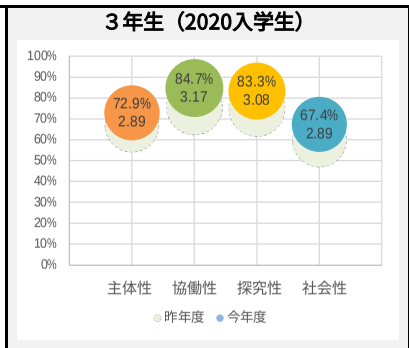
Details 詳細結果

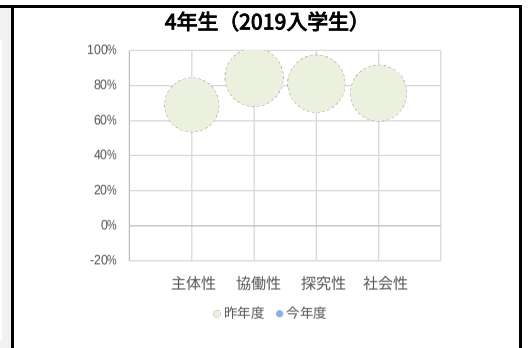
① 学習活動（明示的なカリキュラム）









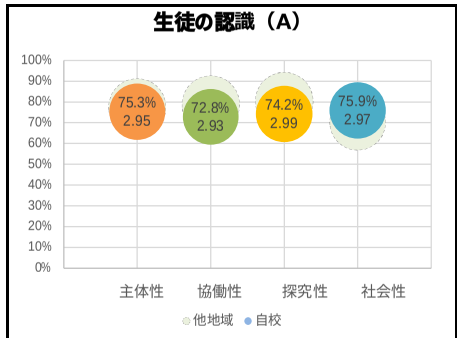


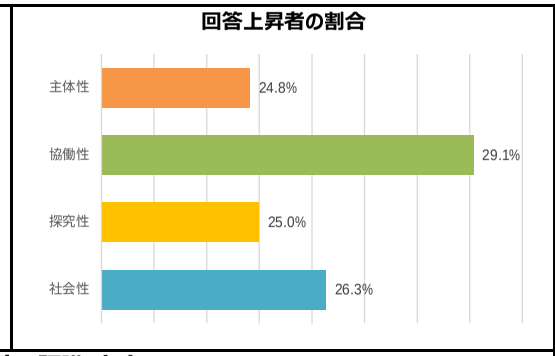
● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

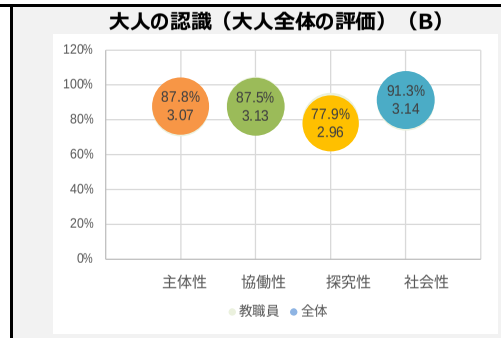
	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合(%)
主体性に関わる学習活動	**64.9%**	**3.84**	**13.95**	**60.5%**	**8.83**	**19.02**	**62.5%**	**10.81**	**33.6%**	**72.9%**	**5.87**	**31.41**	**-**	**-**	**-**	**-**
5 自主的に調べものや取材を行う	73.3%	9.72	6.45	73.7%	16.06	24.63	71.4%	13.80	32.7%	75.0%	11.36	25.94	-	-	-	-
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	56.5%	-2.05	21.45	47.4%	1.61	13.41	53.6%	7.81	34.5%	70.8%	0.38	36.87	-	-	-	-
協働性に関わる学習活動	**78.7%**	**1.06**	**3.57**	**77.8%**	**3.20**	**6.08**	**74.4%**	**-0.17**	**23.6%**	**84.7%**	**8.96**	**13.02**	**-**	**-**	**-**	**-**
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	81.4%	-1.49	-2.79	73.7%	-7.67	-7.45	78.6%	-2.78	23.6%	93.8%	14.20	12.62	-	-	-	-
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	88.2%	4.63	-0.23	94.7%	9.99	15.49	80.4%	-4.39	14.5%	89.6%	10.04	10.34	-	-	-	-
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	66.5%	0.03	13.73	64.9%	7.29	10.20	64.3%	6.66	32.7%	70.8%	2.65	16.12	-	-	-	-
探究性に関わる学習活動	**79.3%**	**4.35**	**10.62**	**81.1%**	**9.95**	**25.01**	**74.1%**	**2.92**	**31.8%**	**83.3%**	**8.33**	**27.20**	**-**	**-**	**-**	**-**
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	77.6%	11.21	14.26	84.2%	24.89	38.93	69.6%	10.32	43.6%	79.2%	15.53	33.88	-	-	-	-
11 話し合った内容をまとめる	79.5%	-0.50	1.85	80.7%	-0.65	22.21	76.8%	-4.57	23.6%	81.3%	3.98	22.76	-	-	-	-
12 活動、学習のまとめを発表する	84.5%	8.76	19.37	84.2%	16.41	27.61	80.4%	12.56	32.7%	89.6%	7.77	32.98	-	-	-	-
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	75.8%	-2.08	7.00	75.4%	-0.83	11.29	69.6%	-6.63	27.3%	83.3%	6.06	19.18	-	-	-	-
社会性に関わる学習活動	**60.7%**	**-1.24**	**8.06**	**57.3%**	**2.51**	**10.14**	**58.3%**	**3.53**	**28.5%**	**67.4%**	**7.51**	**20.19**	**-**	**-**	**-**	**-**
14 地域の魅力や資源について考える	65.8%	1.55	12.01	64.9%	5.59	4.53	58.9%	-0.39	25.5%	75.0%	15.91	14.62	-	-	-	-
15 地域の課題の解決方法について考える	68.3%	1.89	12.82	63.2%	3.84	17.87	69.6%	10.32	30.9%	72.9%	4.73	27.63	-	-	-	-
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	47.8%	-7.17	-0.63	43.9%	-1.90	8.01	46.4%	0.67	29.1%	54.2%	1.89	18.32	-	-	-	-

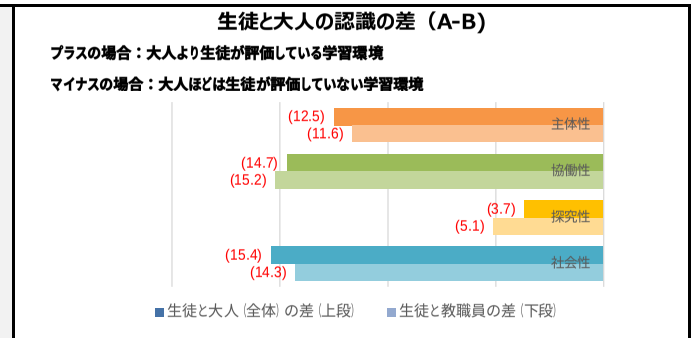
※3年生、4年生の「回答上昇者率」は「上昇率」シートで確認いただけます

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）









● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

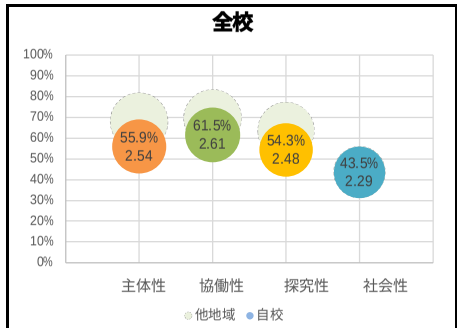
	生徒の認識（A） 全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	全体 回答上昇者	学年別 1年生	2年生	3年生	4年生	大人の認識（大人全体の評価）（B） 全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	うち教職員 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	生徒と大人の認識の差（A-B） 生徒と大人（全体） 差(pt)	生徒と教職員 差(pt)	大人質問項目
主体性に関わる学習環境	**75.3%**	**-1.92**	**-2.17**	**24.8%**	**72.1%**	**77.2%**	**76.8%**	**-**	**87.8%**	**-3.08**	**87.0%**	**-5.26**	**-12.5pt**	**-11.6pt**	
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	68.3%	-8.11	-10.30	19.4%	64.9%	73.2%	66.7%	-	80.8%	-6.73	78.3%	-7.45	-12.4pt	-9.9pt	5 失敗を恐れずに挑戦することができている
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	83.9%	-1.15	-7.09	22.4%	84.2%	85.7%	81.3%	-	96.2%	4.49	95.7%	5.18	-12.3pt	-11.8pt	13 挑戦する人に対して、応援することができている
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	82.6%	8.32	1.40	33.7%	82.5%	80.4%	85.4%	-	92.3%	4.81	91.3%	0.83	-9.7pt	-8.7pt	6 目標や当事者意識を持って挑戦することができている
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	59.6%	-1.80	2.77	30.6%	54.4%	60.7%	64.6%	-	-	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	65.2%	-9.07	1.44	20.4%	56.1%	67.9%	72.9%	-	73.1%	-14.42	69.6%	-20.91	-7.9pt	-4.3pt	7 自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	83.9%	0.28	-5.50	22.4%	84.2%	87.5%	79.2%	-	92.3%	-3.53	91.3%	-3.93	-8.5pt	-7.5pt	14 誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている
35 周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	82.6%	-	-3.62	-	78.9%	83.9%	85.4%	-	92.3%	-	95.7%	-	-9.7pt	-13.0pt	22 子どもの自己決定を尊重できている
36 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	76.4%	-	3.54	-	71.9%	78.6%	79.2%	-	-	-	-	-	-	-	-
協働性に関わる学習環境	**72.8%**	**0.86**	**-5.94**	**29.1%**	**71.9%**	**77.7%**	**68.2%**	**-**	**87.5%**	**1.04**	**88.0%**	**1.14**	**-14.7pt**	**-15.2pt**	
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	70.8%	0.09	-8.61	31.6%	70.2%	75.0%	66.7%	-	88.5%	0.96	91.3%	5.59	-17.7pt	-20.5pt	8 人と違うこと、異なった意見を尊重している
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	70.2%	-1.96	-11.37	27.6%	70.2%	75.0%	64.6%	-	92.3%	4.81	91.3%	5.59	-22.1pt	-21.1pt	9 ありのままの個人を尊重している
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	76.4%	-2.17	-6.04	30.6%	73.7%	82.1%	72.9%	-	84.6%	-2.88	87.0%	-3.52	-8.2pt	-10.6pt	15 自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	73.9%	7.48	2.25	26.5%	73.7%	78.6%	68.8%	-	84.6%	1.28	82.6%	-3.11	-10.7pt	-8.7pt	16 立場や役割を超えて協働している
探究性に関わる学習環境	**74.2%**	**-5.95**	**-6.10**	**25.0%**	**68.4%**	**79.9%**	**74.5%**	**-**	**77.9%**	**-3.37**	**79.3%**	**-2.80**	**-3.7pt**	**-5.1pt**	
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	72.7%	-0.19	-9.10	30.6%	71.9%	78.6%	66.7%	-	69.2%	-5.77	69.6%	-6.63	3.4pt	3.1pt	10 本音を気兼ねなく発言できる
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	70.8%	-12.05	-7.20	25.5%	57.9%	78.6%	77.1%	-	73.1%	2.24	73.9%	2.48	-2.3pt	-3.1pt	11 地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	80.1%	-5.59	-6.16	25.5%	78.9%	83.9%	77.1%	-	92.3%	-3.53	91.3%	-3.93	-12.2pt	-11.2pt	17 生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている
31 お互いに問いかけあう機会がある	73.3%	-5.99	-1.94	18.4%	64.9%	78.6%	77.1%	-	76.9%	-6.41	82.6%	-3.11	-3.6pt	-9.3pt	18 お互いに問いかけあう機会がある
社会性に関わる学習環境	**75.9%**	**-3.35**	**5.66**	**26.3%**	**71.9%**	**77.7%**	**78.6%**	**-**	**91.3%**	**3.85**	**90.2%**	**-0.26**	**-15.4pt**	**-14.3pt**	
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	76.4%	-2.89	-5.87	25.5%	78.9%	75.0%	75.0%	-	88.5%	-3.21	87.0%	-3.52	-12.1pt	-10.6pt	21 地域で生徒を育てるという意識を持っている
25 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	80.1%	-2.02	3.40	29.6%	78.9%	82.1%	79.2%	-	92.3%	0.64	91.3%	-3.93	-12.2pt	-11.2pt	19 生徒の関心に合わせて、機会を提供できている
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	77.6%	-0.93	13.41	29.6%	68.4%	82.1%	83.3%	-	88.5%	0.96	87.0%	-3.52	-10.8pt	-9.3pt	20 地域の人や課題などにじかに触れる機会を持てている
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	69.6%	-7.58	11.70	20.4%	61.4%	71.4%	77.1%	-	96.2%	16.99	95.7%	9.94	-26.6pt	-26.1pt	12 自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持てている

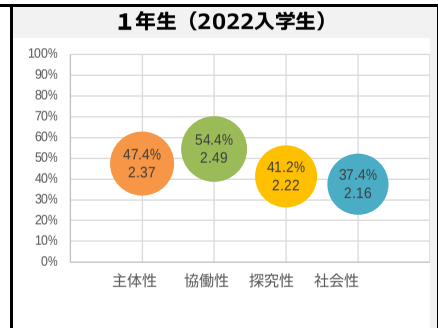
③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

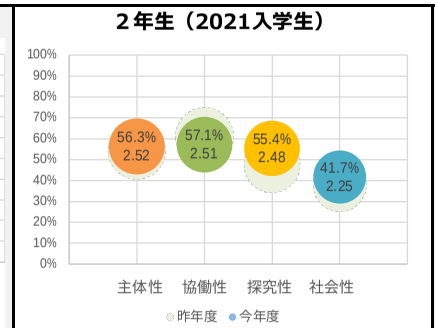
● 10pt以上の増加　● 0～10ptの増加　● 減少

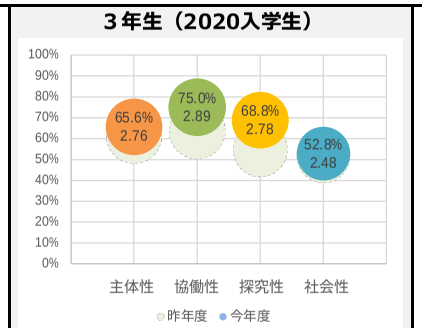
	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる自己認識	**61.0%**	0.64	-7.05	**55.4%**	3.09	-1.22	64.0%	11.73	32.5%	64.3%	1.30	7.68	-	-	-	-
【自己肯定感・自己有用感】	58.4%	1.60	-3.79	52.6%	3.48	11.12	66.1%	16.92	33.6%	56.3%	-2.84	14.74	-	-	-	-
51 自分にはよいところがあると思う	63.4%	4.78	-9.29	59.6%	5.41	14.37	69.6%	15.41	30.9%	60.4%	1.33	15.13	-	-	-	-
52 私は、自分自身に満足している	53.4%	-1.58	1.72	45.6%	1.55	7.88	62.5%	18.43	36.4%	52.1%	-7.01	14.35	-	-	-	-
【課題設定力】	65.2%	0.22	-6.23	64.9%	7.29	2.65	62.5%	4.87	27.3%	68.8%	2.84	6.49	-	-	-	-
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	65.2%	0.22	-6.23	64.9%	7.29	2.65	62.5%	4.87	27.3%	68.8%	2.84	6.49	-	-	-	-
【行動力】	59.3%	2.89	-4.84	51.8%	7.69	-4.85	63.4%	19.33	41.8%	63.5%	-2.37	6.94	-	-	-	-
40 目標を設定し、確実に行動することができる	56.5%	-0.62	-6.93	45.6%	-3.54	-10.99	62.5%	13.35	41.8%	62.5%	-1.14	5.90	-	-	-	-
53 自分で計画を立てて活動することができる	62.1%	6.40	-2.75	57.9%	18.91	1.29	64.3%	25.30	41.8%	64.6%	-3.60	7.98	-	-	-	-
【粘り強さ】	63.4%	-2.36	-12.92	57.0%	-4.00	-11.85	63.4%	2.38	24.5%	70.8%	8.33	1.97	-	-	-	-
37 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	64.0%	-2.45	-16.33	59.6%	-6.45	-10.16	62.5%	-3.60	18.2%	70.8%	14.02	1.02	-	-	-	-
47 忍耐強く物事に取り組むことができる	62.7%	-2.27	-9.51	54.4%	-1.55	-13.54	64.3%	8.35	30.9%	70.8%	2.65	2.91	-	-	-	-
協働性に関わる自己認識	**66.7%**	-5.01	-8.14	**64.6%**	-4.93	1.92	70.4%	0.87	25.5%	65.0%	-2.73	2.36	-	-	-	-
【受容力】	86.3%	-2.24	-6.42	89.5%	-2.05	4.57	89.3%	-2.24	21.8%	79.2%	-2.65	-5.74	-	-	-	-
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	86.3%	-2.24	-6.42	89.5%	-2.05	4.57	89.3%	-2.24	21.8%	79.2%	-2.65	-5.74	-	-	-	-
【対話力】	82.6%	-3.11	-6.76	86.0%	-5.56	6.72	85.7%	-5.81	21.8%	75.0%	2.27	-4.25	-	-	-	-
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	82.6%	-3.11	-6.76	86.0%	-5.56	6.72	85.7%	-5.81	21.8%	75.0%	2.27	-4.25	-	-	-	-
【表現力】	51.9%	-9.92	-9.06	43.0%	-12.10	-7.02	56.3%	1.17	27.3%	57.3%	-4.07	7.29	-	-	-	-
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	57.1%	-9.29	-9.66	52.6%	-10.08	3.57	60.7%	-2.00	27.3%	58.3%	-7.58	9.28	-	-	-	-
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	46.6%	-10.56	-8.45	33.3%	-14.12	-17.61	51.8%	4.33	27.3%	56.3%	-0.57	5.31	-	-	-	-
【共創力】	60.9%	0.16	-9.41	61.4%	7.17	12.35	64.3%	10.05	29.1%	56.3%	-5.11	7.19	-	-	-	-
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	60.9%	0.16	-9.41	61.4%	7.17	12.35	64.3%	10.05	29.1%	56.3%	-5.11	7.19	-	-	-	-
探究性に関わる自己認識	**60.8%**	-3.25	-7.75	**54.4%**	-2.35	-5.01	61.2%	5.72	33.0%	68.0%	0.81	8.93	-	-	-	-
【学びの意欲】	60.0%	-1.15	-9.63	51.5%	-3.34	-5.14	61.9%	7.10	37.6%	68.1%	2.15	11.45	-	-	-	-
38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	57.1%	3.57	-13.86	54.4%	5.23	3.44	57.1%	7.99	40.0%	60.4%	5.87	9.47	-	-	-	-
61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	54.7%	-5.34	-3.93	40.4%	-10.50	-4.93	53.6%	2.72	36.4%	72.9%	2.46	27.63	-	-	-	-
67 学習を通じて、自分がしたいことが増えている	68.3%	-1.68	-11.10	59.6%	-4.76	-13.94	75.0%	10.59	36.4%	70.8%	-1.89	-2.75	-	-	-	-
【情報活用能力】	59.9%	-4.70	-11.60	52.6%	-4.15	-10.58	58.9%	2.15	30.0%	69.8%	6.16	6.58	-	-	-	-
45 情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	67.1%	-2.20	-10.82	57.9%	-6.51	-11.92	69.6%	5.24	30.9%	75.0%	9.09	5.19	-	-	-	-
46 勉強したものを実際に応用してみる	52.8%	-7.20	-12.38	47.4%	-1.78	-9.24	48.2%	-0.94	29.1%	64.6%	3.22	7.98	-	-	-	-
【批判的思考力】	59.9%	-5.65	-1.45	55.3%	3.06	4.50	58.9%	12.71	34.5%	66.7%	-9.28	16.23	-	-	-	-
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	47.2%	-5.65	1.36	40.4%	3.06	4.50	50.0%	12.71	34.5%	52.1%	-9.28	16.23	-	-	-	-
54 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	72.7%	-	-4.25	70.2%	-	-	67.9%	-	-	81.3%	-	-	-	-	-	-
【省察力】	66.5%	-4.25	-6.99	64.9%	-1.19	-3.01	67.9%	1.76	23.6%	66.7%	-3.79	-1.26	-	-	-	-
48 自分を客観的に理解することができる	66.5%	-4.25	-6.99	64.9%	-1.19	-3.01	67.9%	1.76	23.6%	66.7%	-3.79	-1.26	-	-	-	-
社会性に関わる自己認識	**56.1%**	-5.36	-8.06	**48.8%**	-6.05	-5.40	57.3%	2.45	28.3%	63.3%	-0.17	9.06	-	-	-	-
【地域貢献意識】	50.5%	-7.58	-9.96	42.7%	-7.03	-8.25	48.2%	-1.50	26.1%	62.5%	1.14	11.56	-	-	-	-
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	40.4%	-8.91	-4.51	31.6%	-5.71	-6.16	35.7%	-1.57	32.7%	56.3%	1.70	18.51	-	-	-	-
56 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	55.3%	-4.01	-9.48	47.4%	-3.48	-5.46	57.1%	6.30	27.3%	62.5%	-1.14	9.67	-	-	-	-
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	55.9%	-9.81	-15.90	49.1%	-11.89	-13.14	51.8%	-9.23	18.2%	68.8%	2.84	6.49	-	-	-	-
【社会参画意識】	60.9%	-3.42	-6.14	50.3%	-7.90	-2.54	66.7%	8.47	29.7%	66.7%	1.52	13.84	-	-	-	-
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	47.8%	-3.60	-0.85	35.1%	1.19	3.01	53.6%	19.67	34.5%	56.3%	-7.39	24.17	-	-	-	-
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	63.4%	-6.65	-8.09	56.1%	-11.66	-8.01	67.9%	0.06	29.1%	66.7%	-1.52	2.52	-	-	-	-
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	71.4%	0.00	-9.49	59.6%	-13.23	-2.62	78.6%	5.69	25.5%	77.1%	13.45	14.82	-	-	-	-
【グローカル意識】	56.1%	-4.61	-7.56	52.6%	-4.43	-4.60	56.5%	-0.51	24.8%	59.7%	-2.40	2.49	-	-	-	-
59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	57.8%	-8.66	-11.73	50.9%	-10.14	-11.39	57.1%	-3.87	21.8%	66.7%	-1.52	4.40	-	-	-	-
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	67.7%	-0.16	-2.00	70.2%	-1.01	0.36	67.9%	-3.33	25.5%	64.6%	-1.33	-5.23	-	-	-	-
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	42.9%	-5.00	-8.96	36.8%	-2.14	-2.78	44.6%	5.66	27.3%	47.9%	-4.36	8.29	-	-	-	-
【持続可能意識】	57.1%	-6.07	-8.81	50.0%	-4.24	-6.60	58.0%	3.80	34.5%	64.6%	-1.33	7.98	-	-	-	-
60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	49.7%	-8.17	-8.70	43.9%	-0.21	-5.20	50.0%	5.93	34.5%	56.3%	-11.93	7.19	-	-	-	-
68 自分の将来について明るい希望を持っている	64.6%	-3.98	-8.92	56.1%	-8.27	-8.01	66.1%	1.66	34.5%	72.9%	9.28	8.77	-	-	-	-

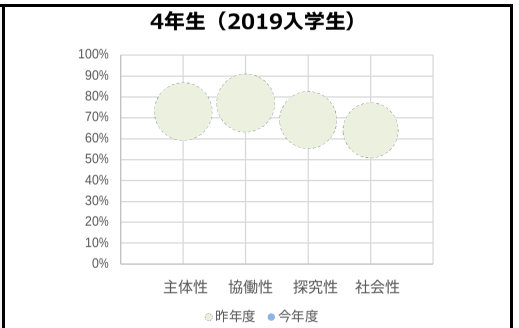
④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）











● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる行動	**55.9%**	-5.53	-12.05	**47.4%**	-6.87	-10.18	**56.3%**	2.01	26.4%	**65.6%**	4.26	8.08	-	-	-	-
71 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	64.6%	-0.40	-13.50	63.2%	2.14	-0.99	57.1%	-3.87	18.2%	75.0%	11.36	10.85	-	-	-	-
74 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	47.2%	-10.65	-10.60	31.6%	-15.88	-19.36	55.4%	7.90	34.5%	56.3%	-2.84	5.31	-	-	-	-
協働性に関わる行動	**61.5%**	-4.58	-8.02	**54.4%**	-6.63	-4.10	**57.1%**	-3.87	17.3%	**75.0%**	11.36	16.51	-	-	-	-
72 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	58.4%	-5.19	-10.44	52.6%	-3.30	-0.20	50.0%	-5.93	20.0%	75.0%	13.64	22.17	-	-	-	-
73 友人などから、意見やアドバイスを求められた	64.6%	-3.98	-5.59	56.1%	-9.96	-8.01	64.3%	-1.82	14.5%	75.0%	9.09	10.85	-	-	-	-
探究性に関わる行動	**54.3%**	-1.01	-9.32	**41.2%**	-6.23	-5.94	**55.4%**	7.90	26.4%	**68.8%**	14.20	21.58	-	-	-	-
75 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	56.5%	0.09	-8.79	42.1%	-8.74	-6.95	58.9%	8.08	27.3%	70.8%	16.29	21.78	-	-	-	-
76 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	52.2%	-2.11	-9.85	40.4%	-3.72	-4.93	51.8%	7.72	25.5%	66.7%	12.12	21.38	-	-	-	-
社会性に関わる行動	**43.5%**	-5.57	-0.13	**37.4%**	-0.43	2.84	**41.7%**	3.81	28.5%	**52.8%**	1.26	18.19	-	-	-	-
69 いま住んでいる地域の行事に参加した	41.0%	-5.43	5.43	35.1%	-2.20	10.56	41.1%	3.78	25.5%	47.9%	0.19	23.39	-	-	-	-
70 地域社会などでボランティア活動に参加した	31.7%	-6.89	-0.53	28.1%	9.43	9.20	28.6%	9.93	30.9%	39.6%	-8.14	20.72	-	-	-	-
77 先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	57.8%	-4.38	-5.28	49.1%	-8.50	-11.25	55.4%	-2.27	29.1%	70.8%	11.74	10.46	-	-	-	-

⑤ 学習・その他

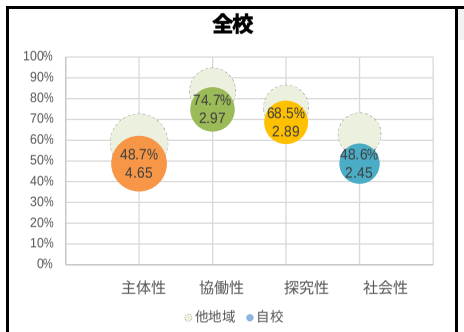
	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	割合(%)	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	差(分)	差(分)
91 平均的な学習時間 [平日]	48.88	-	-34.13	37.72	-	-	54.11	-	-	56.04	-	-	-	-	-	-
92 平均的な学習時間 [休日]	71.06	-	-70.42	61.93	-	-	69.64	-	-	83.54	-	-	-	-	-	-

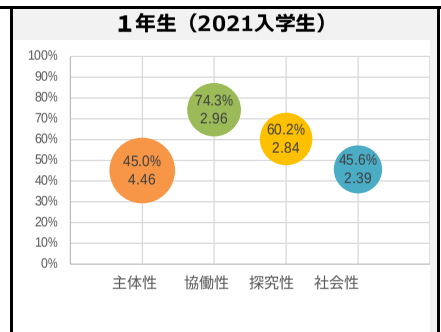
	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
90 この学校を中学生におすすめできる	71.4%	-	-7.83	66.7%	-	-	67.9%	-	-	81.3%	-	-	-	-	-	-
78 国際社会の課題解決に貢献したい	36.6%	-7.64	-19.18	28.1%	-14.30	-2.12	37.5%	-4.87	20.0%	45.8%	14.02	-	-	-	-	-
79 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	35.4%	-9.60	-16.53	22.8%	-17.87	-9.27	33.9%	-6.75	18.2%	52.1%	15.72	-	-	-	-	-
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	37.9%	-4.97	-6.97	24.6%	-9.34	1.92	41.1%	7.17	23.6%	50.0%	15.91	-	-	-	-	-

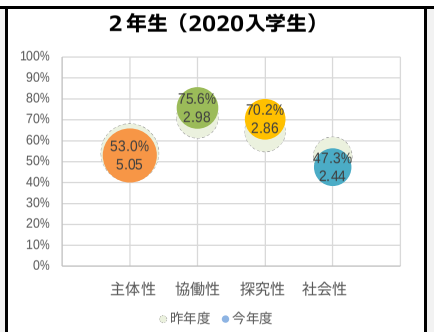
⑥ 大人向け調査

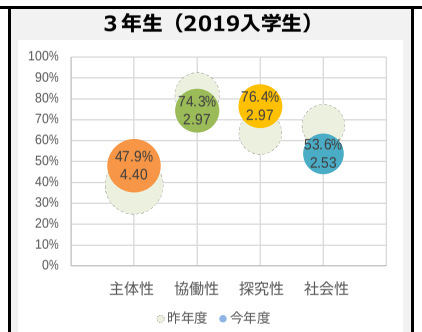
	大人向け調査（全回答平均）			大人向け調査(教職員のみ)		
	全体	昨年度との差	他地域との差	全体	昨年度との差	他地域との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)
25 この学校を中学生におすすめできる	80.8%	-	-5.12	78.3%	-	-5.90
26 この学校に関わってよかったと思う	88.5%	-	-1.83	87.0%	-	-2.10
27 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	50.0%	-	-26.72	47.8%	-	-25.69
28 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながっている	82.6%	-	19.37	82.6%	-	19.37
29 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながっている	91.3%	-	20.32	91.3%	-	20.32
30 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	91.3%	-	22.08	91.3%	-	22.08
31 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている	13.0%	-	-4.55	13.0%	-	-4.55

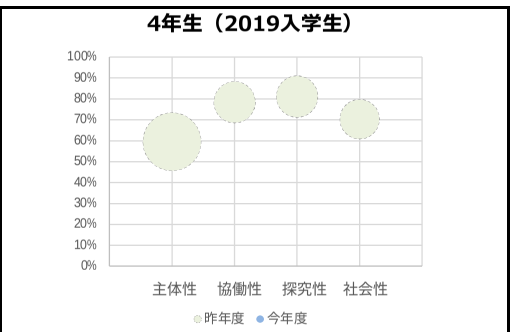
⑦ 生徒のウェルビーイング











● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

	全校				1年生（2021入学生）			2年生（2020入学生）			3年生（2019入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体		昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)		差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わるウェルビーイング	**48.7%**		-2.89	-10.08	**45.0%**	-10.38	4.24	**53.0%**	-0.67	43.6%	**47.9%**	7.20	6.21	-	-	-	-
81 今の生活全般に対する満足度（0~10で評価：6以上の割合）	47.8%		-2.89	-13.23	43.9%	-10.38	4.24	53.6%	-0.67	43.6%	45.8%	7.20	6.21	-	-	-	-
82 普段のあなたの幸福度（0~10で評価：6以上の割合）	47.2%		-	-14.64	40.4%	-	-	53.6%	-	-	47.9%	-	-	-	-	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	50.9%		-	-2.36	50.9%	-	-	51.8%	-	-	50.0%	-	-	-	-	-	-
協働性に関わるウェルビーイング	**74.7%**		-4.38	-8.89	**74.3%**	-4.52	-14.47	**75.6%**	0.24	18.2%	**74.3%**	-2.65	-1.97	-	-	-	-
66 この学校に入ってよかったと思う	72.0%		-4.38	-12.99	66.7%	-4.52	-14.47	71.4%	0.24	18.2%	79.2%	-2.65	-1.97	-	-	-	-
84 学校の一員だと感じている	76.4%		-	-9.94	80.7%	-	-	78.6%	-	-	68.8%	-	-	-	-	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	75.8%		-	-3.74	75.4%	-	-	76.8%	-	-	75.0%	-	-	-	-	-	-
探究性に関わるウェルビーイング	**68.5%**		-3.98	-7.10	**60.2%**	-8.27	-8.01	**70.2%**	1.66	34.5%	**76.4%**	9.28	8.77	-	-	-	-
68 【再掲】自分の将来について明るい希望を持っている	64.6%		-3.98	-8.92	56.1%	-8.27	-8.01	66.1%	1.66	34.5%	72.9%	9.28	8.77	-	-	-	-
86 自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	72.7%		-	-5.20	66.7%	-	-	75.0%	-	-	77.1%	-	-	-	-	-	-
87 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	68.3%		-	-7.18	57.9%	-	-	69.6%	-	-	79.2%	-	-	-	-	-	-
社会性に関わるウェルビーイング	**48.6%**		-8.99	-14.21	**45.6%**	-6.05	-9.17	**47.3%**	-1.65	26.4%	**53.6%**	-4.55	6.84	-	-	-	-
58 【再掲】将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	55.9%		-9.81	-15.90	49.1%	-11.89	-13.14	51.8%	-9.23	18.2%	68.8%	2.84	6.49	-	-	-	-
60 【再掲】地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	49.7%		-8.17	-8.70	43.9%	-0.21	-5.20	50.0%	5.93	34.5%	56.3%	-11.93	7.19	-	-	-	-
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	44.7%		-	-24.12	45.6%	-	-	41.1%	-	-	47.9%	-	-	-	-	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	44.1%		-	-8.13	43.9%	-	-	46.4%	-	-	41.7%	-	-	-	-	-	-

文部科学省指定事業

令和４年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業

（普通科改革支援事業）

研究実施報告書　第１年次

令和５年３月発行
発行者　岩手県立大槌高等学校
〒028-1131　岩手県上閉伊郡大槌町大槌 15-71-1
TEL 0193-42-3025　　FAX 0193-42-4966
学校 HP　http://www2.iwate-ed.jp/oht-h/
学校 note　https://oht-hs.note.jp/
印刷所　株式会社興版社